

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報 (A)

(11) 特許出願公表番号

特表2008-510453

(P2008-510453A)

(43) 公表日 平成20年4月10日 (2008.4.10)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
C 1 2 N 15/09 (2006.01)	C 1 2 N 15/00 Z N A A	4 B 0 2 4
C 0 7 K 7/06 (2006.01)	C 0 7 K 7/06	4 C 0 8 5
C 0 7 K 7/08 (2006.01)	C 0 7 K 7/08	4 H 0 4 5
G 0 1 N 33/53 (2006.01)	G 0 1 N 33/53 D	
A 6 1 K 39/00 (2006.01)	A 6 1 K 39/00 H	
審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 92 頁) 最終頁に続く		

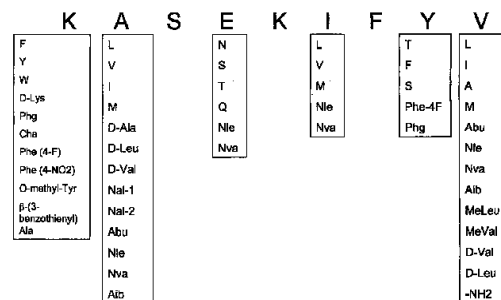
(21) 出願番号	特願2007-516810 (P2007-516810)	(71) 出願人	503208552
(86) (22) 出願日	平成17年6月17日 (2005.6.17)		マンカインド コーポレーション
(85) 翻訳文提出日	平成19年2月19日 (2007.2.19)		アメリカ合衆国 カリフォルニア 913
(86) 国際出願番号	PCT/US2005/021609		55 バレンシア ノース アベニュー
(87) 国際公開番号	W02006/009920		ペイン 28903
(87) 国際公開日	平成18年1月26日 (2006.1.26)	(74) 代理人	100100549
(31) 優先権主張番号	60/581,001		弁理士 川口 嘉之
(32) 優先日	平成16年6月17日 (2004.6.17)	(74) 代理人	100090516
(33) 優先権主張国	米国 (US)		弁理士 松倉 秀実
(31) 優先権主張番号	60/580,962	(74) 代理人	100106622
(32) 優先日	平成16年6月17日 (2004.6.17)		弁理士 和久田 純一
(33) 優先権主張国	米国 (US)	(74) 代理人	100089244
			弁理士 遠山 勉

最終頁に続く

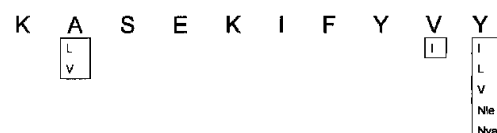
(54) 【発明の名称】 エピトープアナログ

(57) 【要約】

幾つかの実施形態は、クラス I MHC 制限 T 細胞エピトープに相当するペプチドのアナログ、及びそれらの生成方法に関する。これらのアナログは、MHC 分子と直接相互作用する残基でアミノ酸置換を含有し、改善、修正されるか、又は有用な免疫学的特性を付与される。さらに、各種置換が非標準的残基であるノルロイシン及び／又はノルバリンを含むアナログが開示される。



A: Overview of the designed nonamer analogs



B: Overview of the designed decaamer analogs

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

P 0 が、X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示し、

P 1 が、K、F、Y、W、P h g、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、M e T y r、β-(3-ベンゾチエニル)-A l a 又は D-L y s であり、

P 2 が、A、L、V、I、M、D-A l a、N a l-2、A b u、A i b、N l e 又は N v a であり、

P 3 が S であり、

P 4 が、E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

10

P 6 が、I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

P 8 が、Y、F、P h e (4-F) であり、

P 9 の P Ω が、V、I、A、N v a、M e V a l、A b u 又は V-NH₂ であるか、又は P 9 は V であり、

P 10 の P Ω が、I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P Ω+1 が、X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示すような配列から実質的に構成される単離ペプチドで、実質的に K A S E K I F Y V ではない単離ペプチド。

【請求項 2】

20

下記配列：

K {L、V、M、I、D-A l a、D-V a l、N a l-2、A i b、A b u、N l e 又は N v a} S E K I F Y V、又は

{F、P h g、Y、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、O-メチル-T r y 又は β-(3-ベンゾチエニル)-A l a} A S E K I F Y V、又は

{Y、F 又は W} {V、M 又は I} S E K I F Y V、又は

{F 又は W} L S E K I F Y V、又は

K {A、V 又は L} S E K I F Y I、又は

K {L 又は V} S E K I F Y V-NH₂、又は

F V S E K I F Y {I、A、N v a、A b u 又は M e V a l}、又は

30

F V S {Q、N l e、N v a} K I F Y V、又は

F V S E K {L、V、N l e 又は N v a} F Y V、又は

F V S E K I F {F、P h e (4-F)} V、又は

K A S E K I F Y V {I、L}、又は

K V S E K I F Y V {I、L、V 又は N l e}、又は

K L S E K I F Y V {L、V、N l e 又は N v a}

から実質的に構成される、請求項 1 に記載の単離ペプチド。

【請求項 3】

下記配列：

K {L、V、M、A b u、N l e 又は N v a} S E K I F Y V、又は

40

{F 又は P h g} A S E K I F Y V、又は

Y V S E K I F Y V、又は

F {L、V 又は I} S E K I F Y V、又は

W {L 又は I} S E K I F Y V、又は

K {V 又は L} S E K I F Y I、又は

F V S E K I F Y {I 又は N v a}

から実質的に構成される、請求項 2 に記載の単離ペプチド。

【請求項 4】

下記配列：

K {V 又は L} S E K I F Y V、又は

50

{F又はY} A S E K I F Y V、又は
F V S E K I F Y I、又は
K V S E K I F Y V

から実質的に構成される、請求項 3 に記載の単離ペプチド。

【請求項 5】

配列 K V S E K I F Y V から実質的に構成される、請求項 3 に記載の単離ペプチド。

【請求項 6】

クラス I M H C ペプチドの結合溝に対して親和性を有する、請求項 1 に記載の単離ペプチド。

【請求項 7】

前記クラス I M H C が H L A - A 2 である、請求項 6 に記載の単離ペプチド。

【請求項 8】

前記ペプチドが請求項 1 に記載のペプチドの配列を有する、クラス I M H C / ペプチド複合体。

【請求項 9】

クラス I M H C / S S X - 2₄₁₋₄₉複合体を認識する T C R と交差反応性である、請求項 8 に記載のクラス I M H C / ペプチド複合体。

【請求項 10】

前記クラス I M H C / 複合体は、H L A - A 2 / S S X - 2₄₁₋₄₉複合体である、請求項 9 に記載のクラス I M H C / ペプチド複合体。

【請求項 11】

遊離配列と結合した請求項 1 に記載のペプチド配列を含むポリペプチド。

【請求項 12】

請求項 1 に記載のペプチドを含む免疫原性組成物。

【請求項 13】

請求項 11 に記載のポリペプチドを含む免疫原性組成物。

【請求項 14】

請求項 11 に記載のポリペプチドをコードする核酸。

【請求項 15】

請求項 1 に記載のペプチドを発現するための核酸手段。

【請求項 16】

請求項 14 又は 15 に記載の核酸を含む免疫原性組成物。

【請求項 17】

請求項 12 に記載の組成物の節内投与を含む、C T L 応答を誘導、維持又は増幅させる方法。

【請求項 18】

請求項 12 に記載の組成物と免疫増強剤の節内投与を含む、クラス I M H C に制限される T 細胞応答を同調させる方法。

【請求項 19】

請求項 16 に記載の組成物の節内投与を含む、C T L 応答を誘導、維持又は同調させる方法。

【請求項 20】

クラス I M H C の結合溝に対する親和性を持つ K A S E K I F Y V 配列において 1 ~ 3 個の置換を含む単離ペプチドで、該クラス I M H C の結合溝に対して K A S E K I F Y V 配列と同様又はより強い親和性を有するペプチド。

【請求項 21】

解離の半減期が、前記クラス I M H C の結合溝からの K A S E K I F Y V 配列の解離の半減期と同様又はより長い、請求項 20 に記載の単離ペプチド。

【請求項 22】

前記ペプチド K A S E K I F Y V に対する特異性により T 細胞により認識される、請求

10

20

30

40

50

項 20 に記載の単離ペプチド。

【請求項 23】

P0 が、X、XX 又は XXX で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示し、

P1 が、S、F、K、W 又は Y であり、

P2 が、L、I、V、Nle 又は Nva であり、

P3 が L であり、

P4 が、M、L 又は N であり、

P5 が W であり、

P6 が、I、A、L、V 又は N であり、

P7 が T であり、

P8 が、Q、E、D 又は T であり、

P9 の PΩ が、C、V、I、L、A、Nva、Nle、V-NH₂ 又は L-NH₂ であり

10

、
PΩ+1 が、X、XX 又は XXX で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示すような配列から実質的に構成される単離ペプチドで、配列 SLLMWITQ {C、V、I、L、A}、FVLMWITQA、FILMWITQ {L、I}、YVLMWITL 又は YLLMWIT {I、L} ではない単離ペプチド。

【請求項 24】

配列 SILMWITQ {C、V、L、A}、YLLMWITQ {Nva、Nle}、F {L、V}LMWITQ {V、L、I}、Y {I、Nva、Nle}LMWITQV、YLLLLWITQV 又は TVLMWITQV から実質的に構成される、請求項 23 に記載の単離ペプチド。

20

【請求項 25】

配列 {S、F}VLMWITQV、SLMWITQNva 又は SNvaLMWITQV から実質的に構成される、請求項 23 に記載の単離ペプチド。

【請求項 26】

配列 SNvaLMWITQV から実質的に構成される、請求項 25 に記載の単離ペプチド。

【請求項 27】

前記ペプチドがクラス IMHC ペプチドの結合溝に対して親和性を有する、請求項 23 に記載の単離ペプチド。

30

【請求項 28】

前記 MHC が HLA-A2 である、請求項 27 に記載の単離ペプチド。

【請求項 29】

前記ペプチドが請求項 23 に記載の配列を有する、クラス IMHC / ペプチド複合体。

【請求項 30】

クラス IMHC / NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅ 複合体を認識する TCR と交差反応性である、請求項 29 に記載のクラス IMHC / ペプチド複合体。

【請求項 31】

前記クラス IMHC / 複合体は、HLA-A2 / NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅ 複合体である、請求項 30 に記載のクラス IMHC / ペプチド複合体。

40

【請求項 32】

遊離配列と結合した請求項 23 に記載のペプチド配列を含むポリペプチド。

【請求項 33】

請求項 23 に記載のペプチドを含む免疫原性組成物。

【請求項 34】

請求項 32 に記載のポリペプチドを含む免疫原性組成物。

【請求項 35】

請求項 32 に記載のポリペプチドをコードする核酸。

【請求項 36】

50

請求項 23 に記載のペプチドを発現するための核酸手段。

【請求項 37】

請求項 35 又は 36 に記載の核酸を含む免疫原性組成物。

【請求項 38】

請求項 33 に記載の組成物の節内投与を含む、CTL 応答を誘導、維持又は増幅させる方法。

【請求項 39】

請求項 37 に記載の組成物の節内投与を含む、CTL 応答を誘導、維持又は増幅させる方法。

【請求項 40】

請求項 37 に記載の組成物の節内投与を含む、クラス I MHC に制限される T 細胞応答を同調させる方法。

【請求項 41】

請求項 33 に記載の組成物と免疫増強剤との節内投与を含む、クラス I MHC に制限される T 細胞応答を同調させる方法。

【請求項 42】

配列 {S、Y} L L M W I T Q {C、V} {L、I、N l e} を有する単離十量体ペプチド。

【請求項 43】

クラス I MHC の結合溝に対する親和性を持つ S L L M W I T Q C 配列において 1 ～ 3 個の置換を含む単離ペプチドで、該クラス I MHC の結合溝に対して、S L L M W I T Q C と同様又はより強い親和性を有するペプチド。

【請求項 44】

解離の半減期が、前記クラス I MHC の結合溝からの S L L M W I T Q C の解離の半減期と同様又はより長い、請求項 43 に記載の単離ペプチド。

【請求項 45】

前記ペプチド S L L M W I T Q C に対する特異性により T 細胞により認識される、請求項 43 に記載の単離ペプチド。

【請求項 46】

MHC タンパク質のペプチド結合溝に対して親和性が知られているか、又は予測される標的関連抗原セグメントの配列と、少なくとも 1 つのアミノ酸の差異を含むアミノ酸配列を有するペプチドであって、少なくとも 1 つの差異が、前記セグメントの MHC 結合モチーフアンカー部位にある残基を N l e 又は N v a 残基に置換したものであるようなアミノ酸配列を有するペプチド。

【請求項 47】

前記アンカー部位が第 1 のアンカー位置である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 48】

前記アンカー部位が P 2 である、請求項 47 に記載のペプチド。

【請求項 49】

前記アンカー部位が P Ω である、請求項 47 に記載のペプチド。

【請求項 50】

前記アンカー部位が補助的なアンカー部位である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 51】

前記差異が、前記セグメントにおける疎水性残基の N l e 又は N v a 残基への置換を含む、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 52】

I、L 又は V が、前記 MHC 結合モチーフアンカー部位において好ましい残基である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 53】

約 8 ～ 14 アミノ酸長を有する、請求項 46 に記載のペプチド。

10

20

30

40

50

【請求項 54】

9～10 アミノ酸長を有する、請求項 53 に記載のペプチド。

【請求項 55】

前記 MHC タンパク質がヒト MHC タンパク質である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 56】

前記 MHC タンパク質がクラス I MHC タンパク質である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 57】

前記 MHC タンパク質が HLA-A2、A3、A24、A30、A66、A68、A69、B7、B8、B15、B27、B35、B37、B38、B39、B40、B48、B51、B52、B53、B60、B61、B62、B63、B67、B70、B71、B75、B77、C4、Cw1、Cw3、Cw4、Cw6、Cw7 及び Cw10 から成る群から選択されるタイプである、請求項 56 に記載のペプチド。

10

【請求項 58】

前記 MHC タンパク質が HLA-A2 及び A24 から成る群から選択される、請求項 57 に記載のペプチド。

【請求項 59】

前記 MHC がアンカー残基結合ポケットを有し、該ポケットは、HLA-A*0201 の B-又は F-ポケットに相同的である、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 60】

前記 MHC に対する前記セグメントの結合特性に相当する特性と実質的に同じであるか、又はそれよりも良好である少なくとも 1 つの結合特性を有する、請求項 46 に記載のペプチド。

20

【請求項 61】

前記結合特性が前記セグメントの結合特性と比較して高い、請求項 60 に記載のペプチド。

【請求項 62】

前記結合特性が親和性である、請求項 60 に記載のペプチド。

【請求項 63】

前記結合特性が結合の安定性である、請求項 60 に記載のペプチド。

30

【請求項 64】

前記セグメントの免疫原性と実質的に同じであるか、又はそれよりも強い免疫原性を有する、請求項 46 に記載のペプチド。

【請求項 65】

前記免疫原性が増大された、請求項 64 に記載のペプチド。

【請求項 66】

前記免疫原性が前記セグメントと交差反応性である免疫応答を誘起する、請求項 64 に記載のペプチド。

【請求項 67】

前記免疫原性が CTL 応答を誘起する、請求項 64 に記載のペプチド。

40

【請求項 68】

前記免疫原性が MHC 四量体アッセイを使用して評価される、請求項 64 に記載のペプチド。

【請求項 69】

前記免疫原性が サイトカインアッセイを使用して評価される、請求項 64 に記載のペプチド。

【請求項 70】

前記免疫原性が細胞毒性アッセイを使用して評価される、請求項 64 に記載のペプチド。

【請求項 71】

50

前記免疫原性が前記ペプチドを認識する免疫応答を測定することにより評価される、請求項 6 4 に記載のペプチド。

【請求項 7 2】

前記免疫原性が前記セグメントを認識する免疫応答を測定することにより評価される、請求項 6 4 に記載のペプチド。

【請求項 7 3】

前記免疫原性が *in vitro* における免疫系を使用して評価される、請求項 6 4 に記載のペプチド。

【請求項 7 4】

前記免疫系がヒト細胞を含む、請求項 7 3 に記載のペプチド。

10

【請求項 7 5】

前記免疫原性が *in vivo* 免疫系を使用して評価される、請求項 6 4 に記載のペプチド。

【請求項 7 6】

前記免疫系がトランスジェニックマウスを含む、請求項 7 5 に記載のペプチド。

【請求項 7 7】

前記セグメントと免疫学的に交差反応性である、請求項 4 6 に記載のペプチド。

【請求項 7 8】

前記交差反応性が前記セグメントで免疫化し、前記ペプチドの認識をアッセイすることにより評価される、請求項 7 7 に記載のペプチド。

20

【請求項 7 9】

前記交差反応性が前記ペプチドを免疫化し、前記セグメントの認識をアッセイすることにより評価される、請求項 7 7 に記載のペプチド。

【請求項 8 0】

2 つのアミノ酸の差異を含む、請求項 4 6 に記載のペプチド。

【請求項 8 1】

各アミノ酸の差異は独立して N l e 又は N v a 残基を含む、請求項 8 0 に記載のペプチド。

【請求項 8 2】

1 つのアミノ酸の差異は N l e 又は N v a 残基を含まない、請求項 8 0 に記載のペプチド。

30

【請求項 8 3】

3 つ又はそれ以上のアミノ酸の差異を含む、請求項 4 6 に記載のペプチド。

【請求項 8 4】

前記標的関連抗原が腫瘍関連抗原である、請求項 4 6 に記載のペプチド。

【請求項 8 5】

前記標的関連抗原は、病原体関連抗原である、請求項 4 6 に記載のペプチド。

【請求項 8 6】

請求項 4 6 に記載のペプチドを含む免疫原性組成物。

【請求項 8 7】

請求項 6 7 に記載の組成物を哺乳類へ投与することを含む免疫化方法。

40

【請求項 8 8】

リンパ系へ直接投与することを含む、請求項 4 3 に記載の免疫化方法。

【請求項 8 9】

T 細胞エピトープアナログを作製する方法であって、

M H C タンパク質のペプチド結合溝に対して親和性を有することが知られているか、又は予測される標的関連抗原のセグメントのアミノ酸配列を提供すること、

M H C 結合モチーフのアンカー部位に相当する配列の少なくとも 1 つのアミノ酸を、N l e 又は N v a に置換すること、及び

前記置換された配列を含むペプチドを合成すること

50

を含む方法。

【請求項 90】

MHC 結合モチーフのアンカー部位に相当する少なくとも 1 つの本来の残基の N l e 又は N v a 残基による置換により、本来の天然エピトープペプチドと異なる、T 細胞エピトープペプチドアナログ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

発明の分野

一つの実施形態では、本明細書中に開示の発明は、クラス I MHC 制限 T 細胞エピトープに対応するペプチドのアナログ及びその生成方法に関する。これらのアナログは、MHC 分子と直接相互作用する残基におけるアミノ酸置換を含むことができ、改善されているか、修飾されているか、又は有用な免疫特性を付与することができる。特に、腫瘍関連抗原 S S X-2、N Y-E S O-1、P R A M E、P S M A、チロシナーゼ、及びメラナー A 由来のエピトープアナログが同定されている。さらに、種々の置換が非標準残基であるノルロイシン及び／又はノルバリンを含むアナログ類を開示する。

10

【0002】

[関連出願の相互参照]

本出願は、米国特許法第 119 条 (e) 項の下、「S S X-2 ペプチドアナログ」と題される 2004 年 6 月 17 日に出願された米国特許仮出願番号 60/581,001 号及び「N Y-E S O ペプチドアナログ(NY-ESO PEPTIDE ANALOGS)」と題される 2004 年 6 月 17 日に出願された米国特許仮出願番号 60/580,962 号に対する優先権を主張する。(それぞれ、その全体が本明細書中で参考として援用される)

20

【背景技術】

【0003】

関連技術の説明

主要組織適合複合体及び T 細胞標的認識

T リンパ球 (T 細胞) は、特定抗原シグナルに応答して機能する抗原特異的免疫細胞である。B リンパ球及びそれらが産生する抗体も、また抗原特異的物体である。しかしながら、B リンパ球と異なり、T 細胞は、遊離型又は可溶型の抗原に応答しない。T 細胞が抗原に応答するためには、抗原が主要組織適合複合体 (MHC) として知られる提示複合体に結合することが必要である。

30

【0004】

MHC タンパク質は、T 細胞が、本来持つ細胞又は「自己」細胞を外来細胞と区別する手段を提供する。MHC 分子は、その後 T 細胞によってモニタリングされる潜在的なペプチドエピトープを提示する免疫受容体のカテゴリーに入る。クラス I MHC 及びクラス II MHC の 2 つの MHC クラスが存在する。CD4+T 細胞は、クラス II MHC タンパク質と相互作用し、主にヘルパー表現型を有する一方で、CD8+T 細胞は、クラス I MHC タンパク質と相互作用し、主に細胞溶解性表現型を有するが、それぞれ、調節機能、特に抑制機能も示し得る。両 MHC は、その構造の大部分が細胞外表面に存在する膜貫通タンパク質である。さらに、両 MHC クラスは、その外側部分にペプチド結合溝を有する。天然又は外来のタンパク質の小フラグメントがこの溝で結合し、細胞外環境に提示される。

40

【0005】

抗原提示細胞 (APC) と呼ばれる細胞は、MHC を使用して抗原を T 細胞に示す。抗原が MHC 上に提示されると、T 細胞は抗原を認識することができる。この要件は、MHC 制限と呼ばれる。抗原が認識可能な MHC によって示されない場合、T 細胞は抗原シグナルを認識せず、これに対して作用しない。認識可能な MHC に結合したペプチドに特異的な T 細胞は、これらの MHC-ペプチド複合体に結合し、免疫応答の次の段階に進む。

【発明の開示】

50

【課題を解決するための手段】

【0006】

〔発明の概要〕

SSX-2₄₁₋₄₉アナログの実施の形態

実施の形態には、MHCクラスI制限T細胞エペトープのアナログSSX-2₄₁₋₄₉KASEKIFYV（配列番号1）、pAPCによってプロセッシングされてエペトープアナログを提示することができるこれらのアナログを含むポリペプチド、及びアナログを発現する核酸が含まれる。アナログは、野生型エペトープと比較して類似又は改善された免疫学的特性を有し得る。

【0007】

1つの実施形態は、配列KASEKIFYV（配列番号1）を用いたエペトープに対する免疫化によって生成されたT細胞株からのサイトカイン産生を誘発するのに十分な量で配列KASEKIFYV（配列番号1）の1つ又は複数のアミノ酸置換を含む配列を有する単離SSX-2ペプチドに関する。1つの態様では、十分な量は10μM以下である。さらなる態様では、3μM以下である。さらなる態様では、1μM以下である。さらなる態様では、0.3μM以下である。1つの態様では、標準アミノ酸で置換される。さらなる態様では、十分な量は0.3μM以下である。1つの態様では、Tyr、Val、Leu、Ala、Ile、Met、Trp、Phe、Asp、Asn、又はSerなどの標準アミノ酸で置換される。

【0008】

さらなる態様では、置換には、非標準アミノ酸が含まれる。1つの態様では、非標準アミノ酸は、例えば、Nle、Nva、Abu、又は標準アミノ酸のD型立体異性体である。さらなる態様では、置換には、修飾末端アミノ酸が含まれる。1つの態様では、修飾末端アミノ酸は、アミド化C末端アミノ酸である。さらなる態様では、少なくとも1つの置換は、アミノ酸の付加であってよく、付加はC末端付加である。さらなる態様では、ペプチドには、さらに、任意の部位において、好ましくは、任意のMHC相互作用に関与しないことが明らかなP3部位、P5部位、又はP7部位におけるアミノ酸の保存的置換が含まれる。

【0009】

さらなる実施の形態は、P1～P9の9個のアミノ酸の単離ペプチドに関し、この単離ペプチドは各部位に1つのアミノ酸を含む。例えば、P1は、K、F、Y、W、Phg、Phe（4-F）、Phe（4-NO₂）、MeTyr、β-（3-ベンゾチエニル）-Ala、又はD-Lysである；P2は、A、L、V、I、M、D-Ala、NaI-2、Abu、Aib、Nle、又はNvaである；P3は、Sである；P4は、E、Q、Nle、又はNvaである；P5は、Kである；P6は、I、L、V、Nle、又はNvaである；P7は、Fである；P8は、Y、F、Phe（4-F）である；P9のPΩ（P-オメガ）は、V、I、A、Nva、MeVal、又はAbuである。場合によっては、配列は、KASEKIFYVではない。

【0010】

さらなる実施の形態は、P1～P9の9個のアミノ酸の単離ペプチドに関し、この単離ペプチドは各部位に1つのアミノ酸を含む。例えば、P1は、K、F、Y、W、Phg、Phe（4-F）、Phe（4-NO₂）、MeTyr、β-（3-ベンゾチエニル）-Ala、又はD-Lysである；P2は、V、L、M、Abu、Nle、又はNvaである；P3は、Sである；P4は、E、Q、Nle、又はNvaである；P5は、Kである；P6は、I、L、V、Nle、又はNvaである；P7は、Fである；P8は、Y、F、Phe（4-F）である；P9でのPΩは、V、I、A、Nva、MeVal、Abu、又はV-NH₂である。

【0011】

さらなる実施の形態は、P1～P9の9個のアミノ酸の単離ペプチドに関し、この単離ペプチドは各部位に1つのアミノ酸を含む。例えば、P1は、K、F、Y、W、Phg、

10

20

30

40

50

Phe (4-F)、Phe (4-NO₂)、Me Tyr、β-(3-ベンゾチエニル)-Ala、又はD-Lysである；P2は、A、L、V、M、Abu、Nle、又はNvaである；P3は、Sである；P4は、E、Q、Nle、又はNvaである；P5は、Kである；P6は、I、L、V、Nle、又はNvaである；P7は、Fである；P8は、Y、F、Phe (4-F)である；P9は、Vである；P10でのPΩは、I又はLである。

【0012】

さらなる実施の形態は、P1～P9の9個のアミノ酸の単離ペプチドに関し、この単離ペプチドは各部位に1つのアミノ酸を含む。例えば、P1は、K、F、Y、W、Phg、Phe (4-F)、Phe (4-NO₂)、Me Tyr、β-(3-ベンゾチエニル)-Ala、又はD-Lysである；P2は、Vである；P3は、Sである；P4は、E、Q、Nle、又はNvaである；P5は、Kである；P6は、I、L、V、Nle、又はNvaである；P7は、Fである；P8は、Y、F、Phe (4-F)である；P9は、Vである；P10でのPΩは、I、L、V、又はNleである。

10

【0013】

さらなる実施の形態は、P1～P9の9個のアミノ酸の単離ペプチドに関し、この単離ペプチドは各部位に1つのアミノ酸を含む。例えば、P1は、K、F、Y、W、Phg、Phe (4-F)、Phe (4-NO₂)、Me Tyr、β-(3-ベンゾチエニル)-Ala、又はD-Lysである；P2は、Lである；P3は、Sである；P4は、E、Q、Nle、又はNvaである；P5は、Kである；P6は、I、L、V、Nle、又はNvaである；P7は、Fである；P8は、Y、F、Phe (4-F)である；P9は、Vである；P10でのPΩは、I、L、V、Nle、又はNvaである。

20

【0014】

さらなる実施の形態は、配列K {L、V、M、I、D-Ala、D-Val、Nal-2、Aib、Abu、Nle、又はNva} SEKIFYV；又は {F、Phg、Y、Phe (4-F)、Phe (4-NO₂)、O-メチル-Tyr、又はβ-(3-ベンゾチエニル-Ala} ASEKIFYV；又は {Y、F、又はW} {V、M、又はI} SEKIFYV；又は {F又はW} LSEKIFYV；又はK {A、V、又はL} SEKIFYI；又はK {L又はV} SEKIFYV-NH₂；又はFVSEKIFY {I、A、Nva、Abu、又はMeVal}；又はFVS {Q、Nle、Nva} KIFYV；又はFVSEK {L、V、Nle、又はNva} FYV；又はFVSEKIF {F、Phe (4-F)} V；又はKASEKIFYV {I、L、}；又はKVSEKIFYV {I、L、V、又はNle}；又はKLSEKIFYV {L、V、Nle、又はNva} を有する単離ペプチドに関する。

30

【0015】

さらなる実施の形態は、配列K {L、V、M、Abu、Nle、又はNva} SEKIFYV；又は {F又はPhg} A SEKEFYV；又はYVSEKIFYV；又はF {L、V、又はI} SEKIFYV；又はW {L又はI} SEKIFYV；又はK {V又はL} SEKIFYI；又はFVSEKIFY {I又はNva} を有する単離ペプチドに関する。

40

【0016】

さらなる実施の形態は、配列K {V又はL} SEKIFYV；又は {F又はY} ASEKIFYV；又はFVSEKIFYI を有する単離ペプチドに関する。

【0017】

さらなる実施の形態は、ペプチドが上記実施の形態及び本明細書中のいずれかのペプチド配列を有する、クラスIMHC／ペプチド複合体に関する。1つの態様では、複合体は、クラスIMHC／SSX-2₄₁₋₄₉複合体を認識するTCRと交差反応性を示す。さらなる態様では、複合体は、HLA-A2／SSX-2₄₁₋₄₉複合体である。

【0018】

さらなる実施の形態は、免疫原性組成物であって、上記実施の形態いずれかの及び本明

50

細書中のペプチド配列を含む、免疫原性組成物に関する。1つの態様では、ペプチドは、例えば、配列K {L、V、M、Abu、Nle、又はNva} SEKIFYV；又は {F又はPhg} ASEKIFYV；又はYVSEKIFYV；又はF {L、V、又はI} SEKIFYV；又はW {L又はI} SEKIFYV；又はK {V又はL} SEKIFYI；又はFVSEKIFY {I又はNva}、又はK {V又はL} SEKIFYV；又は {F又はY} ASEKIFYV；又はFVSEKIFYIを有する。

【0019】

いくつかのさらなる実施の形態は、MHCクラスI制限T細胞エピトープNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅つまり、SLLMWITQC（配列番号1）のアナログ、pAPCによってプロセッシングされてエピトープアナログを提示することができるこれらのアナログを含むポリペプチド、及びアナログを発現する核酸に関する。アナログは、野生型エピトープと比較して類似又は改善された免疫特性を有することができる。

10

【0020】

1つの実施の形態は、配列SLLMWITQC（配列番号1）を持つエピトープに対する免疫化によって生成されたT細胞株からのサイトカイン産生を誘発するのに十分な量の1つ又は複数のアミノ酸置換を含むSLLMWITQC（配列番号1）の配列を有する単離NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅ペプチドに関する。例えば、1つの態様では、十分な量は10 µM以下である。さらなる態様では、十分な量は3 µM以下である。また、さらなる態様では、十分な量は1 µM以下である。さらなる態様では、十分な量は0.3 µM以下である。1つの態様では、置換には、標準アミノ酸が含まれる。さらなる態様では、置換には、非標準アミノ酸が含まれる。1つの態様では、非標準アミノ酸は、例えば、Tyr、Val、Leu、Ala、Ile、Met、Nle、Nva、Trp、Phe、Asp、Asn、Ser、Abu、及び標準アミノ酸のD型立体異性体である。さらなる態様では、置換には、修飾末端アミノ酸が含まれる。1つの態様では、修飾末端アミノ酸は、アミド化C末端アミノ酸である。さらなる態様では、少なくとも1つの置換は、アミノ酸の付加であり、付加はC末端付加である。

20

【0021】

1つの実施の形態は、

P1が、S、F、K又はWであり、

P2が、L、I、V、Nle又はNvaであり、

30

P3がLであり、

P4が、M、L又はNであり、

P5がWであり、

P6が、I、A、L、V又はNであり、

P7がTであり、

P8が、Q、E、D又はTであり、

P9のPΩがC、V、I、L、A、Nva、Nle、V-NH₂又はL-NH₂である配列を有するが、配列がSLLMWITQ {C、V、I、L、A}、FVLMWITQA又はFILMWITQ {L、I} ではない単離ペプチドに関する。

【0022】

40

別の実施の形態は、

P1がYであり、

P2が、L、V、I、Nle又はNvaであり、

P3がLであり、

P4が、M、L又はNであり、

P5がWであり、

P6が、I、A、L、V又はNであり、

P7がTであり、

P8が、Q、E、D又はTであり、

P9のPΩがV、I、L、Nva、Nle、V、V-NH₂又はL-NH₂である配列を

50

有するが、配列が Y V L M W I T L 又は Y L L M W I T { I、L } ではない単離ペプチドに関する。

【0023】

さらなる実施の形態は、配列 { S、Y } L L M W I T Q { C、V } { L、I、N l e } を有する単離十量体ペプチドに関する。

【0024】

さらに別の実施の形態は、配列 S I L M W I T Q { C、V、L、A }、Y L L M W I T Q { N v a、N l e }、F { L、V } L M W I T Q { V、L、I }、Y { I、N v a、N l e } L M W I T Q V、Y L L L W I T Q V 又は T V L M W I T Q V を有する単離ペプチドに関する。

10

【0025】

さらなる実施の形態は、配列 { S、F } V L M W I T Q V、S L M W I T Q N v a 又は S N v a L M W I T Q V を有する単離ペプチドに関する。

【0026】

さらに別の実施の形態は、配列 S N v a L M W I T Q V を有する単離ペプチドに関する。

【0027】

いくつかの実施の形態は単離ペプチドに関する。このペプチドは、

P 0

が、X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示し、

20

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4 - F)、P h e (4 - N O ₂)、M e T y r、β - (3 - ベンゾチエニル) - A l a 又は D - L y s であり、

P 2 が A、L、V、I、M、D - A l a、N a l - 2、A b u、A i b、N l e 又は N v a であり、

P 3 が S であり、

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

P 8 が Y、F、P h e (4 - F) であり、

30

P 9 の P Ω が V、I、A、N v a、M e V a l、A b u 又は V - N H ₂ であるか、或いは P 9 が V であり、

P 10 の P Ω が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P Ω + 1 が X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示す配列を含むか、又はこの配列から実質的に構成され得、配列が K A S E K I F Y V ではない。

【0028】

単離ペプチドは、下記配列：

K { L、V、M、I、D - A l a、D - V a l、N a l - 2、A i b、A b u、N l e 又は N v a } S E K I F Y V、又は

40

{ F、P h g、Y、P h e (4 - F)、P h e (4 - N O ₂)、O - メチル - T r y 又は β - (3 - ベンゾチエニル - A l a } A S E K I F Y V、又は

{ Y、F 又は W } { V、M 又は I } S E K I F Y V、又は

{ F 又は W } L S E K I F Y V、又は

K { A、V 又は L } S E K I F Y I、又は

K { L 又は V } S E K I F Y V - N H ₂、又は

F V S E K I F Y { I、A、N v a、A b u 又は M e V a l }、又は

F V S { Q、N l e、N v a } K I F Y V、又は

F Y S E K { L、V、N l e 又は N v a } F Y V、又は

F V S E K I F { F、P h e (4 - F) } V、又は

K A S E K I F Y V { I、L }、又は

50

K V S E K I F Y V { I、L、V又はN l e }、又は
K L S E K I F Y V { L、V、N l e又はN v a }
を含むか、又はこの配列から実質的に構成され得る。

【0029】

単離ペプチドは、下記配列：

K { L、V、M、A b u、N l e又はN v a } S E K I F Y V、又は
{ F又はP h g } A S E K I F Y V、又は
Y V S E K I F Y V、又は
F { L、V又はI } S E K I F Y V、又は
W { L又はI } S E K I F Y V、又は
K { V又はL } S E K I F Y I、又は
F V S E K I F Y { I又はN V a }
を含むか、又はこの配列から実質的に構成され得る。

10

【0030】

また、単離ペプチドは、下記配列：

K { V又はL } S E K I F Y V、又は
{ F又はY } A S E K I F Y V、又は
F V S E K I F Y I、又は
K V S E K I F Y V

を含むか、又はこの配列から実質的に構成されることができる。

20

【0031】

さらに、単離ペプチドは、配列K V S E K I F Y Vを含むか、又はこの配列から実質的に構成され得る。

【0032】

単離ペプチドは、クラスI M H Cペプチド結合溝に対して親和性を有する。M H Cは例えば、H L A - A 2とすることができる。

【0033】

いくつかの実施の形態は、クラスIのM H C／ペプチド複合体に関し、ペプチドは、請求項1に記載のペプチドの配列を有する。クラスI M H C／ペプチド複合体は、クラスI M H C／S S X - 2₄₁₋₄₉複合体を認識するT C Rと交差反応性である。クラスI M H C／ペプチド複合体は、H L A - A 2／S S X - 2₄₁₋₄₉複合体である。

30

【0034】

他の実施の形態は、遊離配列と結合する上記及び本明細書中に記載のペプチド配列を含むポリペプチドに関する。

【0035】

なおさらなる実施の形態は、上記又は本明細書中に記載のペプチドが含まれる免疫原性組成物に関する。

【0036】

他の実施の形態は、上記又は本明細書中に記載のポリペプチドをコードする核酸又は発現のための核酸手段に関する。また、いくつかの実施の形態は、このような核酸又は核酸手段を含む免疫原性組成物に関する。

40

【0037】

いくつかの実施の形態は、C T L応答を誘導、維持又は増幅する方法に関する。この方法は、上記及び本明細書中に記載の組成物の節内投与を含む。

【0038】

他の実施の形態は、上記又は本明細書中に記載の組成物及び免疫増強剤の節内投与を含む、クラスI M H C制限T細胞応答を同調させる方法に関する。

【0039】

さらなる実施の形態は、上記又は本明細書中に記載の組成物の節内投与を含む、C T L応答を誘導、維持又は同調させる方法に関する。

50

【0040】

いくつかの実施の形態は、クラス I MHC 結合溝に対して K A S E K I F Y V と同程度か、又はそれよりも強い親和性を有する配列 K A S E K I F Y V において 1 個～3 個の置換を含む単離ペプチドに関する。解離の半減期が、上記クラス I MHC 結合溝からの K A S E K I F Y V の解離の半減期と同程度か、又はそれよりも長くてもよい。単離ペプチドは、ペプチド K A S E K I F Y V に対する特異性により T 細胞に認識される。

【0041】

さらに別の実施の形態は、

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、M e T y r、β-(3-ベンゾチエニル)-A l a 又は D-L y s であり、

10

P 2 が A、L、V、I、M、D-A l a、N a l-2、A b u、A i b、N l e 又は N v a であり、

P 3 が S であり、

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

P 8 が Y、F、P h e (4-F) であり、

P 9 の P Ω が V、I、A、N v a、M e V a l 又は A b u である配列であって、K A S E K I F Y V ではない配列、

20

又は

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、M e T y r、β-(3-ベンゾチエニル)-A l a 又は D-L y s であり、

P 2 が V、L、M、A b u、N l e 又は N v a であり、

P 3 が S であり、

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

P 8 が Y、F、P h e (4-F) であり、

30

P 9 の P Ω が V、I、A、N v a、M e V a l、A b u 又は V-NH₂ である配列、

又は

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、M e T y r、β-(3-ベンゾチエニル)-A l a 又は D-L y s であり、

P 2 が A、L、V、M、A b u、N l e 又は N v a であり、

P 3 が S であり、

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

40

P 8 が Y、F、P h e (4-F) であり、

P 9 が V であり、

P 10 の P Ω が I 又は L である配列、

又は

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4-F)、P h e (4-NO₂)、M e T y r、β-(3-ベンゾチエニル)-A l a 又は D-L y s であり、

P 2 が V であり、

P 3 が S であり、

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

50

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、
 P 7 が F であり、
 P 8 が Y、F、P h e (4 - F) であり、
 P 9 が V であり、
 P 1 0 の P Ω が I、L、V 又は N l e である配列、

又は

P 1 が K、F、Y、W、P h g、P h e (4 - F)、P h e (4 - N O ₂)、M e T y
 r、β - (3 - ベンゾチエニル) - A l a 又は D - L y s であり、

P 2 が L であり、

P 3 が S であり、

10

P 4 が E、Q、N l e 又は N v a であり、

P 5 が K であり、

P 6 が I、L、V、N l e 又は N v a であり、

P 7 が F であり、

P 8 が Y、F、P h e (4 - F) であり、

P 9 が V であり、

P 1 0 の P Ω が I、L、V、N l e 又は N v a である配列を含むか、又はこの配列から
 実質的に構成される単離ペプチドに関する。

【 0 0 4 2 】

いくつかの実施の形態は、

20

P 0 が X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示し、

P 1 が S、F、K、W 又は Y であり、

P 2 が L、I、V、N l e 又は N v a であり、

P 3 が L であり、

P 4 が M、L 又は N であり、

P 5 が W であり、

P 6 が I、A、L、V 又は N であり、

P 7 が T であり、

P 8 が Q、E、D 又は T であり、

P 9 の P Ω が C、V、I、L、A、N v a、N l e、V - N H ₂ 又は L - N H ₂ であり、

30

P Ω + 1 が X、X X 又は X X X で、X が任意のアミノ酸又は非アミノ酸を示す配列で
 あって、S L L M W I T Q { C、V、I、L、A }、F V L M W I T Q A、F I L M W I
 T Q { L、I }、Y V L M W I T L 又は Y L L M W I T { I、L } ではない配列、

P 1 が S、F、K 又は W であり、

P 2 が L、I、V、N l e 又は N v a であり、

P 3 が L であり、

P 4 が M、L 又は N であり、

P 5 が W であり、

P 6 が I、A、L、V 又は N であり、

P 7 が T であり、

40

P 8 が Q、E、D 又は T であり、

P 9 の P Ω が C、V、I、L、A、N v a、N l e、V - N H ₂ 又は L - N H ₂ である配
 列であって、S L L M W I T Q { C、V、I、L、A }、F V L M W I T Q A 又は F I L
 M W I T Q { L、I } ではない配列、

又は

P 1 が Y であり、

P 2 が L、V、I、N l e 又は N v a であり、

P 3 が L であり、

P 4 が M、L 又は N であり、

P 5 が W であり、

50

P 6 が I、A、L、V 又は N であり、

P 7 が T であり、

P 8 が Q、E、D 又は T であり、

P 9 の P Ω が V、I、L、N v a、N l e、V、V - N H₂ 又は L - N H₂ である配列であって、Y V L M W I T L 又は Y L L M W I T { I、L } ではない配列を含むか、又はこの配列から実質的に構成される単離ペプチドに関する。

【0043】

さらなる実施の形態は、クラス I M H C / ペプチド複合体であって、該ペプチドが上記実施の形態又は本明細書中に記載のいずれかのペプチド配列を有する複合体に関する。1つの態様では、複合体は、クラス I M H C / N Y - E S O - 1₁₅₇₋₁₆₅ 複合体を認識する T C R と交差反応性を示す。さらなる態様では、複合体は、H L A - A 2 / N Y - E S O - 1₁₅₇₋₁₆₅ 複合体である。

10

【0044】

上記実施の形態の1つの態様では、ペプチドは、H L A - A 2 等のクラス I M H C ペプチド結合溝に親和性を示す。

【0045】

さらなる実施の形態は、遊離配列と結合して実施の形態のいずれかのペプチド配列を含むポリペプチドに関する。

【0046】

さらなる実施の形態は、実施の形態のいずれかのペプチドを含む免疫原性組成物に関する。1つの態様では、ペプチドは、本明細書中に記載の配列を有することができる。

20

【0047】

さらなる実施の形態は、実施の形態のいずれかのペプチドをコードするが、好ましくは、非標準アミノ酸置換を持たない核酸に関する。さらなる態様では、核酸を、ベクター中でコードすることができる。

【0048】

さらなる実施の形態は、実施の形態のいずれかのペプチドをコードする核酸を含む免疫原性組成物に関する。

【0049】

さらなる実施の形態は、実施の形態のいずれかの組成物又はペプチドを節内投与することによる C T L 応答の誘導方法に関する。さらなる態様では、本方法により、C T L を維持することが可能である。さらなる態様では、本方法により、クラス I M H C 制限 T 細胞応答を増幅することが可能である。さらなる態様では、本方法により、クラス I M H C 制限 T 細胞応答を同調させることが可能である。さらなる態様では、本方法はまた、免疫増強剤を含む。

30

【0050】

いくつかの実施の形態は、天然のエピトープ配列中に1〜3個又は4個のアミノ酸置換を含む配列を有する単離ペプチドであって、該配列のエピトープに対する免疫化によって生成された T 細胞株からのサイトカイン産生を誘発するのに必要なペプチドの濃度が、例えば 10 μ M、1 μ M、及び 0.3 μ M 等の特定の濃度以下である単離ペプチドに関する。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸等による置換が含まれる。標準アミノ酸の D 型立体異性体、N v a、又は N l e のような非標準アミノ酸は、本明細書中に記載の非標準アミノ酸のいずれかである。置換には、修飾末端アミノ酸が含まれ、修飾末端アミノ酸は、アミド化 C 末端アミノ酸である。置換の1つは、アミノ酸の付加であり、例えば、付加は C 末端付加である。

40

【0051】

他の実施の形態は、標的関連抗原セグメントの配列と少なくとも1つの相違を含むアミノ酸配列を有するペプチドであって、該セグメントが M H C タンパク質のペプチド結合溝に対する既知又は予測される親和性を有し、少なくとも1つの相違が該セグメント中の M H C 結合モチーフアンカー部位の残基の N l e 又は N v a 残基への置換であるペプチドに

50

関する。アンカーの部位は、P 2 又は P Ω のような第 1 のアンカー部位である。アンカー部位は、補助的なアンカー部位である。上記相違には、上記セグメント中の疎水性残基の N l e 又は N v a 残基への置換が含まれる。いくつかの態様では、I、L、又は V は、M H C 結合モチーフのアンカー部位中の好ましい残基である。いくつかの態様では、ペプチドは、例えば、約 8 ～ 1 4 アミノ酸長、より好ましくは 9 ～ 1 0 アミノ酸長を有することができる。

【0052】

タンパク質は、例えば、クラス I M H C タンパク質のようなヒト M H C タンパク質である。M H C タンパク質は、例えば、H L A - A 2、A 3、A 2 4、A 3 0、A 6 6、A 6 8、A 6 9、B 7、B 8、B 1 5、B 2 7、B 3 5、B 3 7、B 3 8、B 3 9、B 4 0、B 4 8、B 5 1、B 5 2、B 5 3、B 6 0、B 6 1、B 6 2、B 6 3、B 6 7、B 7 0、B 7 1、B 7 5、B 7 7、C 4、C w 1、C w 3、C w 4、C w 6、C w 7 及び C w 1 0 等のタイプである。いくつかの態様において、M H C タンパク質は、H L A - A 2 及び A 2 4 である。M H C は、アンカー残基結合ポケットを有してもよく、該ポケットは、H L A - A * 0 2 0 1 の B 又は F - ポケットに相同的である。結合ポケットがエピトープアンカー残基に適合し、それにより、M H C 分子の結合特異性が定義される、結合ポケットの形成に参与する M H C 残基は、当該技術分野でよく知られている。このような情報をまとめたものの一つが、ハイパーテキスト・トランスファー・プロトコル ([http://](http://sdmc.lit.org.sg:8080/fimm/)) 「sdmc.lit.org.sg:8080/fimm/」の F I M M (機能免疫学) ウェブサイトで見ることができる。それぞれの全体が本明細書中で参考として援用される、Schonbach C., Koh J.L.Y., Shen g X., Wong L., and V.Brusic. 「F I M M : 機能分子免疫学のデータベース」 Nucleic A cids Research, 2000, Vol. 28, No. 1 222-224、及び Schonbach C., Koh J.L., Flower D.R., Wong L., and Brusica V. 「F I M M : 機能分子免疫学のデータベース (2002 年改訂)」 Nucleic Acids Research, 2002, Vol. 30, No. 1 226-229 も参照のこと。また、ペプチドは、上記 M H C に対する上記セグメントの特性に相当する特性と実質的に同じであるか、又はそれよりも良好である少なくとも 1 つの結合特性を有する。例えば、結合特性は、上記セグメントの結合特性と比較して高い可能性がある。また、結合特性は例えば親和性又は結合の安定性である。

【0053】

ペプチドは、セグメントの免疫原性と実質的に同程度又はより良好な免疫原性を有し得る。免疫原性を向上させることができる。免疫原性は、上記セグメントに交差反応性を示す免疫応答を誘発することができるか、C T L 応答を誘発することができる。例えば、M H C - 四量体アッセイ、サイトカインアッセイ、細胞毒性アッセイを使用して、ペプチドを認識する免疫応答の測定、i n v i t r o での免疫化系を使用した、上記セグメントを認識する免疫応答の測定、又は他の任意の適切な方法によって免疫原性を評価することができる。免疫化系には、ヒト細胞が含まれる。例えば、トランスジェニックマウスを含む i n v i v o での免疫化系を使用して免疫原性を評価することができる。ペプチドは、上記 M H C の上記セグメントに少なくとも類似する結合特性を有する。例えば、いくつかの態様では、「類似する」と見なされるものを、本開示に基づいて決定することができる。いくつかの態様では、「類似性」は、例えば、最大半量結合、相対親和性、安定性 (解離半減期)、及び交差反応性 / 機能的結合力のためのペプチド濃度に基づく。例として、ペプチドが、天然ペプチドの値の 2 倍、さらに 3 倍、4 倍、5 倍、又は 1 0 倍以内という結果又は特徴を有する場合、ペプチドが類似すると見なすことができる。また、例えば、交差反応性 / 機能的結合力について、データが天然ペプチドの 3 倍 ~ 1 0 倍以内である場合、類似の結果である。別の例として、天然ペプチドの 2、3、4、5、6、7、1 0、1 5、又は 2 0 % 以内である場合、結合率が類似すると見なすことができる。また、いくつかの態様では、E D 5 0 値が天然配列の 2 倍又は 3 倍以内である場合、E D 5 0 値が類似すると見なすことができる。類似の解離半減期は、例えば、2 倍又は 3 倍以内である。さらに別の例として、交差反応性について、野生型と約 2 倍異なる値を類似すると見なすことができる。これらの類似の値は例示のみを目的とし、いくつかの実施の形態のいく

つかの態様の文脈で示す。他の「類似の」値を、本明細書中の他の実験及び教示に基づいて決定される。

【0054】

ペプチドは、セグメントと免疫学的な交差反応性を示す。交差反応性を、セグメントを用いた免疫化及びペプチド認識をアッセイすることによって評価することができる。交差反応性を、ペプチドを用いた免疫化及びセグメント認識をアッセイすることによって評価することができる。

【0055】

上記及び本明細書中に記載のペプチドを、例えば、2つの相違を含むように修飾することができる。いくつかの場合、各相違は独立してN l e又はN v a残基を含むことができる。いくつかの場合、1つの相違には、N l e又はN v a残基を含むことができない。また、上記及び本明細書中に記載のペプチドは、3つ又はそれを超える相違を含む。

【0056】

標的関連抗原は、腫瘍関連抗原である。標的関連抗原は、病原体関連抗原である。

【0057】

他の実施の形態は、上記及び本明細書中に記載の本発明のペプチドを含む免疫原性組成物に関する。さらなる実施の形態は、このような組成物を哺乳動物、例えば、リンパ系に直接投与することを含む、免疫化方法に関する。

【0058】

さらに他の実施の形態は、T細胞エピトープアナログの作製方法に関する。本方法は、標的関連抗原セグメントのアミノ酸配列を提供することを含み、該セグメントがMHCタンパク質のペプチド結合溝に対して既知又は予測される親和性を有し、MHC結合モチーフのアンカー部位に対応する配列の少なくとも1つのアミノ酸をN l e又はN v aに置換すること、及び、置換した配列を含むペプチドを合成することを含む。合成は、例えば、化学合成又は他の任意の合成方法である。

【0059】

いくつかの実施の形態は、T細胞エピトープペプチドアナログであって、該アナログが、MHC結合モチーフのアンカー部位に対応する少なくとも1つの天然の残基が、N l e又はN v a残基と置換することによって天然のエピトープペプチドと異なる、T細胞エピトープペプチドアナログに関する。

【0060】

さらなる実施の形態は、免疫活性であり、1つ又は複数のMHCアンカー残基に非天然アミノ酸を保有するペプチドを示す組成物を生成する方法及び得られた組成物に関する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0061】

〔好ましい実施形態の詳細な説明〕

T細胞エピトープを含むペプチドは、通常、以下の複数の要因のうちの1つにより、免疫原又は免疫調節物質としては不十分である：最適薬物動態プロファイル、MHC分子への結合の制限（ K_{on} の減少及び K_{off} の増加）、正常な免疫レパートリーに存在するT細胞による内因性認識の減少（例えば、種々の耐性形態による）。ペプチドの免疫学的特性を向上させるために、配列が天然のエピトープと異なるペプチドのスクリーニング及び使用に関して種々の戦略が行われている。このようなアナログは、複素環式ペプチド及び代替ペプチドリガンド（APL）等の当該技術分野で種々の名称で知られている。このようなアナログの生成には、遺伝学的に標準的にコードされる残基由来のアミノ酸が最も頻繁に使用されている（例えば、Valmori, D. 他., J. Immunol. 160: 1750-1758, 1998を参照のこと）。非標準アミノ酸の使用は、典型的には、ペプチドの生化学的安定性を改善するための試みに関連している（例えば、Blanchet, J.-S. 他., J. Immunol. 167: 5852-5861, 2001を参照のこと）。

【0062】

一般に、アナログは以下の2つの主なクラスに分類することができる：（1）より良好

10

20

30

40

50

なH L A結合プロファイル及びより高い免疫応答を達成するためのペプチドアンカー残基の修飾、及び(2)自己抗原に対するT細胞耐性を回避するためのペプチドアンカー残基及びT C R接触残基の修飾。

【0063】

いくつかの実施形態は、以下の保持又は改善される特性(これらに限定されない)の少なくとも1つを有するアナログに関する：

1. T C Rに対する交差反応性及び機能的結合力。
2. M H CクラスIへの結合に対する親和性及び安定性。
3. 細胞毒性によって評価された免疫に対する*in vivo*での効果。
4. I F N- γ の*ex vivo*での産生によって評価された、免疫に対する*in vivo*での効果。
5. タンパク質分解に対する耐性の増大。

10

【0064】

いくつかの実施形態は、アナログを含むペプチド配列であって、当該配列のアミノ酸を、例えば、P1、P2、P3、P Ω 等の位置指定子を使用して表したペプチド配列に関する。さらに、ペプチド配列を、P0及び/又はP Ω +1指定子が含まれるように表すことができる。いくつかの態様では、P0は、X、XX、又はXXXで、Xは任意のアミノ酸であるか、アミノ酸ではない。同様に、いくつかの態様では、P Ω +1は、X、XX、又はXXXで、Xは任意のアミノ酸であるか、アミノ酸ではない。したがって、例えば、XXXは、任意のアミノ酸残基又は非アミノ酸の組み合わせを意味する。したがって、これらの実施形態は、特定の配列のN末端又はC末端に3つまでの付加的なアミノ酸(アミノ酸残基の任意の組み合わせ)を有するポリペプチドを含む。また、いくつかの態様では、実施形態は、N末端又はC末端に付加的なアミノ酸を含まなくてもよい。

20

【0065】

結合ポケットがエピトープアンカー残基に適合し、それにより、M H C分子の結合特異性が定義されるような結合ポケットの形成に関与するM H C残基は、当該技術分野でよく知られている。このようなをまとめたものの一つが、ハイパーテキスト・トランスファー・プロトコル(<http://sdmc.lit.org.sg:8080/fimm/>)のF I M M(機能免疫学)ウェブサイトで見ることができる。それぞれの全体が本明細書中で参考として援用される、Schonbach C., Koh J.L.Y., Sheng X., Wong L., and V.Brusic. 「F I M M: 機能分子免疫学のデータベース」 Nucleic Acids Research, 2000, Vol. 28, No. 1 222-224、及びSchonbach C., Koh J.L., Flower D.R., Wong L., and Brusica V. 「F I M M: 機能分子免疫学のデータベース(2002年改訂)」 Nucleic Acids Research, 2002, Vol. 30, No. 1 226-229も参照のこと。

30

【0066】

語句「遊離配列」は、直接若しくはN末端トリミング又は他の生理学的過程と組み合わせた免疫プロテアソームプロセッシングによってエピトープ又はアナログを遊離可能にする状況が得られる、より大きな配列に含まれるエピトープ又はアナログを含むか、又はコードするペプチドをいう。いくつかの態様では、アナログ又はエピトープを、設計することができる。

40

【0067】

他の実施形態は、エピトープアレイ及び、プロセッシングしてアナログを遊離することができるエピトープアナログ配列を含む他のポリペプチドに関する。さらなる実施形態は、このようなポリペプチドをコードする核酸、特に、D N Aプラスミド、又は単にアナログ及びこれらの発現物に関する。アナログ、アナログを含むポリペプチド、及びコードする核酸は全て、免疫原性組成物、特に、リンパ内送達に適した組成物の成分であり、その全ては、さらなる実施形態に関する。

【0068】

免疫特性が向上したペプチドアナログを、M H C-ペプチド複合体の結合を増大させて形成を安定化させるように、M H C分子との相互作用に関与するアンカー残基を修飾する

50

ことによって設計することができる。このような修飾を、制限されたMHC分子の結合モチーフ又は好ましいアンカー残基の知識によって導くことができる。種々の置換を有するアナログの特性を予測するために使用することができる種々の規則、指標、及びアルゴリズムがさらに存在し、置換は、遺伝学的に標準的にコードできるアミノ酸から選択されるという制限を受ける。

【0069】

しかし、アンカー残基を非標準アミノ酸で置換した際の結果を予測するデータベースやアルゴリズムは存在せず、その有用性は今まで十分に調査されていない。非標準アミノ酸であるノルロイシン(Nle)及びノルバリン(Nva)を、MHC結合ペプチドのアンカー残基部位に有利に置換することができることを本明細書中に開示する。これらは、疎水性又は巨大なアミノ酸、詳細には、I、L、又はVが占める部位に置換されることが好ましい。

10

【0070】

MHC結合モチーフは、一般に、8～10アミノ酸長以内の一般的に知られた部位の好ましい残基側鎖に関して定義される(例えば、Rammensee 他., 「MHCリガンド及びペプチドモチーフ」 (Molecular Biology Intelligence Unit), Springer-Verlag, Germany, 1997 Landes Bioscience, Austin, Texas; and Parker, 他., 「個々のペプチド側鎖の独立した結合に基づく潜在的HLA-A2結合ペプチドをランク付けするためのスキーム」 J. Immunol. 152:163-175を参照のこと)。MHC結合の予測に使用可能なウェブサイトのアルゴリズムも利用できる。例えば、Hans-Georg Rammensee, Jutta Bachmann, Niels Emmerich, Stefan Stevanovicのワールド・ワイド・ウェブページ: SYFPEITHI: MHCリガンド及びペプチドモチーフのインターネットデータベース(syfpeithi.bmi-heidelberg.com/scripts/MHCServer.dll/home.htmによるハイパーテキスト・トランスファー・プロトコルアクセス)を参照のこと。他にも、「bimas.dcrt.nih.gov/molbio/hla_bind」がある。クラスI制限エピトープについて、C末端の部位PΩは、典型的には、第1のアンカーである。第2の部位P2は、しばしば第1のアンカーであるか、あるいは、P3及び/又はP5がこの役割を果たし得る。P2部位～P7部位は全て、1つ又は別のMHCの第2又は補助的アンカー部位として認識されている(Rammensee 他.及び米国特許出願公開番号第2003-0215425号の表6(その開示全体が本明細書中で参考として援用される、2001年12月7日出願された、「抗原提示細胞におけるエピトープ同期化」と題される米国特許出願番号第10/026,066号を参照のこと)。クラスII制限エピトープであるP1、P4、P6、P7及びP9は、アンカー部位として認識されている。上記は、一般的指針として意図され、例示と見なすべきであり、網羅的、制限的と見なすべきではない。結合モチーフ及びアンカー残基等の多くの分析及び統計は、化学論文及び特許書類並びにインターネットで利用可能である。この慣習及び結果により、本明細書中の教示と組み合わせた場合、エピトープアナログを設計するための有用なガイドが当業者に与えられる。

20

30

【0071】

提示MHC分子に実際に結合するペプチドの長さは、一般的に知られたモチーフ配列よりも長くてよい。クラスII MHC分子の結合溝の末端は開いており、それにより、コアモチーフのいずれかの末端で伸長することができる。対照的に、結合溝は、クラスI MHC分子の両末端で閉じており、それにより、結合ペプチドの末端は、一般に、モチーフに対応していなければならないが、長さの有意な変動を、結合ペプチドの中心領域の隆起及び折り畳みによって適合することができ、それにより、少なくとも約14アミノ酸長までのペプチドを提示することができる(例えば、Probst-Kepper, M. 他., J. Immunol. 173:5610-5616, 2004を参照のこと)。

40

【0072】

エピトープアナログは、クラスI MHC分子との相互作用並びに元のエピトープを認識するT細胞受容体との相互作用の維持又は増加に関係する K_{on} 及び K_{off} を改善し得るか、特定のT細胞集合の拡大の増強に反映されるin vivo又はex vivoにおけ

50

るでの活性を修飾又は改善し得るか、特定のT細胞によるサイトカイン産生を改善することができるか、ペプチドと反応したT細胞によって介在される、天然エピトープを保有する標的に対する *in vivo* 又は *in vitro* での細胞毒性を改善し得る。さらに、このようなアナログは、より最適な形態で、複数の異なるMHCクラスI分子と相互作用し得る。

【0073】

免疫特性が改善されたこのようなペプチドアナログは、1つ又は複数の非標準アミノ酸を含む1つ又は複数の置換を含む。非標準アミノ酸のうち、ノルバリン又はノルロイシンからなる第1のアンカー残基の置換が好ましく、これは、以下に例示するように、置換は、MHCクラスIとの相互作用を改善し得るだけでなく、天然のエピトープに特異的なTCRとの交差反応性を保存し、*in vivo* での免疫プロファイルを改善し得るからである。より詳細には、P2アミノ酸残基のA、L又はVからノルバリン又はノルロイシンへの変異により免疫特性が改善されたので、好ましい。さらに、C末端残基のノルバリン又は好ましくはノルロイシンへの修飾により、アナログの免疫特性が改善された。さらに、P2又はPΩにおける、ノルバリン及び／又はノルロイシンを含む第1及び／又は第2のアンカー残基に複数の置換を含むアナログは、免疫特性の改善に関連し得る。

【0074】

ノルバリン (Nva) 及びノルロイシン (Nle) のある使用は、米国特許番号第6,685,947号、PCT公開番号第WO03/076585号A2及び同第WO01/62776号A1、並びに米国特許公開番号第20040253218号A1に記載されている。これらの参考文献は、免疫学的特性を改善するための、MHC結合ペプチドのアンカー部位において置換されたNva又はNleの一般的有用性を教示していない。第218号公報は、置換された残基は、TCR相互作用部位に組み込まれるが、MHC相互作用部位には組み込まれないことを教示している。

【0075】

本発明のさらに別の実施形態では、ペプチドは、免疫原性を示すが、脳炎誘発性ではないNS特異的抗原由来のペプチドのアナログである。この目的のために最も適切なペプチドは、脳炎誘発性自己ペプチドがT細胞受容体 (TCR) 結合部位で修飾されているが、MHC結合部位で修飾されておらず、それにより、免疫応答が活性化されるが、反応不顕化されないペプチドである (Karin 他, 1998; Vergelli 他, 1996)。

【0076】

第776号公報に開示されたNleが組み込まれたHLA-A2.1制限ペプチドは、CEA、p53及びMAGE-3に由来する。CEAペプチドI (Nle) GVLVGV及びp53ペプチドS (Nle) PPPGTRVでは、NleはP2部位に存在する。ノルロイシンの一般的な有用性についての教示はなく、天然の配列と比較した場合、どのようにしてこのような置換によってアナログの特性が変化するのか、又は変化するのかどうかを開示していない。

【0077】

いくつかの本発明の実施形態は、MHCへの結合を促進する部位にNva及び／又はNleが組み込まれたエピトープアナログに関する。いくつかの実施形態は、詳細には、HLA-A2.1制限エピトープ、CEA、p53及び／若しくはMAGE-3由来のHLA-A2.1エピトープ、又はMAGE-3、CEA及び／若しくはp53由来の他のペプチド中のNle及び／又はNvaの使用を除外する。いくつかの実施形態は、上記の参照される特許文献中に開示の1つ又は複数の特異的配列を特に除外する。他の例示的实施形態は、P3、P5及び／又はPΩアンカー部位、非A2-HLA制限エピトープ又は非A2.1-HLA制限エピトープのアナログを作製するための補助的アンカー部位、癌遺伝子又は癌胎児性タンパク質に由来しないペプチドのアンカー部位、及びCT抗原由来のペプチドのアンカー部位におけるNle及び／又はNvaの使用を含む。

【0078】

一般に、このようなアナログは、薬剤単独又は治療と組み合わせて、免疫応答の発症及

び調節への鍵であるMHC分子及びT細胞受容体との相互作用の最適化、感染症、癌、又は炎症等の種々の疾患の免疫療法及び／又は予防に有用である。

【0079】

アナログの産生

ペプチド合成法又は所望のペプチドアナログをコードする核酸の発現を利用したペプチドの製造を含む、当業者に既知の任意の方法を使用してアナログを産生することができる。したがって、アナログが1つ又は複数の非標準アミノ酸を含む場合、アナログはペプチド産生法によって産生される可能性がより高い。アナログが1つ又は複数の標準アミノ酸による置換のみを含む場合、当業者に既知の任意の方法を使用して発現ベクターから上記アナログを発現することができる。あるいは、遺伝子治療法を使用して上記ペプチドを発現することができる。

10

【0080】

アナログ試験

アナログの有用性及び／又は活性を同定した。この方法では、有用な及び／又は改善されたアナログを同定することができる。有用であるには、アナログは、必ずしも同定アッセイで改善されていることが見出されなくてもよい。したがって、有用なペプチドは、耐性化された患者で有用であるか、又はタンパク質分解に耐性を示す等の他の特性を含む。改善されると、ペプチドの、TCRへの結合、MHC分子への結合が明確に改善され、免疫応答又は任意の他の生物活性が改善される。有用であるには、ペプチドは、マウス試験系を使用した場合に改善されないが、ヒト免疫系での相違により、ヒトで試験した場合に改善することができる。あるいは、有用性は、耐性化したヒトにおける耐性を破壊する可能性に起因する。あるいは、有用性は、改善されたアナログの改善を同定するためのさらなる置換に関する基盤としたペプチドを使用する能力に起因し得る。

20

【0081】

有用性、改善された特性を評価し、アナログを野生型と比較するために、1つ又は複数の以下のアッセイを行った：HLA-A*0201に対するペプチド結合親和性；ペプチド-HLA-A*0201複合体の安定性アッセイ、交差反応性アッセイ（野生型のペプチド特異的CTLによるペプチドアナログの認識又はペプチドアナログを使用して生成されたCTLによる野生型ペプチドの認識）、IFN- γ 分泌アッセイ、細胞毒性アッセイ及び／又はElispotアッセイ等の免疫原性アッセイ、in vitroでの腫瘍細胞溶解アッセイ、ex vivoでの腫瘍細胞溶解及びin vivoでの腫瘍細胞溶解等の抗原性アッセイ、及びタンパク質分解耐性の増大を同定するためのタンパク質分解アッセイ。例示的なアッセイの詳細は、実施例で提示される。

30

【0082】

アナログの使用

クラスIMHC制限T細胞応答、及び特に抗原に対するエフェクター及び記憶CTL応答を誘導、同調、維持、調節及び増幅するために開示されたアナログを使用する有用な方法が、「CTL応答の誘導方法」と題される米国特許出願番号第09/380,534号及び同第09/776,232号、「MHCクラスI制限免疫応答の制御方法」と題される2003年6月17日に提出された米国仮出願番号第60/479,393号、「予防又は治療目的のための、MHCクラスI制限エピトープに対する免疫応答の誘導、増大及び持続法」と題される米国特許出願番号第10/871,707号（公開番号第20050079152号）及び2004年12月29日に提出された米国仮特許出願番号第60/640,402号に記載されている。アナログはさらに最適化されたアナログを得るための調査において使用することができる。多くのハウスキーピングエピトープは2002年4月4日に提出された米国出願番号第10/117,937号（公開番号第20030220239号A1）及び同第10/657,022号（同第2004-0180354号）並びに2003年9月5日に提出されたPCT出願番号第PCT/US2003/027706号（公開番号第W004022709号A2）並びに2001年4月6日に提出された米国仮出願番号第60/282,211号、2001年11月7日に提出された

40

50

同第60/337, 017号、2002年3月7日に出願された同第60/363, 210号、2002年9月5日に出願された同第60/409, 123号で提供され、これらの各出願は、「エピトープ配列」と題されている。さらにアナログはこれらの出願に記載されている様々な態様のうちの任意のものに使用することができる。エピトープクラスタ（アナログからなるか又はアナログを包含する）が、「エピトープクラスタ」と題され、2000年4月28日に出願された米国特許出願番号第09/561, 571号に開示され、より完全に定義される。アナログを使用及び伝達する方法が、それぞれ「CTL応答を誘導する方法」と題される米国特許出願番号第09/380, 534号及び同第09/776, 232号（公開番号第20020007173号A1）及びPCT出願番号第PCTUS98/14289号（公開番号第WO9902183号A2）に記載される。このような免疫療法のための有益なエピトープ選択法が、「抗原提示細胞におけるエピトープ同期化」と題され、2000年4月28日に出願された米国特許出願番号第09/560, 465号、2001年12月7日に出願された同第10/026, 066号（公開番号第20030215425号A1）、2001年11月7日に出願された同第10/005, 905号、「エピトープ発見法」と題される同第09/561, 074号、「エピトープクラスタ」と題され、2000年4月28日に出願された同第09/561, 571号、「癌のための抗血管新生製剤」と題され、2002年3月7日に出願された同第10/094, 699号（公開番号第20030046714号A1）、「エピトープ配列」と題され、2002年4月4日に出願された出願番号第10/117, 937号（公開番号第20030220239号A1）及びPCTUS02/11101号（公開番号第WO02081646号A2）、「エピトープ配列」と題され、2003年9月5日に出願された出願番号第10/657, 022号及びPCT出願番号第PCT/US2003/027706号（公開番号第WO04022709号A2）に開示される。ワクチンプラスミドの全体の設計の態様は、「標的関連抗原のエピトープをコードする発現ベクター」と題され、2000年4月28日に出願された米国特許出願番号第09/561, 572号、「標的関連抗原のエピトープをコードする発現ベクター及びこれらの設計法」と題され、2002年11月7日に出願された同第10/292, 413号（公開番号第20030228634号A1）、「標的関連抗原のエピトープをコードする発現ベクター」と題され、2002年8月20日に出願された同第10/225, 568号（公開番号第20030138808号）及び2003年8月19日に出願されたPCT出願番号第PCT/US2003/026231号（公開番号第WO2004/018666号）、並びに「プラスミド増幅における望ましくない複製中間体の回避」と題される米国特許番号第6, 709, 844号に開示される。特定の癌に対する免疫応答を導く上で特に有益な特異抗原の組み合わせは、「様々なタイプの癌のためのワクチンにおける腫瘍関連抗原の組み合わせ」と題される、2003年6月17日に出願された米国仮特許出願番号第60/479, 554号及び2004年6月17日に出願された米国特許出願番号第10/871, 708号並びにPCT出願番号第PCT/US2004/019571号（公開番号第WO2004/112825号）に開示される。腫瘍血管新生に関連する抗原（例えば、PSMA、VEGFR2、Tie-2）は、「癌のための抗血管新生製剤」と題され、2002年3月7日に出願された米国特許出願番号第10/094, 699号（公開番号第20030046714号A1）に開示されるように、癌性疾患に関してもまた有用である。標的を定めた生物反応修飾物質の投与による免疫応答の誘発、維持及び操作方法は、2004年12月29日に出願された米国仮出願番号第60/640, 727号に開示される。CD4+細胞を介さずに免疫応答を誘導する方法は、2004年12月29日に出願された米国仮出願番号第60/640, 821号で開示される。例示的な疾患、組織及び抗原並びに標的組織、標的細胞及び標的疾患に関するエピトープは、「CTL応答の誘導法」と題され、2001年2月2日に出願された米国出願番号第09/776, 232号（公開番号第20020007173号）に記載される。例示的な方法は、「様々なタイプの癌の診断における腫瘍関連抗原の組み合わせ」と題され、2004年6月17日に出願された米国仮出願番号第60/580, 969号及び2005年6月17日に出

10

20

30

40

50

願された米国特許出願番号第__／__号(代理人整理番号：MANNK.050A)に見出される。方法及び組成物はまた、「様々なタイプの癌のための組成物における腫瘍関連抗原の組み合わせ」と題され、2004年12月29日に出願された米国仮出願番号第60／640,598号に開示される。免疫応答性を評価、モニタリングする診断法と、アナログの利用を含む免疫化との統合は、「診断と治療法の統合による、積極的な免疫治療の有効性の改善」と題され、2004年6月17日に出願された米国仮特許出願第60／580,964号及び2005年6月17日に出願された米国特許出願番号第__／__号(代理人整理番号MANNK.040A)においてより完全に議論される。免疫原性ポリペプチドコードベクターは、「標的関連抗原のエピトープをコードする発現ベクター及びこれらの設計法」と題され、2002年11月7日に出願された米国特許出願番号第10／292,413号(公開番号第20030228634号A1)並びに「癌細胞及び腫瘍間質で発現する主要なエピトープ及びそれに次ぐ主要なエピトープに対する多価免疫応答を誘導する方法及び組成物」と題され、(代理人整理番号 MANNK.053PR)、2005年6月17日に出願された米国仮出願番号第__／__, __号に開示される。さらに、重要な方法及び組成物を含む有用な開示は、「癌腫のための多価の同調増幅免疫治療」と題され、2005年6月17日(代理人整理番号 MANNK.054PR)に出願された米国仮出願番号第__／__, __号に見出される。さらなる方法、組成物、ペプチド及びペプチドアナログは、「SSX-2ペプチドアナログ」及び「NY-ESOペプチドアナログ」と題され、2004年6月17日に出願された米国仮出願番号第60／581,001号及び同第60／580,962号にそれぞれ開示される。この段落で言及されるこれらの出願の全ては、これらが教示する全てに関して、全体が参照として本明細書中に援用される。さらなるアナログ、ペプチド及び方法が、2005年6月17日に出願され、「SSX-2ペプチドアナログ」と題される米国特許出願番号第__／__, __号(代理人整理番号：MANNK.038A)、「NY-ESO-1ペプチドアナログ」と題される米国特許出願番号第__／__, __号(代理人整理番号：MANNK.039A)、及び「エピトープアナログ」と題される米国特許出願番号第__／__, __号(代理人整理番号：MANNK.051A)に開示される。これらに制限はされないが、例としてこれらの参考文献は、これらがクラスI MHC制限エピトープ、そのアナログ、アナログの設計、エピトープ及びアナログの使用、エピトープの使用法及び作製法、並びにこれらの発現のための核酸ベクターの設計及び使用について教示する事柄に関して、参照によって援用される。

【0083】

抗原

MHC制限様態においてT細胞によって認識される多くのエピトープを持つ抗原が存在し、これらに対する免疫応答の操作は、潜在的に治療性又は予防性を有する。本明細書中に記載されているMHC結合ペプチドのアナログを作製するための原則は、一般的にこれらの抗原及びそれらのエピトープのいずれかに適用可能である。本開示の具体的な焦点は、腫瘍関連抗原(TuAA)SSX-2、NY-ESO-1、PRAME、PSMA、チロシナーゼ、及びMelan-Aからのエピトープである。

【0084】

Hom-Mel-40としても既知であるSSX-2は、保存性の高い精巣癌抗原のファミリーの成員である(Gure, A.O.他 Int. J. Cancer 72:965-971, 1997、これは、本明細書にその全体が参照によって援用される)。このTuAA抗原としての同定は、「メラノーマ特異抗原をコードする単離核酸分子及びその使用」と題される米国特許番号第6,025,191号で教示され、これはその全体が参照により本明細書に援用される。精巣癌抗原は多様な腫瘍に見出されるが、一般的に精巣を除く正常な成人組織には存在しない。SSX-2は、滑膜肉腫、メラノーマ、頭部及び頸部癌、乳癌、結腸及び卵巣癌を含む多くの異なるタイプの腫瘍で発現する。多様な癌におけるその幅広い発現に加えて、末期の疾患の患者におけるSSX-2は免疫原性でもある。さらに、転移性腫瘍の患者におけるこの抗原に対する自然発生的な体液性免疫応答及び細胞性免疫応答の証拠が存在し(Ayyoub M他, Cancer Res. 63(17):5601-6, 2003、Ayyoub M他 J Immunol. 168(4):1717-22, 2002)、これはその全体が参照により本明細書に援用される。2つのHLA-A2制限

T細胞エプトープが逆T細胞免疫、すなわちSSX-2₄₁₋₄₉(Ayyoub M他 J Immunol. 168(4): 1717-22, 2002、「HLA分子と結合する、SSX又はNY-ESO-1分子において見出されるアミノ酸配列から成る単離ペプチド」と題される米国特許番号第6548064号、「エプトープ配列」と題される米国特許出願番号第10/117,937号)及びSSX-2₁₀₃₋₁₁₁(Wagner C他 Cancer Immunity 3:18, 2003))を用いて近年同定され、これらはそれぞれその全体が参照により本明細書に援用される。両方のエプトープのC末端は、*in vitro*でのプロテアソーム消化によって効率的に生成することができる。SSX-2陽性の患者の腫瘍浸潤リンパ節由来の単離HLA-A*0201/SSX-2₄₁₋₄₉多量体⁺CD8⁺T細胞が高い機能性結合力を示し、効果的にSSX-2陽性腫瘍を認識することができるが、自然発生的に起こる免疫応答は、腫瘍の増殖を停止するのに十分ではなく、それはおそらくこれらの免疫応答が疾患の進行のかなり遅い段階まで発現せず、活性化したT細胞が十分な数存在しないためである。さらに、米国特許番号第6,548,064号(これは、その全体が参照により本明細書に援用される)は、SSX-2エプトープのP2部位及びPΩ部位の両方で、T又はA残基を置換することを記載している。

10

【0085】

NY-ESO-1は、多種多様な腫瘍において見られる精巣癌抗原であり、CTAG-1(精巣癌抗原-1)及びCAG-3(癌抗原-3)としても知られている。腫瘍関連抗原(TuAA)としてのNY-ESO-1は、「食道癌関連抗原をコードする単離核酸分子、抗原自体、及びそれらの使用」と題される米国特許第5,804,381号に開示されて、これは、その全体が参照により本明細書に援用される。広範な配列同一性を有する抗原をコードするパラログスな遺伝子座であるLAGE-1a/s及びLAGE-1b/Lは、公的に入手可能なヒトゲノムのアセンブリ中に開示されており、選択的スプライシングを介して生じると結論付けられている。さらに、CT-2(又はCTAG-2、精巣癌抗原-2)は、LAGE-1b/Lの対立遺伝子、突然変異体又は配列不一致のいずれかであるように思われる。広範な配列同一性のために、NY-ESO-1からの多くのエプトープはまた、これら他の抗原を発現している腫瘍に対して免疫性を誘導することができる。タンパク質は、アミノ酸70までは事実上同一である。71から134では、NY-ESO-1とLAGEの間の同一性の最大長は6残基であるが、潜在的に交差反応可能な配列が存在する。そして、135から180まで、NY-ESO及びLAGE-1a/sは、ただ一つの残基以外は同一であるが、LAGE-1b/Lは選択的スプライシングにより関連性がない。CAMEL及びLAGE-2抗原は、LAGE-1のmRNAに由来するが、選択的リーディングフレームに由来すると思われ、そのため関連性のないタンパク質配列が生じてしまう。つい最近、GenBankアクセッション番号AF277315.5(その全体が参照により本明細書に援用される)ヒト染色体XのクローンであるRP5-865E18及びRP5-1087L19、完全配列は、この領域内の3つの独立遺伝子座を報告しており、LAGE1(ゲノムアセンブリ中のCTAG-2に対応)、並びにLAGE2-A及びLAGE2-B(両者ともゲノムアセンブリ中のCTAG-1に対応)と標識されている。

20

30

【0086】

NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅は、「癌関連抗原をコードする単離核酸分子、抗原自体、及びその使用」と題される米国特許番号第6,274,145号においてHLA-A2制限エプトープとして同定され、「エプトープ配列」と題される米国特許出願番号第10/117,937号(公開番号第20030220239号)は、このC末端が*in vitro*でのアッセイにおいて、ハウスキーピングプロテアソームによって生成することを報告している。PΩでA、V、L、I、P、F、M、W又はGを置換するアナログは、単独で、又は別の位置でAと組み合わせて、「NY-ESO-1ペプチド誘導體及びその使用」と題される米国特許番号第6,417,165号及び同第6,605,711号に開示されている。この段落で開示されている参考文献は、その全体が参照により本明細書に援用される。

40

50

【0087】

MAPE、DAGE及びOIP4としても既知であるPRAMEは、元々はメラノーマ抗原とされていた。続いて、これはCT抗原として認識されているが、多くのCT抗原（例えば、MAGE、GAGE及びBAGE）とは違い、これは急性脊髄性白血病で発現する。PRAMEは、主として、限定された配列相同性を共有する仮想タンパク質から成るMAPEファミリーの成員である。TuAAとしてのPRAMEの実用性は、「腫瘍拒絶抗原前駆体DAGEをコードする単離核酸分子及びその使用」と題される米国特許番号第5,830,753号で教示され、これは、その全体が参照により本明細書に援用される。「T細胞ペプチドエпитープ及び該選択されたエпитープを組み込むワクチンの選択法及び製造法」と題される米国特許出願番号第10/181,499号（これは、その全体が参照により本明細書に援用される）は、*in vitro*での免疫プロテアソームによる消化を利用して、PRAME₄₂₅₋₄₃₃を含む多様で潜在的なエпитープを同定する。

10

【0088】

その全体が参照により本明細書に援用される、「前立腺特異的膜抗原」と題される米国特許番号第5,538,866号に記載されているTuAAであるPSMA（前立腺特異的膜抗原）が正常な前立腺上皮によって、前立腺癌においてはより高いレベルで発現される。これはまた、非前立腺腫瘍の血管新生においても見出されている。したがって、PSMAは、前立腺癌及び他の腫瘍の血管新生の両方を対象とするワクチンの基礎を形成することができる。この後者の考え方は、米国特許公開番号第20030046714号、PCT公開番号第W002/069907号、及び「癌のための抗血管新生ワクチン」と題され、2001年3月7日に提出された米国仮特許出願番号第60/274,063号並びに「癌のための抗血管新生製剤」と題され、2002年3月7日に提出された米国出願番号第10/094,699号においてより完全に記載され、これらはそれぞれその全体が参照により本明細書に援用される。上記公開書類及び出願書類で開示される教示及び実施形態は、本発明に関連があり、有用である主要物及び実施形態をサポートするように考慮される。簡潔に言えば、腫瘍は増殖する際、新生血管の内部成長させる。これは、血管新生しない腫瘍の中心部が一般的に壊死性(necrotic)であるので、成長を維持するために必要であると理解され、血管新生阻害剤は腫瘍の退行を引き起こすと報告されている。このような新生血管又は血管新生は、確立した血管で見出されない抗原を発現し、したがって、特異的に標的化することができる。血管新生抗原に対してCTLを誘導することによって、血管は崩壊し、栄養物の腫瘍への流れ（及び腫瘍からの廃棄物の除去）を遮断し、退行を導くことができる。

20

30

【0089】

PSMA mRNAの選択的スプライシングもまた、Met₅₈で始まるタンパク質へと導き、これにより、その全体が参照により本明細書に援用される「選択的スプライシングされた前立腺特異的な膜抗原をコードする単離核酸分子、及びその使用」と題される米国特許番号第5,935,818号に記載されるように、PSMAの推定膜アンカー領域を欠失させる。その全体が参照により本明細書に援用されるGenBankアクセッション番号AF261715である、PSMA様タンパク質と称されるタンパク質は、PSMAのアミノ酸309～750とほぼ同一であるが、異なる発現プロファイルを有する。したがって、より好ましいエпитープは、アミノ酸58～308に位置するN末端を有するエпитープである。PSMA₂₈₈₋₂₉₇は、その全体が参照により本明細書に援用される「HLA結合ペプチド及びその使用」と題されるW001/62776におけるHLA-A2結合モチーフを保有するように同定される。ハウスキーピングプロテアソームによる消化及びHLA-A2との実際の結合による*in vitro*でのその製造は、「エпитープ配列」と題される米国特許出願番号第2003-0220239号に開示されている。

40

【0090】

チロシナーゼは、メラニン細胞分化の最も特異的なマーカの一つであると考えられているメラニン生合成酵素である。チロシナーゼはわずかな細胞型、主にメラニン細胞で発現され、しばしばメラノーマにおいて高レベルであることが分かった。TuAAとしてのチ

50

ロシナーゼの有用性は、その全体が参照により本明細書に援用される「一部の異常細胞がHLA-A2/チロシナーゼ由来ペプチドの複合体を提示する細胞異常を患う個体を識別する方法、及びその個体の治療法」と題される米国特許第5,747,271号に教示されている。

【0091】

MART-1 (T細胞により認識されるメラノーマ抗原)とも呼ばれるMelan-Aは、メラノーマにおいて高いレベルで発現する別のメラニン生合成タンパク質である。TuAAとしてのMelan-A/MART-1の有用性は、「メラノーマ抗原並びに診断法及び治療法におけるその使用」と題される米国特許番号第5,874,560号及び同第5,994,523号、並びに「HLA-A2により提示される少なくとも1つの腫瘍拒絶抗原へプロセッシングされる腫瘍拒絶抗原前駆体をコードする単離核酸配列」と題される米国特許番号第5,620,886号で教示され、これらは全てその全体が参照により本明細書に援用される。このTuAAからのエピトープを制限する免疫優勢HLA-A2は、Melan-A₂₆₋₃₅である。これは、ハウスキーピングプロテアソームによって製造されることが示されており(Morel, S他 Immunity 12:107-117, 2000)、その全体が参照により本明細書に援用される。P2でLを置換する改善されたアナログを含む標準アミノ酸を組み込む様々なアナログが、「HLA分子と結合する単離ノナペプチド及び単離デカペプチド並びにそれらの使用」と題される米国特許番号第6,025,470号に開示され、これはその全体が参照により本明細書に援用される。生化学的安定性の改善という主目的を伴う非標準アミノ酸を組み込むアナログの使用が、Blanchet, J.-S.他, J. Immunol. 167:5852-5861, 2001で報告されており、これはその全体が参照により本明細書に援用される。

【0092】

SSX-2₄₁₋₄₉アナログ

上述のように、SSX-2₄₁₋₄₉への応答を含む、癌患者におけるSSX-2への自然な免疫応答は、癌を制御するのに効果的ではない可能性がある。さらに、野生型SSX-2₄₁₋₄₉は、その臨床的潜在性をさらに制限することができる適当な免疫原性ペプチドにすぎない。スーパーアゴニストアナログの使用によって誘導されるより強いSSX-2特異的な免疫応答は、SSX-2陽性腫瘍を有する患者に対して臨床的恩恵をもたらす。

【0093】

したがって、一実施形態では、アナログは組成物中で使用され、被検体の免疫応答を刺激して、標的抗原を示す標的細胞に対する免疫応答を増大させることができる。上記実施形態は、腫瘍性疾患及びウイルス性疾患の治療及び予防における実用性を有すると考えられる。

【0094】

野生型のSSX-2₄₁₋₄₉は、*in vivo*で効果的に腫瘍を除去することを妨げ得る適当な免疫原性ペプチドにすぎないので、方法が、より効果があるか又は改善された多様な特性を有する*de novo*設計SSX-2₄₁₋₄₉バリエーションに使用された。より免疫原性のあるSSX-2アナログペプチドを使用することで、臨床的応答をより良くするために、より強い免疫応答を刺激すること及び/又は自然に起こる免疫応答を増幅することを可能にした。したがって、野生型エピトープに対する結合特性(親和性及びHLA-A*0201/ペプチド複合体安定性)、免疫原性、抗原性及び交差反応性が、各アナログに関して分析され、改善された特性を同定した。いくつかの実施形態では、特性の改善とは、アナログが野生型よりもいくつかの目的に良好に使用することができるということを一般的に意味する。したがって、アナログは改善された結合、安定性又は改善された活性を示す必要はなく、このプロセスの或る特定の部分を媒介する能力の低減さえ示すことがあるが、それでもなお、別の方法では使用のために改善し得る。例えば、活性全てというわけではないが、いくつかの活性を維持するアナログは、野生型抗原に耐性があるヒトシステムにおいてより良好である。

【0095】

これまでに、好適なアンカー残基を組み込むことによる天然腫瘍関連ペプチドエピートプの修飾は、HLA分子と共に結合プロファイルの改善を伴うアナログを生成させ、免疫原性を増大させている。最も成功した例の1つは、Melan-A 26~35エピートプのA 27Lペプチドアナログである。「Melan-A/MART-1免疫優勢ペプチドアナログを選択することによる *in vitro* での特異的な腫瘍反応性CTLの生成の増大」Valmori他、J Immunol. 1998,160(4):1750-8、これはその全体が参照により本明細書に援用される。元のエピートプが2部位において最適なアンカーアミノ酸残基を欠いているので、元のエピートプはHLA-A 2分子と安定な複合体を形成することができなかった。修飾されたA 27L Melan-A 26~35ペプチドアナログは、HLA-A 2分子に対する結合プロファイルが明らかに増大し、その野生型より大きな免疫原性を示している。このアナログで患者に免疫性を付与することにより、細胞表面に提示される野生型のエピートプを認識できる強いT細胞免疫応答を引き起こすことができる。同様の修飾を、GP100 209~217(「HLA-A*0201結合残基で修飾されたメラノーマ抗原gp100由来のペプチドを有するメラノーマ反応性CTLの誘導の改善」Parkhurst他、J Immunol. 1996,157(6):2539-48、これは、その全体が参照により本明細書に援用される)、Her-2 369~377(「MHC接触残基の変更によるHER-2/neuプロトオンコジーンの免疫優勢エピートプの免疫原性の改善」Vertuani他、J Immunol. 2004, 172(6):3501-8、これはその全体が参照により本明細書に援用される)のような他の多くの腫瘍関連エピートプを用いることで得ることに成功している。

【0096】

この時点までに、SSX-2₄₁₋₄₉アナログが多様な癌、特にSSX-2陽性癌及び／又は腫瘍を治療するためにSSX-2を基とするワクチンの開発にかなり有望であったにもかかわらず、このアナログは設計且つ研究されてこなかった。したがって、滑膜肉腫X切断点2(SSX-2)の野生型配列に対するアナログの同定及び製造に使用することができる方法が本明細書中に開示される。この方法を使用して、アミノ酸241~249の野生型の配列に基づく95個の新規SSX-241-49アナログのパネルを多様な改善された特性で同定した。改善された特性には、クラスIMHC及びT細胞受容体(TCR)分子との結合、並びにIFN- γ 分泌、細胞毒性、及び腫瘍細胞溶解のような生物反応が挙げられるが、これらに限定されない。野生型エピートプとの交差反応性を維持するという効果の改善を伴うペプチドが同定された。これらのアナログの中で、いくつかは、野生型SSX-241-49ペプチドのスーパーアゴニストバリエーションであることが実証されており、そのアナログのいくつかはHLA-A*0201分子及び広範な安定性を有するペプチド-HLA複合体に対して非常に高い親和性を有することが示されている。マウスをこれらのアナログで免疫化した場合、HHDTランスジェニックマウスにおけるCTL免疫応答の増大を誘導することができる。得られたCTLは、*in vivo* 及び *in vitro* の両方でA 2+及びSSX-2+腫瘍細胞系を効果的に溶解することができ、このアナログを使用して生じたCTLが、細胞表面に自然発生的に提示された野生型SSX-241-49エピートプを認識することができることを示している。野生型SSX-241-49エピートプと比較して、アナログは癌ワクチンの開発のより良い候補物質である。

【0097】

実施形態には、ヒト精巣癌(CT)抗原SSX-2(SSX-2₄₁₋₄₉)のアミノ酸41~49に対する配列に関連する9又は10個のアミノ酸長の1つ又は複数のペプチドの集合が挙げられる。個々のペプチドの実施形態は、野生型の配列において定義された1つからいくつかのアミノ酸置換を有する。置換されたアミノ酸は、多様に通常遺伝的にコードされるアミノ酸の標準的なセット、これらの誘導體、これらのD-立体異性体、又は他の非標準L-アミノ酸の別の成員である。これらのアナログは、クラスIMHC分子及びTCR分子並びに免疫応答における他の成分と、野生型エピートプの相互作用を研究するのに、また、免疫学的特性のさらなる最適化を伴うさらなるアナログを設計するのに有用である。上記アナログのいくつかの実施形態は、免疫学的特性が試験されているHLA-

トランスジェニックマウスモデルにおいて、野生型エピトープと少なくとも同様の免疫学的特性を有する。S S X-2 が、耐性の程度が予測され得る自己抗原であるので、このようなペプチドはヒトにおいて有用であり、アナログにおけるアミノ酸の相違によって、野生型エピトープと交差反応性であるが、陰性選択を回避しているT細胞の集団を刺激するのに助けることができる。様々なペプチドの実施形態は、MHCに対するより大きな親和性若しくはMHCとのより大きな結合安定性を有し、野生型エピトープを認識するT細胞からと同程度のサイトカイン製造を誘導するのに、より大きなサイトカイン製造を誘導するか又はより小さなペプチド濃度を必要とし、より免疫原性があり、野生型エピトープに対する交差反応性細胞溶解応答を誘導又は増幅することができ、或いは耐性を破壊することができるという1つ又は複数の改善された免疫学的特性を有する。

10

【0098】

一実施形態においてアナログは、P 1、P 2、P 4、P 6、P 8、P 9及びP 10から成る群から選択される残基における置換を少なくとも1つ有する。さらなる実施形態において、アナログは、P 1、P 2、P 4、P 6、P 8、P 9及びP 10から成る群から選択される残基における置換を少なくとも2つ有する。さらなる実施形態において、アナログは、P 1、P 2、P 4、P 6、P 8、P 9及びP 10から成る群から選択される残基における置換を少なくとも3つ有する。さらなる実施形態において、アナログは、P 2部位及びP 9部位における置換を有する。さらなる実施形態においてペプチドは、P 1残基、P 2残基及びP 9残基における置換を有する。さらなる実施形態において、ペプチドアナログは、P 1残基、P 2残基及びP 4残基における置換を有する。さらなる実施形態において、ペプチドアナログは、P 1残基、P 2残基及びP 6残基における置換を有する。さらなる実施形態において、ペプチドアナログは、P 1残基、P 2残基及びP 8残基における置換を有する。一実施形態では2つの置換が、特性の改善を引き起こす。さらなる実施形態では、1つの置換が、特性の改善を引き起こす。さらなる実施形態では3つの置換が、特性の改善を引き起こす。さらなる実施形態では1つ又は複数の置換が、特性の改善を引き起こすが、なお野生型の配列と交差反応す、野生型の配列を認識するTCRによって依然として認識される。

20

【0099】

一実施形態は、アナログを遊離させるようにプロセッシングすることができるエピトープアナログ配列を含むエピトープアレイ及び他のポリペプチドに関する。さらなる実施形態は、このようなポリペプチド又は単にアナログをコードする核酸、特にDNAプラスミド、及びこれらの発現に関する。アナログ、アナログを含むポリペプチド、及びコード核酸は全て、免疫原性組成物、とりわけ、さらなる実施形態を構成する、リンパ管内輸送に適した組成物である。

30

【0100】

アナログ設計

実施形態は、配列K A S E K I F Y Vの置換を含むS S X-2₄₁₋₄₉ペプチドに関する(図1参照)。さらなる実施形態では、アナログは一般的に配列K A S E K I F Y V Yを有するS S X-2₄₁₋₅₀十量体ペプチドのアナログである。ペプチドを構成する残基又はアミノ酸は、N末端からC末端まで番号を付けたペプチド内の位置を示すために、P 1-P 9又はP 1-P 10として本明細書中に言及され、P 1は九量体におけるN末端のリジンに対応し、P 9はP 1及びC末端のバリンに対応する。あるいは、残基は、これらが含まれる分子の主な活性を方向付ける。例えば、P 2残基は、N末端の第1のアンカー分子として記載され、一方P 9(又は十量体ではP 10)は、第1のC末端のアンカーとして記載される。残基P 4、P 6及びP 8は、最初にTCR相互作用に関係する。置換には、当業者に既知の標準アミノ酸及び非標準アミノ酸を含む任意のアミノ酸を使用することができる。多くの例示的なアミノ酸が本明細書中に開示されているが、本明細書中に開示される置換は、全ての推測される置換を含むリストを意味するものではなく、可能性のある置換の例示である。当業者は、本明細書中のアナログに使用するために購入又は化学的に製造される多くの他の非標準アミノ酸を、カタログ及び参照において見出すことができる

40

50

。

【0101】

多くの可能性のあるアナログは、N末端の第1のアンカー（P2部位）、N末端の第2のアンカー（P1部位）、N末端の第1及び第2のアンカー（P1部位及びP2部位）、N末端の第1／第2のアンカー（P1部位及びP2部位）、及びC末端第1のアンカー（P9部位）などにおいて、より良いHLA結合プロファイル及びより高い免疫応答を達成するためのペプチドアンカー残基の修飾により製造された。さらに、アンカー残基及びTCR接触残基における修飾を伴うペプチドが、自己抗原に対するT細胞耐性を回避するために製造され、これらの修飾には、N末端の第1の／第2のアンカー（P1部位及びP2部位）及び第2のTCR認識部位（P4部位、P6部位及び／又はP8部位）での修飾、N末端の第1／第2のアンカー（P1部位及びP2部位）での修飾、並びにC末端の第1のアンカー（P9）及び第2のTCR認識部位（P4部位、P6部位及び／又はP8部位）での修飾が含まれた。さらに、十量体アナログが生成された。

10

【0102】

改善された特性を有するアナログを残基が最大に生成するであろう選択は、MHCペプチド相互作用の研究、TCRペプチド相互作用の研究及び当該技術分野で既知のこれまでのアナログの分析を必要とした。いくつかの残基は、最初に特定の相互作用を伴い、いくつかの残基は二次的な相互作用、又は三次的な相互作用を伴うことさえある。したがって、上記残基がどのようにこれらの分子と結合するかという知識は、上記分析に関係している。さらに、野生型残基のいくつかは、これらが目的とする相互作用に十分に働くという意味で好ましく、一方、他の野生型の残基は、相互作用にあまり十分に働かないという意味で好ましくない。したがって、一実施形態では、好ましくない残基が置換され得る。例えば、C末端のバリンはHLA分子との強い相互作用を生むので、一般的に好ましいアンカー残基であり、よって、この残基を置換するのはあまり好ましくない。しかし、有益なアンカー残基を組み込むことによる野生型の腫瘍関連ペプチドエピトープの修飾が、HLA分子との結合プロファイルの改善及び免疫原性の増大を伴うアナログを生成する。最も成功した例の1つは、Me1an-A26-35エピトープのA27Lペプチドアナログである(Valmori D他 J Immunol. 160(4):1750-8,1998、これはその全体が参照により本明細書に援用される)。元のエピトープは部位2で最適なアンカー残基を欠くので、HLA-A2分子と安定な複合体を形成することはできなかった。対照的に、修飾されたMe1an-A₂₆₋₃₅A27Lペプチドアナログは、HLA-A2分子との結合プロファイルが明白に増大し、野生型よりも大きい免疫原性を示した。このアナログを用いて、患者を免疫化することにより、細胞表面で提示された野生型エピトープを認識することができる、強いT細胞免疫応答を生じた。GP100 209~217(Parkhurst MR他 J Immunol. 157(6):2539-48,1996、これは、その全体が参照により本明細書に援用される)、Her-2 369~377(Vertuani S他 J Immunol. 172(6):3501-8,2004、これはその全体が参照により本明細書に援用される)のような他の多くの腫瘍関連エピトープを用いることにより、同様の修飾が得られた。

20

30

【0103】

置換する残基の個数の選択には、野生型のエピトープを認識するT細胞によって依然として認識されるであろうエピトープの質を十分に維持しつつ、より良好な残基を置換することが必要とされる。したがって、一実施形態では、1つ又は2つの置換が野生型のペプチドで為される。さらなる実施形態では、野生型のペプチドとの交差反応性を依然として維持しつつ、2つよりも多い置換が野生型のペプチドで為される。

40

【0104】

したがって、一般的には、TCR認識に関係するペプチドの一部は、野生型エピトープと交差反応するとともに、免疫原性が改善されるように置換されることが望ましい。例えば、免疫原性の増大を示すペプチドが好ましい。N末端のP2すなわち第2のアミノ酸は、改善した結合特性により、改善した免疫原性を生むプロセスに最初に関わると考えられているので、好ましい置換部位であり、目的の置換を同定するために多くの修飾が例示的

50

なアナログにおいて為された。同様の考え方が、MHC結合にも重要であるカルボキシ末端部位、すなわちPΩにもあてはまる。

【0105】

したがって、一実施形態において、アナログには、野生型のアラニンをより疎水性の残基に置換する、P2残基における置換が挙げられる。さらなる実施形態では疎水性残基はまた、より巨大な側鎖を有することができる。さらなる実施形態では、P1の残基は、より疎水性の残基で置換することができる。さらなる実施形態では、P1及びP2残基の両方がより疎水性の残基で置換することができる。さらなる実施形態では、P1、P2及びP9の残基の少なくとも1つを置換することができる。さらなる実施形態では、P1、P2及びP9の残基の少なくとも2つを置換することができる。さらなる実施形態では、P1、P2、P9、P4、及びP6での残基の少なくとも2つを、TCR結合に関連する1つ又は複数の残基を含んで、置換することができる。

10

【0106】

さらに、TCR又はMHC分子との結合を二次的にのみ伴うこれらの残基の置換が、有益である。例えば、二次的なTCR結合アミノ酸の置換は、依然として結合し、応答を生じ、且つMHC分子との結合を妨げないが、好ましくは自己抗原の耐性問題を克服するアナログを生成することができる。これは、癌を有する患者が抗原に部分的に耐性化し得るので有用である。したがって、この耐性を克服するために、いくつかの活性を維持するアナログが、より改善された免疫原性を有するアナログより好ましい可能性があるが、それは、このアナログが免疫系により「自己」として認識される可能性が低いからである。

20

【0107】

1. N末端に近接した第1のアンカー修飾(P2)

N末端の第1のアンカーは、ペプチドの第2のN末端アミノ酸であり、N末端に近接した第1のアンカーである。これは、最初にMHC分子との相互作用に関わり、置換が結合及び安定性の改善をもたらし得る。しかし、これはまた、TCR相互作用にも二次的に関わり得る。したがって、この部位の置換は、MHC分子との相互作用の改善並びにTCRとの相互作用の改善を伴うペプチドをもたらし得る。

【0108】

野生型の配列におけるこの部位で見出されるアラニンは、一般的にMHC分子との相互作用に関して好ましくないと考えられている。したがって、好ましい実施形態のアナログは、この部位での置換を有する。一実施形態では、野生型の配列において見出された元のAla42は、より疎水性のアミノ酸で置換することができる。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸を含む、利用可能であるか又は当業者に既知である任意のものを含めた、より疎水性の任意のアミノ酸を使用することができる。さらなる実施形態では、元のAla42は、巨大な側鎖も保有しているより疎水性のアミノ酸で置換される。より疎水性のアミノ酸の例としては、Leu、Val、Ile、Met、 α -アミノ酪酸、ノルロイシン及びノルバリンが挙げられるが、これらに限定されない。

30

【0109】

【表 1】

表 1

N末端近接第 1 のアンカーの改変

カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NIH)	1/2 最大結合 (mM)	比親和性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性および fct 親和性 (天然に対するアナログ)*
天然ペプチド	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
N 末 第 1 アンカー	SSX2 41-49 (A42L)	KLSEKIFYV	28 / 73228	8.89	1.6	19	0.03
	SSX2 41-49 (A42V)	KVSEKIFYV	22 / 6407	5.2	2.8	20	0.03
	SSX2 41-49 (A42I)	KISEKIFYV	26 / 10068	8.8	1.7	22.5	3
	SSX2 41-49 (A42M)	KMSEKIFYV	26 / 52887	8.8	1.7	22.5	0.1
	SSX2 41-49 (A42(D-Ala))	K(D-Ala)SEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	10
	SSX2 41-49 (A42(D-Leu))	K(D-Leu)SEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	N/T
	SSX2 41-49 (A42(D-Val))	K(D-Val)SEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	3
	SSX2 41-49 (A42(Nal-1))	KNal-1SEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	>10
	SSX2 41-49 (A42(Nal-2))	KNal-2SEKIFYV	NA	13.9	1.1	N/A	3
	SSX2 41-49 (A42(Abu))	KAbuSEKIFYV	NA	7.56	1.9	N/A	0.3
	SSX2 41-49 (A42(Nle))	KNleSEKIFYV	NA	5.82	2.5	24	0.1
	SSX2 41-49 (A42(Nva))	KNvaSEKIFYV	NA	11.4	1.3	N/A	0.1
	SSX2 41-49 (A42(Aib))	KAibSEKIFYV	NA	18.4	0.8	N/A	3

【0110】

2. N末端の第2のアンカー修飾 (P1)

N末端の第2のアンカーは、N末端の第1のアミノ酸である。この残基は、L y s 4 1 であり、H L A - A * 0 2 0 1 分子との相互作用における第2のアンカー残基として定義される。しかし、これはまた、T細胞受容体との相互作用に或る程度関与する。したがって、この位置の修飾は、より免疫原性で、腫瘍ワクチンの開発により好適ないくつかのヘテロクリティックアナログを生成することができる。この位置でのリジンが一般的に好ましいと考えられるが、置換は特性の大きな改善を伴う。

【0111】

したがって、一実施形態では、野生型の配列において見出される元の L y s 4 3 はより疎水性のアミノ酸で置換することができる。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸を含む、利用可能であるか又は当業者に既知である任意のものを含めた、より疎水性の任意のアミノ酸を使用することができる。さらなる実施形態では、L y s 4 3 は芳香族アミノ酸で置換することができる。より疎水性のアミノ酸の例としては、P h e、T y r、T r p 及び D - L y s が挙げられるが、これらに限定されない。

【0112】

10

20

30

40

50

【表 2】

表 2
N末端第 2 のアンカーの改変

カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NIH)	1/2 最大結合 (mM)	比親和性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性および fct 親和性 (天然に対するアナログ)*
天然	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
N 末第 2 アンカー	SSX2 41-49 (K41F)	FASEKIFYV	23 / 1336	9.55	1.5	>24	0.3
	SSX2 41-49 (K41W)	WASEKIFYV	22 / 1336	27.07	0.5	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41Y)	YASEKIFYV	21 / 1336	8.74	1.7	>24	3
	SSX2 41-49(K41(D-Lys))	(D-Lys)ASEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	>10
	SSX2 41-49 (K41(Phg))	PhgASEKIFYV	NA	5.83	2.5	>24	0.1
	SSX2 41-49 (K41(Cha))	ChaASEKIFYV	NA	N/B	N/B	N/B	>10
	SSX2 41-49 (K41(Phe-4F))	Phe(4-F)ASEKIFYV	NA	6.72	2.2	>24	3
	SSX2 41-49 (K41(Phe-4NO2))	Phe(4-NO2)ASEKIFYV	NA	12.8	1.1	N/A	3
	SSX2 41-49 (K41(O-methyl Tyr))	O-methyl-TyrASEKIFYV	NA	19.5	0.8	20	3
	SSX2 41-49 (K41(b-(3-benzothienyl)Ala))	b-(3-benzothienyl)AlaASEKIFYV	NA	24.1	0.6	N/A	10

【0113】

3. N末端の第 1 及び第 2 の修飾 (P 2 及び P 1)

一実施形態では、第 1 及び第 2 のアンカー残基の両方が置換され、H L A 分子に対する結合親和性の改善をもたらした。さらなる実施形態では、2 重の置換が、H L A 分子に対する結合安定性が改善した。さらなる実施形態では、結合及び／又は安定性が改善されず、低減する場合もあったが、耐性化された個体による活性又は認識のような、分子の他の特性が改善された。

【0114】

10

20

30

【表 3】

表 3

N末端第1及び第2のアンカーの改変

カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NIH)	1/2 最大結合 (mM)	比親和性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性および fct 親和性 (天然に対するアナログ)*
天然	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
N 末第 1 / 第 2 アンカー	SSX2 41-49 (K41Y, A42L)	YLSEKIFYV	29 / 96243	11.8	1.2	>24	N/T
	SSX2 41-49 (K41Y, A42V)	YVSEKIFYV	23 / 8421	14.6	1.0	>24	0.1
	SSX2 41-49 (K41Y, A42M)	YMSEKIFYV	27 / 69508	25	0.6	>24	3
	SSX2 41-49 (K41Y, A42I)	YISEKIFYV	27 / 13233	6.5	2.3	N/A	1
	SSX2 41-49 (K41F, A42L)	FLSEKIFYV	28 / 96243	4.9	3.0	>24	0.3
	SSX2 41-49 (K41F, A42V)	FVSEKIFYV	22 / 8421	4.675	3.1	24	0.1
	SSX2 41-49 (K41F, A42M)	FMSEKIFYV	26 / 69508	6.58	2.2	>24	3
	SSX2 41-49 (K41F, A42I)	FISEKIFYV	26 / 13233	5.368	2.7	>24	0.3
	SSX2 41-49 (K41W, A42L)	WLSEKIFYV	27 / 96243	4.472	3.3	>24	0.3
	SSX2 41-49 (K41W, A42V)	WVSEKIFYV	21 / 8421	4.82	3.0	>24	1
	SSX2 41-49 (K41W, A42M)	WMSEKIFYV	25 / 69508	5.13	2.9	>24	1
	SSX2 41-49 (K41W, A42I)	WISEKIFYV	25 / 13233	6.98	2.1	>24	0.1
	SSX2 41-49 (K41(D-Lys), A42L)	(D-Lys)LSEKIFYV	N/A	2.5	5.9	15	10
	SSX2 41-49 (K41(D-Lys), A42V)	(D-Lys)VSEKIFYV	N/A	24.5	0.6	N/A	10

【0115】

4. N末端の第1／第2のアンカー及びC末端の第1の修飾（P2、P1及びP9）

野生型ペプチドのC末端のValは、一般的に好ましいアンカー残基であり、最初にMHC分子との相互作用に関わる。しかし、どのアミノ酸が第1及び第2のN末端の修飾を伴うアナログを改善するかを同定するために、置換が行われた。これらのC末端の置換は、1つ又は複数のN末端の修飾なしでも使用することができる。

【0116】

これらの修飾が、結合親和性及び安定性を改善し、いくつかの場合には、交差反応性が低減したアナログをもたらすことが示された。このように、いくつかの実施形態では、C末端への置換は、交差反応性を低減させることなく、結合及び／又は安定性の改善を伴うペプチドをもたらした。しかし、別の実施形態では、C末端への置換が同程度又は低減した交差反応性と共に、結合及び／又は安定性の改善を伴うペプチドをもたらした。各分子は、或る特定の場合又は或る特定の患者において使用することができる。一実施形態では、C末端のバリンが大きな脂肪族アミノ酸で置換される。

【0117】

【表 4】

表 4

N末端第1及び第2のアンカー、C末第1アンカーの改変

カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NH)	1/2 最大結合 (IM)	比親和性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性および fct 親和性 (天然に対するアナログ)*
天然	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
N 末第 1 / 第 2 アンカー、C 末第 1 アンカー	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49L)	FVSEKIFYL	22 / 2586	10.7	1.4	17	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49I)	FVSEKIFYI	20 / 1263	9	1.6	24	0.3
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49A)	FVSEKIFYA	16 / 601	6.9	2.1	16	1
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49M)	FVSEKIFYM	16 / 601	17.8	0.8	22	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49Nle)	FVSEKIFY(Nle)	N/A	5.59	2.6	>24	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49Nva)	FVSEKIFY(Nva)	N/A	1.89	7.7	20	0.1
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49MeVal)	FVSEKIFY(MeVal)	N/A	17.9	0.8	22	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49Aib)	FVSEKIFY(Aib)	N/A	N/A	N/A	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, V49Abu)	FVSEKIFY(Abu)	N/A	3.43	4.3	20	1
N 末第 1 アンカー、C 末第 1 アンカー	SSX2 41-49 (A42V, V49I)	KVSEKIFYI	20 / 961	13.9	1.1	N/A	0.3
	SSX2 41-49 (A42L, V49I)	KLSEKIFYI	26 / 10984	5.682	2.6	N/A	0.03
	SSX2 41-49 (A42a, V49v)	K(D-Ala)SEKIFY(D-Val)	N/A	N/B	N/B	N/B	>10
C 末第 1 アンカー	SSX2 41-49 (V49I)	KASEKIFYI	20 / 152.56	14	1.0	N/A	10

【0118】

5. N末端の第1／第2のアンカー及びTCR残基修飾

TCR部位は、一般的にP4、P6及びP8残基として認識され、TCRとの結合に関わる第1の残基である。しかし、他の残基も、程度低いものの相互作用に関わる。一実施形態では、TCR相互作用に最初に関わる1つ又は複数の部位を、相互作用を増大するために置換することができる。おそらく、これらの置換は、MHC分子との結合を妨げないヘテロクリティックアナログを生成することができ、野生型ペプチドの耐性問題を克服することができる。さらなる実施形態では、TCR置換の少なくとも1つは、P1、P2及び／又はP9部位での少なくとも1つの置換を含むことができる。さらなる実施形態では、P4、P6及びP8部位での任意の1つ又は複数の置換は極性アミノ酸である。さらなる実施形態では、置換はP8部位での芳香族アミノ酸である。さらなる実施形態では、置換はP6部位での巨大脂肪族側鎖を有するアミノ酸である。さらなる実施形態では、置換は相互作用を保つために大きな側鎖を有するアミノ酸である。

【 0 1 1 9 】

【 表 5 】

表 5

N末端第1／第2のアンカー及びTCR部位の改変

カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NIH)	1/2 最大結合(mM)	比親和性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性およびfct 親和性 (天然に対するアナログ)*
天然	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
N 末第1／第2アンカー、TCR サイト	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44D)	FVSDKIFYV	21/ 8421	13.18	1.1	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44N)	FVSNKIFYV	20 / 2054	8.97	1.6	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44S)	FVSSKIFYV	20 / 2054	17.5	0.8	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44T)	FVSTKIFYV	20 / 2054	12.94	1.1	N/A	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44Q)	FVSQKIFYV	20 / 2054	40.8	0.4	N/A	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44Nle)	FVS(Nle)KIFYV	N/A	13	1.1	N/A	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, E44Nva)	FVS(Nva)KIFYV	N/A	3.8	3.9	>24	3
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46L)	FVSEKLFYV	22 / 8421	7.8	1.9	24	3
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46V)	FVSEKVFYV	22 / 8421	N/A	N/A	24	1
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46M)	FVSEKMFYV	18 / 8421	9.2	1.6	22	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46Nle)	FVSEK(Nle)FYV	N/A	12.8	1.1	19	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46Nva)	FVSEK(Nva)FYV	N/A	6.21	2.4	>24	1
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, Y48T)	FVSEKIFTV	24 / 1531	3.9	3.8	24	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, Y48F)	FVSEKIFFV	22 / 8421	8.8	1.7	20	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, Y48S)	FVSEKIFSV	24 / 1531	3.8	3.9	20	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, Y48(Phe-4F))	FVSEKIF (Phe-4F)V	N/A	10.6	1.4	24	10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, Y48Phg)	FVSEKIF (Phg)V	N/A	5.85	2.5	>24	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48T)	FVSEKLFTV	24 / 1531	5.67	2.6	24	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48S)	FVSEKLFSV	24 / 1531	N/A	N/A	N/A	N/T
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48T, V49A)	FVSEKLFTA	18 / 109	6.3	2.3	12	>10
	SSX2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48S, V49A)	FVSEKLFSV	18 / 109	6.2	2.4	N/A	>10

【 0 1 2 0 】

6. C末端アミド

いくつかの実施形態では、C末端の残基が遊離型カルボン酸の場所でアミドを含むように修飾することができる。したがって、例えば、ペプチドが9-mer（九量体）である場合、P9残基が修飾され得る。ペプチドが10-mer（十量体）である場合、P10

10

20

30

40

50

残基が修飾され得る。好ましくは、これは、血液、リンパ液及びCNSを含むが、これらに限定されない生体媒質中で安定性が増大したペプチド又はアナログをもたらす。好ましくは、ペプチドは他の必要な活性を維持し、ワクチン接種の使用に適したアナログをすなわちイムノゲンとしてもたらしることができる。

【0121】

【表6】

表6

C末アミド

C末アミド カテゴリー	ペプチド名	配列	予測スコア (R/NIH)	1/2 最大結 合(M)	比親和 性 (1/RA)	安定性 (T1/2) (Hrs)	交差反応性および fct 親和 性 (天然に対するアナ ログ)*
天然	SSX2 41-49	KASEKIFYV	22 / 1017	14.64	1.0	11	1
C 末アミ ド	SSX2 41-49-NH2	KASEKIFYV-NH2	N/A	N/B	N/B	N/T	>10
	SSX2 41-49-NH2 (A42L)	KLSEKIFYV-NH2	N/A	N/B	N/B	N/T	3
	SSX2 41-49-NH2 (A42V)	KVSEKIFYV-NH2	N/A	N/B	N/B	N/T	10

【0122】

7. 十量体

一般的なMHC結合ペプチドの長さは、約8～約11のアミノ酸長で変化する。しかし、これまでに使用されたHLA-A*0201の多くは、9-mers（九量体）又は10-mers（十量体）である。したがって、一実施形態では、アナログは野生型の配列SSX-2₄₁₋₅₀のアナログである。しかし、野生型10-merが正確な結合モチーフを有さず、免疫学的活性を示さないので、10-merはP10部位におけるアミノ酸の置換並びに様々な野生型及びアナログの効果の同定によって作り出された（図1参照）。

【0123】

8. 残存する残基

図1A及び図1Bに関して、任意の残基もまた保存的アミノ酸で置換することができる。保存的置換は、効果を生み出すことのできる上記置換のいずれかと対になり得る。あるいは保存的置換は、一次的、二次的又は三次的なレベルでさえ、何らかの活性に関係しているとは考えられない残基で特異的である。このような残基には、P3、P5及びP7が挙げられる。アナログを生成するために、例えばP3部位のセリンをアラニン又はスレオニンで置換することができる。一般的には、このような保存的置換は、アナログの活性に有意な影響を与えないが、いくつかの実施形態では、これらはある特定の活性を増大又は低減する。

【0124】

NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅アナログ

アナログの設計の多様な実施形態及び態様に関する多くの特性が、一般的に又はSSX-2エピトープに適用されるように、上記に開示されている。このような開示はまた、このエピトープ及びこれに続くエピトープに適用可能であるということを理解すべきである。簡潔にするために、このような開示を明確に再び述べることを最小限にとどめる。

【0125】

いくつかの実施形態は、MHCクラスI制限T細胞エピトープNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅のアナログ、SLLMWITQC（配列番号1）、エピトープアナログを提示するためにpAPCによってプロセッシングすることができるこれらのアナログを含むポリペプチ

ド、及びアナログを発現する核酸に関する。このアナログは、野生型のエピトープに比べて同程度又は改善された免疫学的特性を有する。

【0126】

一実施形態は、置換を包含する特異的な配列と共に、NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅のアナログを誘導体化及び改善する方法に関する。アナログは、置換を少なくとも1つ含むが、標準アミノ酸又は非標準アミノ酸を単独で又は様々な組み合わせで含む複数の置換を有する。アナログは、特性が維持又は改善されたペプチドをもたらす。

【0127】

エピトープNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅は、NY-ESO-1発現細胞系に対するエピトープ特異的なT細胞活性を測定することによって、NY-ESO-1発現細胞系で提示されることが示されており(Jaeger, E他 J. Exp. Med. 187:265-270,1998、「癌関連抗原をコードする単離核酸分子、抗原自体、及びこれらの使用」と題される米国特許番号第6,274,145号)、これはその全体が参照により本明細書に援用される。ペプチドNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅の物理化学的特性を改善する方法が、本明細書にその全体が参照により援用される「NY-ESO-1ペプチド誘導体及びその使用」と題される米国特許番号第6,417,165号)に記載されており、MHCとの相互作用を維持又は増大し、活性を妨げるジスルフィドC-C結合形成を妨げるような特性のない、他のアミノ酸を有する末端のシステインの交換から成る。しかし、C末端システイン残基の唯一の操作は、主要組織適合性(MHC)及び／又はT細胞受容体(TCR)結合に関するペプチド全体の、複数の残基を最適化するという利点を相殺する。したがって、Cys残基を変異させるという実用性を越えて、ペプチド全体のさらなるアミノ酸を変異させるのにかなり多くの機会が存在する。例えば、置換は、治療におけるより効果的な適用を可能にする方法において、MHC及び／又はTCRとの結合をさらに最適化するのに使用することができる。

【0128】

いくつかの実施形態は、ヒト精巣癌(CT)抗原NY-ESO-1(NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅)のアミノ酸157~165の配列における9又は10個のアミノ酸長の1つ又は複数のペプチドの集合に関する。

【0129】

アナログ設計

アナログは、一般的に配列SLLMWITQC(配列番号1)を有するNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅のアナログである。野生型のアミノ酸が好ましいか、好ましくないかの分析には、他のペプチドとMHC又はTCRの相互作用に関するこれまでの分析を使用した。例えば、C末端のシステインは、HLA分子との強い相互作用を生み出さないもので、一般的には好ましくないアンカー残基であり、したがって、この残基を置換することは非常に好ましい。しかし、P1部位のセリンは一般的に好ましいにも関わらず、芳香族化合物を置換することにより、特性が改善されたペプチドを製造することができることが見出された。さらに、P2部位のロイシンは一般的にこのましいが、疎水性及び／又は巨大なアミノ酸の置換は特性が改善されたペプチドをもたらした。最初にTCRとの相互作用を伴う残基(P4、P6及びP8)は、P8においては、芳香族化合物が一般的に有益な特性を有するペプチドを製造した。

【0130】

好ましい一実施形態は、P2部位における置換を有するアナログに関する。好ましくは、置換は疎水性の残基である。さらに好ましくは、置換は巨大な疎水性の残基である。さらなる実施形態ではP1の残基は、より疎水性の残基で置換される。さらなる実施形態ではP1及びP2残基は両方とも、より疎水性の残基で置換される。さらなる実施形態では、P1、P2及びP9の残基の少なくとも1つが置換される。さらなる実施形態では、P1、P2及びP9の残基の少なくとも2つが置換される。さらなる実施形態では、TCR結合に関わる1つ又は複数の残基を含むP1、P2、P9、P4及びP6の残基の少なくとも2つが置換される。さらなる実施形態では、P8が残基を芳香族化合物で置換される

。以下の置換の例は、図 1 3 A～図 1 3 C に示される。

【0 1 3 1】

1. N 末端に近接した第 1 のアンカー修飾 (P 2)

N 末端の第 1 のアンカーは、ペプチドの第 2 の N 末端アミノ酸であり、したがって、N 末端に近接した第 1 のアンカーである。元のロイシン 1 5 8 は、N H C 分子との結合に関して「好ましくない」とは考えられないが、置換により結合が改善されたペプチドを製造することができる。したがって、一実施形態では、野生型の配列中の元の L e u 1 5 8 は、同程度又はより疎水性のアミノ酸で置換される。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸などの、利用可能であるか又は当業者に既知のものを含めた、任意の疎水性アミノ酸を利用することができる。さらなる実施形態では、元の L e u 1 5 8 は巨大な側鎖を有するより疎水性のアミノ酸で置換される。より疎水性のアミノ酸の例としては、L e u、V a l、I l e、M e t、 α -アミノ酪酸、ノルロイシン及びノルバリンが挙げられるが、これらに限定されない。さらに、ナフタル側鎖もまた置換される。好ましくは、置換により H L A 分子との結合及び安定性の改善がもたらされる。しかし、この残基は二次的又は三次的に T C R 相互作用に関わり、置換はまた T C R による認識の改善をもたらす。

10

【0 1 3 2】

2. N 末端の第 2 のアンカー修飾 (P 1)

N 末端の第 2 のアンカーは、N 末端の第 1 のアミノ酸すなわち P 1 である。この残基は多数の相互作用に関係する。S e r 1 5 7 の残基は、H L A - A * 0 2 0 1 分子との相互作用における第 2 のアンカー残基として定義され、これはまた、T 細胞受容体との相互作用に或る程度関与する。したがって、この部位の修飾は、より免疫原性であるとともに腫瘍ワクチンの開発により好適な、いくつかのヘテロクリティックアナログを生成する。したがって、置換は広範な質の改善をもたらし得る。

20

【0 1 3 3】

セリンは、「好ましくない」とは考えられてはいないが、多くの置換はペプチドの質の改善をもたらす。したがって、一実施形態では、野生型配列中の元の S e r 1 5 7 が、より疎水性のアミノ酸で置換される。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸などの、利用可能であるか又は当業者に既知のものを含めた、任意のより疎水性のアミノ酸を利用することができる。より疎水性のアミノ酸の例には、P h e、T y r、T r p、及び D - L y s が挙げられるが、これらに限定されない。

30

【0 1 3 4】

3. N 末端の第 1 の修飾及び第 2 の修飾 (P 2 及び P 1)

一実施形態では、第 1 及び第 2 のアンカー残基の両方が置換され、H L A 分子に対する結合親和性の改善をもたらした。さらなる実施形態では、2 重の置換が、H L A 分子に対する結合の安定性が改善された。さらなる実施形態では、結合及び／又は安定性が改善されず、低減する場合もあったが、耐性化された個体による活性又は認識などの、分子の他の特性が改善された。

【0 1 3 5】

4. N 末端の第 1 / 第 2 のアンカー及び C 末端の第 1 の修飾 (P 2、P 1 及び P 9)

野生型ペプチドの C 末端のシステインは一般的に好ましくないアンカー残基である。この残基は最初に M H C 分子との相互作用に関わるので、M H C 分子とのより強い相互作用をもたらす残基を置換することが好ましい。したがって、置換は、結合親和性及び安定性の改善を示し、いくつかの場合では、交差反応性の低減を伴うアナログをもたした。いくつかの実施形態では、C 末端への置換は交差反応性を低減することなく、結合及び／又は安定性の改善を伴うペプチドをもたらす。しかし、別の実施形態では、C 末端への置換は、同程度又は低減した交差反応性と共に、結合及び／又は安定性の改善を伴うペプチドをもたらす。この残基の置換は、ペプチドの改善をもたらすことがこれまでに示されているので、好ましくは、M H C 分子との相互作用並びに T C R による認識のような、他の相互作用が改善されたペプチドを製造することができる。したがって、いくつかの実施形態では、C 末端の置換は少なくとも 1 つの他の置換と対になる。C 末端へのアミノ酸置換の例

40

50

には、バリン、リジン、アラニン、及びイソロイシンが挙げられるが、これらに限定されない。

【0136】

5. N末端の第1／第2のアンカー及びTCR残基修飾

TCRとの相互作用に関わる第1の残基は、一般的にP4残基、P6残基、及びP8残基として認識される。しかし、他の残基はまた、それほどではないにせよ相互作用に関わる。一実施形態では、相互作用の改善をもたらすために、TCR相互作用を最初に関わる1つ又は複数の部位が置換される。好ましくは、これらの置換は、MHC分子と結合することを妨げないが、野生型ペプチドの耐性問題を克服することができるヘテロクリティックアナログを生じることができる。一実施形態では、少なくとも1つのTCR置換は、P1部位、P2部位及び／又はP9部位での置換を少なくとも1つ含む。一実施形態では、ある程度の極性を有するアミノ酸を、P4、P6、及びP8で置換することができる。さらなる実施形態では、芳香族化合物であるアミノ酸をP8部位で置換することができる。

【0137】

6. C末端アミド

いくつかの実施形態では、C末端残基を、遊離型カルボン酸の変わりにアミドを含むように修飾することができる。したがって、例えば、ペプチドが9-mer（九量体）である場合、P9残基が修飾される。ペプチドが10-mer（十量体）である場合、P10残基が修飾される。好ましくは、これは血液、リンパ液、及びCNSを含むが、これらに限定されない生体媒質において、安定性が増大したペプチド又はアナログをもたらす。好ましくは、ペプチドは他の活性を維持し、ワクチン接種の使用に適したアナログ又はイムノゲンとしてもたらすことができる。

【0138】

7. 十量体

一般的なMHC結合ペプチドの長さは、約8～約11のアミノ酸長である。しかし、これまでに使用されたHLA-A*0201の多くは、9-mers（九量体）又は10-mers（十量体）である。したがって、一実施形態では、アナログは野生型配列NY-E SO-1₁₅₇₋₁₆₆の10-merである。しかし、野生型10-merが正確な結合モチーフを有さず、免疫学的活性を示さないので、10-merはP10部位でのアミノ酸の置換並びに様々な野生型及びアナログの効果の同定によって作り出された（図13A～図13C参照）。一実施形態では、野生型のC末端で付加又は置換される残基は、ノルバリン、ロイシン、イソロイシン、バリン及びアラニンから成る群から選択される。

【0139】

8. 残存残基

図13A及び図13Cに関して、任意の残基もまた保存的アミノ酸で置換することができる。保存的置換は、効果を生み出すことのできる上記置換のいずれかと対になり得る。あるいは保存的置換は、一次的、二次的又は三次的なレベルでさえ、何らかの活性に関係しているとは考えられない残基で特異的である。このような残基には、P3、P5及び／又はP7が挙げられ得る。保存的置換は当業者に既知であるが、例えばP3部位のロイシンは、アナログを製造するためにアラニン又はスレオニンで置換される。一般的には、このような保存的置換は、アナログの活性に有意な影響を与えない。しかし、いくつかの実施形態では、これらはある特定の活性を増大又はある特定の活性を低減し得る。既知の相互作用のために、このような保存的置換が活性のいずれかへの有意な影響を有するであろうということは考えにくい。

【0140】

P S M A₂₈₈₋₂₉₇アナログ

アナログの設計の多様な実施形態及び態様に関する多くの特性が、一般的に又は特定のエピトープに適用されるように、上記に開示されている。このような開示はまた、このエピトープ及びこれに続くエピトープに適用可能であるということを理解すべきである。簡潔にするために、このような開示を明確に再び述べることを最小限にとどめる。

【0141】

いくつかの実施形態は、MHCクラスI制限T細胞エピトープPSMA₂₈₈₋₂₉₇のアナログ、GLPSIPVHP I、エピトープアナログを提示するためにpAPCによってプロセッシングすることができるこれらのアナログを含むポリペプチド及びアナログを発現する核酸に関する。このアナログは、野生型のエピトープに比べて同程度又は改善された免疫学的特性を有する。ヒト癌細胞によるこのエピトープの提示を立証する証拠は、以下の実施例32で提示される。

【0142】

一実施形態は、置換を包含する特異的な配列を持つPSMA₂₈₈₋₂₉₇のアナログを誘導体化及び改善する方法に関する。アナログは、置換を少なくとも1つ含むが、標準アミノ酸又は非標準アミノ酸を単独又は様々な組み合わせで含む複数の置換を有する。アナログは、特性が維持又は改善されたペプチドをもたらす。

【0143】

いくつかの実施形態は、ヒトPSMAのアミノ酸288～297に対する配列に関する9又は10個のアミノ酸長の1つ又は複数のペプチドの集合に関する。

【0144】

アナログ設計

いくつかの実施形態では、PSMA₂₈₈₋₂₉₇アナログは配列GLPSIPVHP Iの置換を含む。以下の実施例2の表7に示されるように、結合モチーフのデータに関する参考資料は、P2アンカー残基が、A2.1制限エピトープの任意の部位における親和性に最も大きく寄与をすることを示している。この場合、P2部位のアミノ酸は、ロイシンが好ましい。PΩアンカー残基は、イソロイシンが好ましい。T2細胞アッセイシステム（図示せず）を使用した*in vitro*における結合の研究により、天然のペプチドは、一般的に、特にSSX-2及びNY-ESO-1に比べて優れた結合特性を有することが示されている。エピトープは、比較的低い濃度で有意な結合を示したが、これは、飽和状態に向かっての比較的緩やかな上昇と相関があった。野生型のエピトープは改善することができる。表7及び表8で示される分析は平均値であり、特定の配列における残基の挙動は、平均値からそれる。上記で検討されたSSX-2及びNY-ESO-1エピトープのN1le及びNvaで得られた好ましい結果と一致しているので、N1le及びNvaはまた、PSMAエピトープのために上手く使用することができる。最終的には、エピトープに対するどのような耐性をも避けるのに役立つ代替物と相関がある場合、同様の結合特性であっても、ペプチドの免疫原性を効果的に増大することができる。トランスジェニックマウスモデルにおいて、天然のペプチドはエピトープに対する耐性を反映し得る程度の免疫原性（例えば、実施例35参照）しかなく、このエピトープが由来するPSMA領域がマウスとヒトPSMAとの間で同一である。

【0145】

1. N末端に近接した第1のアンカー修飾（P2）

上記したように、このエピトープのP2部位における天然残基は、通常、遺伝的にコードされたアミノ酸の中で最適な残基であるが、他の好ましい疎水性残基又は巨大な疎水性残基の効果が、結合、耐性破壊及び交差反応性免疫の潜在的な改善のために研究された。例示的な置換には、Met、Ile、Gln、Val、Nva、N1le及びアミノ酪酸（Abu）が挙げられる。

【0146】

2. N末端の第2のアンカー修飾（P1）

N末端の第2のアンカーは、N末端の第1のアミノ酸である。天然のGlyがこの位置であることはわずかに好ましいにすぎない。様々な観察（例えば、表7及び表8参照）がエピトープを改善する潜在性を有するアミノ酸には、Ala、Ser、Abu及びサルコシン（Sar、つまりN-メチルグリシン）が挙げられることを示す。

【0147】

3. C末端の第1のアンカー修飾（PΩ）

この位置での天然の I l e は一般的に好ましいが、最適な残基ではない。この位置での置換は結合を改善することができる。例示的な置換には、V a l、L e u、N v a、及び N l e が挙げられる。

【0148】

4. 第2のアンカー及びTCR調査

最後から第2の部位 (P Ω - 1) は、第2のアンカー及びTCR相互作用部位の両方の役割を果たす。A l a、L e u、S e r 及び T h r の置換は、TCR相互作用へのこれらの最初の効果を有するが、これらはまた、結合の改善に寄与する。P 3 は、結合及び免疫原性の両方をもたらす得る別の位置である。この位置での T r p の置換は、結合及び免疫原性の両方を改善する。

【0149】

さらなる実施形態は、単独の置換で得られる様々な効果の組み合わせ、相乗作用、阻害のための複数の位置での置換の組み合わせに関する。

【0150】

P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログ

アナログの設計の多様な実施形態及び態様に関する多くの特性が、一般的に又は特定のエピトープに適用されるように、上記に開示されている。このような開示はまた、このエピトープ及びこれに続くエピトープに適用可能であるということを理解すべきである。簡潔にするために、このような開示を明確に再び述べることを最小限にとどめる。

【0151】

いくつかの実施形態には、MHCクラスI制限T細胞エピトープ P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ のアナログ、S L L Q H L I G L、エピトープアナログを提示するために p A P C によってプロセッシングすることができるこれらのアナログを含むポリペプチド、及びアナログを発現する核酸が含まれる。このアナログは、野生型エピトープに比べて同程度又は改善された免疫学的特性を有する。ヒト癌細胞によるこのエピトープの提示を立証する証拠は、以下の実施例39で提示される。

【0152】

一実施形態は、置換を包含する特異的な配列を持つ P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ のアナログを誘導体化及び改善する方法に関する。アナログは、置換を少なくとも1つ含むが、標準アミノ酸又は非標準アミノ酸を単独又は様々な組み合わせで含む複数の置換を有する。アナログは、特性が維持又は改善されたペプチドをもたらす。

【0153】

いくつかの実施形態は、ヒト P R A M E 配列のアミノ酸 425 ~ 433 に対する配列に関する9又は10個のアミノ酸長の1つ又は複数のペプチドの集合に関する。

【0154】

アナログ設計

いくつかの実施形態は、配列 S L L Q H L I G L の置換を含む P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ のアナログに関する。以下の実施例2の表7に示されるような、結合モチーフのデータに関する参考資料は、P2アンカー残基が、A2.1制限エピトープの任意の部位における親和性に最も大きく寄与することを示している。この場合、P2部位のアミノ酸は、ロイシンが好ましい。P Ω アンカー残基は、ロイシンがこのましいが、以上に好ましいというわけではない。表7及び表8で示される分析は平均値であり、特定の配列における残基の挙動は、平均値からそれる、野生型の P Ω 残基がその部位に必ずしも最も好ましいわけではない。他のエピトープの N l e 及び N v a で得られた好ましい結果と一致しているので、N l e 及び N v a とこの配列を置換することで同程度の改善を得ることができる。最終的には、エピトープに対するどのような耐性をも避けるのに役立つ代替物と相関がある場合、同様の結合特性であっても、ペプチドの免疫原性を効果的に増大することができる。

【0155】

様々な置換に関する論理的根拠は、上記に説明されている。P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ エピトープで研究された特定の置換は、同じ論理に従い、実施例40 ~ 42及び図25 ~ 27に

10

20

30

40

50

開示されている。置換は、第1のアンカー部位P2及びPΩ(P9)、第2のアンカー部位P1及びPΩ-1(P8)で為された。置換はまた、TCR相互作用部位(第2のアンカー部位に加えて)P3及びP6で為された。選択された置換は、MHCクラスIペプチド複合体の結合及び／又は安定性、ペプチドの免疫学的特性を確定する鍵となる特性への影響を有する。さらに、T細胞レパートリーの検討から、また、天然エピトープに対する限定された免疫力に関与する仕組みを妨げるために、天然ペプチドを認識するT細胞受容体と相互作用するアナログの能力を維持する置換が、実用的価値となる。

【実施例】

【0156】

以下の実施例は、アナログ及びアナログを同定する方法を提供する。アナログは、例えば、免疫原、ワクチン及び／又は様々な癌の治療として使用することができる。アナログは、実施例1のように生成した。SSX-2₄₁₋₄₉アナログは、実施例2に示されるように同定されて、生成されたアナログは実施例3に列挙され、実施例4～21に見られるように、改善された特性に関して試験した。NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅アナログの試験は、実施例22～30に見られるように、改善された特性に関して試験した。

【実施例1】

【0157】

ペプチド合成、精製及び特徴づけ

ペプチドは、標準的なFmoc固相化学を使用して、0.05～0.1ミリモルスケールでSymphony多重ペプチド合成機(PTI technologies, MA)又はABI 433Aペプチド合成機(Applied Biosystems, Foster City, CA)のいずれかで合成した。C末端遊離酸ペプチドは、プレロードPEG-PS樹脂(Symphony)又はWang樹脂(ABI)を使用して合成した。C末端アミド化ペプチドは、Fmoc-PAL-PEG-PS樹脂上で合成した。樹脂はすべて、Applied Biosystems(Foster City, CA)から購入した。ペプチド合成で使用するFmocアミノ酸は、Novabiochem(San Diego, CA)及びAnaSpec(San Jose, CA)から購入した。合成後切断は、標準的なプロトコルにより実施された。

【0158】

ペプチド精製は、準分取用HPLCカラム又はSPEカートリッジ(Phenomenex, Torrance, CA)で実施された。全てのペプチドの純度は90%以上であった。各ペプチドの同一性は、Maldi-TOF MS(Voyager DE, Applied Biosystems)及びSynergi C12カラム(Phenomenex, Torrance, CA)を使用した分析用HPLC(Varian又はShimazu)により確認された。

【実施例2】

【0159】

denovo設計されたSSX-2₄₁₋₄₉アナログ

抗原性が高くないペプチドの構造的修飾は、ペプチド-MHC結合、CTL認識及び／又は免疫原性を相当改善させることができる。効力が増強されたペプチドアナログを得るために野生型エピトープを修飾する方法に関する一般的なガイドラインが当該技術分野で既知である。よく知られている戦略は、対象となる特定のMHC分子への結合に関わる、いわゆるアンカー部位にある残基を最適化することである。HLA-A2の場合では、P2及びPΩ部位にある疎水性残基、特にP2にあるL及びM、並びにPΩにあるVに関する顕著な優位性が観察された(PΩは、エピトープのC末端残基を示す。HLA-A2に関しては、PΩはペプチドの長さに応じてP9又はP10である)。F、Y及びWのような芳香族残基でP1位置を置換することもまた好ましい。

【0160】

【表 7】

表 7. BIMAS アルゴリズムで使用される係数

(アルゴリズムは http://bimas.cit.nih.gov/molbio/hla_bind/ から入手可)

//bimas.cit.nih.gov/molbio/hla_bind/から入手可)

9-mer Coefficient Table for HLA_A_0201									
アミノ酸のタイプ	位置								
	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th
A	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
C	1.000	0.470	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
D	0.075	0.100	0.400	4.100	1.000	1.000	0.490	1.000	0.003
E	0.075	1.400	0.064	4.100	1.000	1.000	0.490	1.000	0.003
F	4.600	0.050	3.700	1.000	3.800	1.900	5.800	5.500	0.015
G	1.000	0.470	1.000	1.000	1.000	1.000	0.130	1.000	0.015
H	0.034	0.050	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.015
I	1.700	9.900	1.000	1.000	1.000	2.300	1.000	0.410	2.100
K	3.500	0.100	0.035	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.003
L	1.700	72.000	3.700	1.000	1.000	2.300	1.000	1.000	4.300
M	1.700	52.000	3.700	1.000	1.000	2.300	1.000	1.000	1.000
N	1.000	0.470	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.015
P	0.022	0.470	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.003
Q	1.000	7.300	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.003
R	1.000	0.010	0.076	1.000	1.000	1.000	0.200	1.000	0.003
S	1.000	0.470	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.015
T	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.500
V	1.700	6.300	1.000	1.000	1.000	2.300	1.000	0.410	14.000
W	4.600	0.010	8.300	1.000	1.000	1.700	7.500	5.500	0.015
Y	4.600	0.010	3.200	1.000	1.000	1.500	1.000	5.500	0.015
最終定数	0.069								

【0161】

【表 8】

**表 8. SYFPEITHI アルゴリズム（9 マー）で使用される HLA-A*0201 のスコアリングパ
ターン**

(アルゴリズムは <http://syfpeithi.bmi-heidelberg.com/scripts/MHCServer.dll/home.htm> から入手可)

AA	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
A	2	6	2	0	0	0	2	1	6
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	-1	0	0	1	0	0	0	0	0
E	-1	0	-1	2	0	0	0	2	0
F	1	0	1	-1	1	0	0	0	0
G	1	0	0	2	2	0	0	1	0
H	0	0	0	0	0	0	1	0	0
I	2	8	2	0	0	6	0	0	8
K	1	0	-1	0	1	0	-1	2	0
L	2	10	2	0	1	6	1	0	10
M	0	8	1	0	0	0	0	0	6
N	0	0	1	0	0	0	1	0	0
P	0	0	0	2	1	0	1	0	0
Q	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S	2	0	0	0	0	0	0	2	0
T	0	6	-1	0	0	2	0	2	6
V	1	6	0	0	0	6	2	0	10
W	0	0	1	0	0	0	0	0	0
X	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Y	2	0	1	-1	1	0	1	0	0

10

20

【0162】

30

出典：Rammensee, Bachmann, Stevanovic: MHC リガンド及びペプチドモチーフ (MHC ligands and peptide motifs). Landes Bioscience 1997。

[実施例 3]

【0163】

以下のアナログは、実施例 1 における予測の元生成した。

【0164】

【表 9 - 1】

カテゴリー	配列番号	ペプチド名	配列
野生型	1	SSX-2 41-49	KASEKIFYV
N 末第 1 アンカー	2	SSX-2 41-49 (A42L)	KLSEKIFYV
	3	SSX-2 41-49 (A42V)	KVSEKIFYV
	4	SSX-2 41-49 (A42I)	KISEKIFYV
	5	SSX-2 41-49 (A42M)	KMSEKIFYV
	6	SSX-2 41-49 (A42(D-Ala))	K(D-Ala)SEKIFYV
	7	SSX-2 41-49 (A42(D-Leu))	K(D-Leu)SEKIFYV
	8	SSX-2 41-49 (A42(D-Val))	K(D-Val)SEKIFYV
	9	SSX-2 41-49 (A42(Nal-1))	KNal-1SEKIFYV
	10	SSX-2 41-49 (A42(Nal-2))	KNal-2SEKIFYV
	11	SSX-2 41-49 (A42(Abu))	KAbuSEKIFYV
	12	SSX-2 41-49 (A42(Nle))	KNleSEKIFYV
	13	SSX-2 41-49 (A42(Nva))	KNvaSEKIFYV
	14	SSX-2 41-49 (A42(Aib))	KAibSEKIFYV
N 末第 2 アンカー	15	SSX-2 41-49 (K41F)	FASEKIFYV
	16	SSX-2 41-49 (K41W)	WASEKIFYV
	17	SSX-2 41-49 (K41Y)	YASEKIFYV
	18	SSX-2 41-49(K41(D-Lys))	(D-Lys)ASEKIFYV
	19	SSX-2 41-49 (K41(Phg))	PhgASEKIFYV
	20	SSX-2 41-49 (K41(Cha))	ChaASEKIFYV
	21	SSX-2 41-49 (K41(Phe-4F))	Phe(4-F)ASEKIFYV
	22	SSX-2 41-49 (K41(Phe-4NO ₂))	Phe(4-NO ₂)ASEKIFYV
	23	SSX-2 41-49 (K41(O-methyl Tyr))	O-methyl-TyrASEKIFYV
	24	SSX-2 41-49 (K41(β -(3-benzothienyl)Ala))	β -(3-benzothienyl)AlaASEKIFYV
N 末第 1 アンカー／ 第 2 アンカー	25	SSX-2 41-49 (K41Y, A42L)	YLSEKIFYV
	26	SSX-2 41-49 (K41Y, A42V)	YVSEKIFYV
	27	SSX-2 41-49 (K41Y, A42M)	YMSEKIFYV
	28	SSX-2 41-49 (K41Y, A42I)	YISEKIFYV
	29	SSX-2 41-49 (K41F, A42L)	FLSEKIFYV
	30	SSX-2 41-49 (K41F, A42V)	FVSEKIFYV
	31	SSX-2 41-49 (K41F, A42M)	FMSEKIFYV
	32	SSX-2 41-49 (K41F, A42I)	FISEKIFYV
	33	SSX-2 41-49 (K41W, A42L)	WLSEKIFYV
	34	SSX-2 41-49 (K41W, A42V)	WVSEKIFYV
	35	SSX-2 41-49 (K41W, A42M)	WMSEKIFYV
	36	SSX-2 41-49 (K41W, A42I)	WISEKIFYV
	37	SSX-2 41-49 (K41(D-Lys), A42L)	(D-Lys)LSEKIFYV
	38	SSX-2 41-49 (K41(D-Lys), A42V)	(D-Lys)VSEKIFYV

【表 9 - 2】

カテゴリー	配列番号	ペプチド名	配列
N-末第 1 アンカー／ 第 2 アンカー、C 末 第 1 アンカー	39	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49L)	FVSEKIFYL
	40	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49I)	FVSEKIFYI
	41	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49A)	FVSEKIFYA
	42	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49M)	FVSEKIFYM
	43	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49Nle)	FVSEKIFY(Nle)
	44	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49Nva)	FVSEKIFY(Nva)
	45	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49MeVal)	FVSEKIFY(MeVal)
	46	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49MeLeu)	FVSEKIFY(MeLeu)
	47	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49Aib)	FVSEKIFY(Aib)
	48	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, V49Abu)	FVSEKIFY(Abu)
N-末第 1 アンカー／ 第 2 アンカー、TCR サイト	49	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44D)	FVSDKIFYV
	50	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44N)	FVSNKIFYV
	51	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44S)	FVSSKIFYV
	52	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44T)	FVSTKIFYV
	53	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44Q)	FVSEQIFYV
	54	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44(Nle))	FVS(Nle)KIFYV
	55	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, E44(Nva))	FVS(Nva)KIFYV
	56	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46L)	FVSEKLFYV
	57	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46V)	FVSEKVFYV
	58	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46M)	FVSEKMFYV
	59	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46(Nle))	FVSEK(Nle)FYV
	60	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46(Nva))	FVSEK(Nva)FYV
	61	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, Y48T)	FVSEKIFTV
	62	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, Y48F)	FVSEKIFFV
	63	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, Y48S)	FVSEKIFSV
	64	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, Y48(Phe-4F))	FVSEKIF(Phe4-F)V
	65	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, Y48(Phg))	FVSEKIF(Phg)V
	66	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48T)	FVSEKLFTV
	67	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48S)	FVSEKLFSV
N 末第 1 アンカー／ 第 2 アンカー、C 末 第 1 アンカー、TCR サイト	68	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48T, V49A)	FVSEKLFTA
	69	SSX-2 41-49 (K41F, A42V, I46L, Y48S, V49A)	FVSEKLFTA
N 末第 1 アンカー、 C 末第 1 アンカー	70	SSX-2 41-49 (A42V, V49I)	KVSEKIFYI
	71	SSX-2 41-49 (A42L, V49I)	KLSEKIFYI
	72	SSX-2 41-49 (A42(D-Ala), V49(D-Val))	K(D-Ala)SEKIFY(D-Val)
	73	SSX-2 41-49 (A42(D-Leu), V49(D-Val))	K(D-Leu)SEKIFY(D-Val)
	74	SSX-2 41-49 (A42(D-Val), V49(D-Val))	K(D-Val)SEKIFY(D-Val)

10

20

30

40

【表 9 - 3】

カテゴリー	配列番号	ペプチド名	配列
C 末第 1 アンカー	75	SSX-2 41-49 (V49I)	KASEKIFYI
C 末アミド	76	SSX-2 41-49-NH2	KASEKIFYV-NH2
	77	SSX-2 41-49-NH2 (A42L)	KLSEKIFYV-NH2
	78	SSX-2 41-49-NH2 (A42V)	KVSEKIFYV-NH2
10マー	79	SSX-2 41-50	KASEKIFYVY
	80	SSX-2 41-50 (Y50I)	KASEKIFYVI
	81	SSX-2 41-50 (Y50L)	KASEKIFYVL
	82	SSX-2 41-50 (Y50V)	KASEKIFYVV
	83	SSX-2 41-50 (Y50 (Nle))	KASEKIFYV(Nle)
	84	SSX-2 41-50 (Y50 (Nva))	KASEKIFYV(Nva)
	85	SSX-2 41-50 (A42V,Y50I)	KVSEKIFYVI
	86	SSX-2 41-50 (A42L,Y50I)	KLSEKIFYVI
	87	SSX-2 41-50 (A42V,Y50L)	KVSEKIFYVL
	88	SSX-2 41-50 (A42L,Y50L)	KLSEKIFYVL
	89	SSX-2 41-50 (A42V,Y50V)	KVSEKIFYVV
	90	SSX-2 41-50 (A42L,Y50V)	KLSEKIFYVV
	91	SSX-2 41-50 (A42V,Y50(Nle))	KVSEKIFYV(Nle)
	92	SSX-2 41-50 (A42L,Y50(Nle))	KLSEKIFYV(Nle)
	93	SSX-2 41-50 (A42V,Y50(Nva))	KVSEKIFYV(Nva)
	94	SSX-2 41-50 (A42L,Y50(Nva))	KLSEKIFYV(Nva)
	95	SSX-2 41-50 (A42V,V49I,Y50I)	KVSEKIFYII
	96	SSX-2 41-50 (A42L,V49I,Y50I)	KLSEKIFYII
	97	SSX-2 41-50 (V49I,Y50I)	KASEKIFYII

【0165】

非標準アミノ酸に関する略語：Nle、ノルロイシン；Nva、ノルバリン；Phg、フェニルグリシン；Phe (4-F)、4-フルオロフェニルアラニン；Phe (4-NO₂)、4-ニトロフェニルアラニン；Abu、 α -アミノ酪酸；Aib、 α -アミノイソ酪酸；MeLeu、メチルロイシン；MeVal、メチルバリン； β -(3-ベンゾチエニル)Ala、 β -(3-ベンゾチエニル)アラニン；O-メチル-Tyr、O-メチルチロシン；Cha、シクロヘキシルアラニン；Nal-1、 β -(1-ナフチル)アラニン；Nal-2、 β -(2-ナフチル)アラニン；-NH₂は、カルボキシ末端がアミドへ変更されたことを示す。

[実施例 4～21]

【0166】

SSX2₄₁₋₄₉アナログの試験

実施例 3 で生成されたアナログを、以下の実施例 4～21 で、結合及び生物学的作用のような活性に関して試験した。

[実施例 4]

【0167】

T2細胞を使用したペプチド結合

HLA-A*0201 に対するペプチドアナログ及び野生型エピトープの親和性は、T2細胞ベースアッセイ (Regner M, 他., Exp Clin Immunogenet. 1996; 13(1):30-5、これはその全体が参照により本明細書に援用される) を使用して評価した。

【0168】

結合アッセイに関して簡潔に述べると、TAPの発現を欠如し、その結果細胞表面上で安定なMHCクラスIを構築しないT2細胞を、種々の濃度のペプチド (対照又はアナログ) を用いて37℃で一晩パルス化して、十分に洗浄して、MHCクラスI (A2対立遺伝子) を認識する、蛍光タグ付けした抗体で染色して、FacsScan分析器にかけた

。一定の濃度のアナログと陰性対照（非MHC結合剤）の間のMFI（平均蛍光強度）の差異は、MHCとペプチドとの間の安定化複合体がどれだけT2細胞の表面上に提示されたかの関数である。したがって、ペプチドの限界濃度では、主として K_{on} の尺度であり、ペプチドの飽和レベルでは、 K_{on} 及び K_{off} の両方の尺度である。結合は、数学的に関連する2つの要因：最大半量結合（飽和に相当するシグナルの50%となるペプチド濃度）及び相対親和性（ $1/R_A$ ）により定量化された。相対親和性 R_A は、対照（野生型ペプチド）に対して正規化された結合、例えばペプチドアナログに対する対照の最大半量結合の比である。 $1/R_A$ 指数が大きいほど、且つ最大半量結合が小さいほど、アナログとMHC間の相互作用の K_{on} は高い。これらの結合パラメータにより、野生型ペプチドに対して改善された53個のアナログが同定された。これらの改善された結合剤は、MHC及び／又はTCRとの相互作用に関与することが既知である部位を含む1個、2個、3個又は複数個の置換（標準及び／又は非標準アミノ酸を含む）を有する。しかしながら、MHC結合に対する全体的な影響は、修飾に依存していた。このようなペプチドアナログは、治療用組成物において、或いは治療用組成物をさらに派生させるための構造基盤として有用である。

10

[実施例5]

【0169】

T2細胞を使用したペプチド安定性

MHC上でのペプチド安定性（ K_{off} ）は通常、単に結合（ K_{on} ）から推察され得ない。さらに、結合とともに、MHCクラスI上でのペプチドの安定性は、T細胞の活性化が「シグナル1」（T細胞受容体とのMHCペプチド複合体相互作用）の持続期間に依存するため、このようなペプチドの免疫学的特性に関して重要であることがよく知られている。安定性アッセイに関して簡潔に述べると、TAPの発現が欠如し、その結果細胞表面上で安定なMHCクラスIを構築しないT2細胞を、MHCクラスIの最大注入（「飽和」）を達成することが既知の濃度のペプチド（対照又はアナログ）を用いて37℃で一晩パルス化して、十分に洗浄して、内因性タンパク質合成を阻止するエメチンの存在下で種々の間隔で追跡した。十分な洗浄後、MHCクラスI（A2対立遺伝子）を認識する、蛍光タグ付けした抗体で細胞を染色して、FacsScan分析器にかけた。一定の濃度のアナログと陰性対照（非MHC結合剤）の間のMFI（平均蛍光強度）間の差異は、MHCとペプチドとの間の安定化複合体がどれだけT2細胞の表面上に提示されたかの関数である。経時的なシグナルの減衰は、0時間での（追跡間隔の初めでの）結合に対する安定性指数50%として数学的に表された。

20

30

【0170】

このような改善されたアナログは、MHC及び／又はTCRとの相互作用に関与することが既知である部位を含む1個、2個、3個又は複数個の置換（標準及び／又は非標準アミノ酸を含む）を有し、MHC安定性に対する全体的な効果が修飾に依存している。このようなペプチドアナログは、治療用組成物において、或いは治療用組成物をさらに派生させるための構造基盤として有用である。43個のアナログが、天然ペプチドに対して安定性が増大された。

【0171】

結合及び安定性の両方が改善されたアナログは、改善された組成物において、或いは治療上の有益性を有する改善された組成物を生成するための構造基盤として有用である。

40

[実施例6]

【0172】

アナログの免疫学的特性：交差反応性及び機能的結合力の評価

ペプチドの免疫学的特性は、MHC分子への結合（ K_{on} 及び K_{off} ）及びTCR（TCRとMHCペプチド複合体間の相互作用の親和性）の関数として記載される。第1のMHCアンカー残基への修飾は概して、MHC分子への結合に対する全体的な影響に関してかなりの程度の予測が可能である。

【0173】

50

第2のMHCアンカー残基の修飾は、ペプチド-MHC相互作用に対して、 K_{on} 及び K_{off} とともに、TCRに対するMHCペプチド複合体の相互作用の親和性に影響を与える。

【0174】

全体的な免疫学的特性の使用及びモデリングの提唱された方法と緊密に結び付いた態様によるペプチドアナログの迅速且つ合理的なスクリーニングを可能にする方法が考案された（一元的なMHC相互作用及びTCR結合特性に関する K_{on} 及び K_{off} ）。この方法は、ヒトMHC（例えば、A2対立遺伝子）を保有するトランスジェニックマウスで、有用な応答を発生するのに十分強力な免疫化法を使用して、天然（非突然変異）エピトープ（SSX-2₄₁₋₄₉）に対するT細胞系を生成させることを包含し得る。ペプチドアナログは、コンピテントAPCの存在下、*ex vivo*で応答を引き起こし、天然（非突然変異）エピトープに特異的なT細胞の機能的影響を測定した。予測される影響が交差反応性ペプチドの場合では二相性であったため（抗原誘導性細胞死、即ちAICDに起因して限界濃度で活性化し、またより高濃度で阻害する）、評価は、様々な濃度のアナログで実施された。以下の3つのパラメータの測定は、ペプチドアナログの基本的且つ有用な特徴を規定する：

1. T細胞活性化を引き起こす影響（例えば、サイトカイン生産）を誘発ためのペプチドアナログの最小所要濃度
2. 任意のアナログ濃度における最大（ピーク値）影響（例えば、サイトカイン生産）
3. 活性化影響（例えば、サイトカイン濃度）のピーク値におけるアナログ濃度

【0175】

例えば、パラメータ#1及び3と関連する値の低減をもたらすが、#2と関連する値の増大をもたらすアナログが有用である。対照としての天然エピトープ及び非関連非交差反応性ペプチドの使用は、潜在的な値を有するアナログの種類を同定する際に有用である。天然のエピトープの特性に定量的と同程度であるか、或いはそれらからやや減衰される特性を示すアナログは、それらが交差反応性を保持する一方で、天然のペプチドの免疫学的特性と異なった免疫学的特性（例えば、AICDを誘導するより低い傾向又は*in vivo*で耐性を破壊するか、又は応答性を回復させる能力）を示し得るという事実から、依然として有用であると考えられる。

【0176】

このスクリーニング法の幾つかの利点としては、実用性及び迅速性、読出しとして潜在的にバイアスされたT細胞クローンに代わる、より適切なポリクローナルT細胞系の使用、並びにTCRに対するペプチド-MHC複合体の交差反応性及び機能的結合力へと転換され得る K_{on} 、 K_{off} のようなパラメータ、及びTCR親和性を統合している複合値が挙げられる。これらのパラメータは、*in vivo*免疫学的特性を予測することができ、したがって、ペプチドアナログをさらに評価、最適化及び実際に適用するための有用なパネルを描くことができる。MHCへ結合し、且つ一般的に知られている野生型ペプチドに特異的なTCRに対する交差反応性を保持するアナログは、このアッセイにおいて測定可能な影響を誘発すると予測される。全体的な方法を図2に示す。

【0177】

T細胞系の生成に使用される方法は下記の通りである：A2ヒト対立遺伝子を保有するHHDTランスジェニックマウス（Pascolo他 J. Exp. Med. 185(12):2043-51, 1997、これはその全体が参照により本明細書に援用される）を、pIpC 25 μ gと混合したSSX-2天然エピトープ（41～49）50 μ gを用いて、両側投与により0日目、4日目、14日目及び18日目に鼠径リンパ節へ免疫化した。最終追加免疫の7日後に、マウスを屠殺して、脾細胞の懸濁液を、完全HL-1培地中で 5×10^6 個の細胞/mlで調製した。細胞を平底96ウェルプレートにおいて、種々の濃度のペプチドとともに48時間（200 μ l/ウェル）、ウェルへ添加した10 U/mlのrIL-2とともにインキュベートした。上清を回集して、IFN- γ の濃度をELISAのような標準的な方法により評価した。

[実施例 7]

【0178】

単一部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

上記（実施例 6、図 2）の方法を適用して、野生型バージョンの天然 S S X - 2₄₁₋₄₉ エピトープ（K A S E K I F Y V）において単一の置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した（図 3）。e x v i v o で I F N - γ 生産を誘発するためのアナログの最小所要量と任意のアナログ濃度でのサイトカイン生産の最大量との間に強力な逆相関関係が見られた。

【0179】

L、V 又は M による A₄₂ の置換は、このアッセイで評価されるペプチドの免疫原性特性を改善させた。L 及び V 突然変異体は活性であった。M は、天然エピトープよりも活性であった。I 突然変異体は、野生型エピトープを認識する T C R に対する交差反応性を保持した。

【0180】

非標準アミノ酸 A b u、N l e 又は N v a による 42 位の A の置換は、サイトカイン生産を誘発するのに要するアナログの最小量、及び生産されるサイトカインの最大量の両方に関して、野生型エピトープに対してペプチドの免疫原性特性を改善させた。D - A l a、D - V a l、N a l - 2 又は A i b を包含する突然変異体は、このアッセイにおいて、天然ペプチドに対して交差反応性の保持及び免疫活性の低減を示すが、依然としてそれらの特性を調節又は増強するためのさらなる誘導体化に有用である。42 位での N a l - 1 は、活性を抑止させた。

【0181】

第 1 の残基 K₄₁ の変更は、F 又は P h g による置換が活性を改善させるのに対して、W、D - L y s 及び C h a は、このアッセイで免疫原性特性を消失させることを示した。Y、P h e - 4 F、P h e (4 - N O 2)、O - メチル - T r y 又は β - (3 - ベンズチエニル - A l a) による K の置換は活性を保持した。

【0182】

I による置換による V₄₉ (C 末端残基) 位の修飾は、元のエピトープに比較してより低レベルで活性を保持した。- N H 2 の付加による最終残基の修飾は、ペプチドの活性を消失させ、これは、続いて L 又は V で 42 位にある A を変更することにより回復した。このことは、野生型ペプチドよりも低い活性を有するアナログが依然としてさらなる誘導体化に有用であることを直接的に示している。

[実施例 8]

【0183】

2 つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

上記（実施例 6、図 2）の方法を適用して、野生型バージョンでの野生型 S S X - 2₄₁₋₄₉ エピトープにおいて 2 つの置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した（図 4）。

【0184】

1 位及び 2 位における協調的な修飾は、アナログの活性に対して可変的な影響を有する。例えば、Y、F 又は W による K₄₁ の置換は、V、M 又は I による A₄₂ の置換と共に、野生型ペプチドに対してアナログの活性を保存又は増強した。T C R への結合に P 1 残基がある程度関与するので、このような二重突然変異ペプチドは、耐性破壊をもたらす方法で T C R との相互作用に影響を与える機会を増大する（したがって、実践的な適用に有用である）。以下の組合せ：Y (41 位) と V (42 位)、W (41 位) と I 又は I (42 位)、及び F (41 位) と L、V、I (42 位) は、野生型ペプチドより活性であるアナログを生じた。41 位にある Y と 42 位にある I、又は 41 位にある W と 42 位にある V 又は M との組合せは、野生型ペプチドの活性と類似した活性を付与した。41 位における D - リシンによる K の置換は、このアッセイにおいて、活性が保持されたアナログを生じた。非標準アミノ酸を包含するこのようなペプチドの代謝的分解が i n v i v o で減

10

20

30

40

50

少されるため、このようなペプチドは非常に有用である。

【0185】

42位にあるV又はLと49位にあるIの組合せは、天然ペプチドを上回って増大された活性をもたらした。

[実施例9]

【0186】

複数の部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

上記（実施例6、図2）の方法適用して、野生型バージョンの天然SSX-2₄₁₋₄₉エピトープに対して3つ又はそれ以上の置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した（図5）。

【0187】

49位にあるI又はAと組み合わせた、41位及び42位にあるF並びにVは、野生型エピトープよりも改善された活性又は類似した活性をもたらした。それに対し、49位にあるL又はMは、活性が激しく減少した。

【0188】

最終部位の非標準アミノ酸であるNva、Abu又はMeValを含む三重突然変異体は、免疫活性の保持又は改善をもたらした。このようなペプチドは、*in vivo*での安定性の増大及び酵素分解に対する耐性により、極めて有用である。

【0189】

推定TCR結合領域内のアミノ酸残基の修飾は、MHCグループにおける立体構造が天然ペプチドの立体構造とわずかに異なるため、交差反応性ととともにMHCへの結合を保持し、免疫応答又は耐性破壊の回復に有用である、価値のあるペプチドを生じる44位（Q、Nva又はNle）、46位（L、V、Nle又はNva）又は48位（F又はPhe-4F）におけるさらなる置換は、活性なアナログを生じるが、44位にあるD、N、S又はT、46位にあるM、或いは48位にあるT、S、Phg、或いは48位にあるTを伴う46位にあるLは、活性を欠いたアナログを生じた。最終的に、5個の置換を有する2つのアナログは活性を示さなかった（図5）。

[実施例10]

【0190】

天然ペプチドを包含し、様々な部位で突然変異した十量体の交差反応性及び機能的結合力

上記（実施例6、図2）の方法を適用して、一般的に知られているSSX-2₄₁₋₄₉ペプチドを包含する十量体のアナログのライブラリー全体を精査した（図6）。

【0191】

十量体SSX2₄₁₋₅₀は、41-49九量体に特異的なT細胞系を刺激する際に、41-49九量体に対して著しく活性が低かった。50位にあるY残基のI又はLへの変更は、V、Nle又はNvaへの変更よりも程度が低いか、又は全くないが、このアッセイで活性の回復をもたらした。十量体アナログの活性のさらなる最適化は、L又はVにより2位にあるAを変更することにより得ることができる。A42L置換は、Y50Nva十量体の活性を回復した。天然ペプチドと比較して、*in vitro*で活性が類似又は低減した（しかし、交差反応性は保持された）ペプチドアナログは、i)より限定されたAICD、ii)クラスIMHC上で安定性が増大し及び／又は耐性破壊に重要であるTCRとの相互作用がわずかに変化することによる、潜在的に高い*in vivo*活性に起因して、免疫応答の誘導又は追加免疫に依然として有用である。

[実施例11]

【0192】

天然エピトープに対する免疫性の増強を誘発するためのアナログの使用（*ex vivo*での評価）

マウスの3つのグループ（n=4）を、0日目、3日目、14日目及び17日目にPBS25μl中SSX-2₄₁₋₄₉天然エピトープを発現するプラスミド25μg/各リンパ節で鼠径リンパ節へ直接的に接種することにより免疫化した。これに続いて、28日目及

10

20

30

40

50

び31日目に2回のさらなるペプチド追加免疫（同量）を行った。免疫化のスケジュールを図7に示す。追加免疫の1週後に、脾細胞を *ex vivo* で SSX-2₄₁₋₄₉ 天然ペプチドで刺激して、様々な E:T 比で ⁵¹Cr 標識化した標的細胞（T2 細胞）を試験した（図8）。アナログ A42V は、追加免疫剤としてアナログ A42L 又は野生型ペプチド自体と比較して、天然ペプチドを発現する標的細胞に対してより高い応答を誘発することが結果により示された。これは、*ex vivo* での実験により確定される結合及び安定性パラメータと相関した。

[実施例 12]

【0193】

天然エペトープに対する免疫性の増強を誘発するためのアナログの使用（*in vivo* での評価）

マウスの8つのグループ（n=4）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に PBS 25 µl 中 SSX-2₄₁₋₄₉ 天然エペトープを発現するプラスミド 25 µg / 各リンパ節で鼠径リンパ節へ直接的に接種することにより免疫化した。これに続いて、図9に示されるように、陰性対照ペプチド（Melan A26-35「EAA」）、天然ペプチド又はアナログを使用して、28日目及び31日目に2つのさらなるペプチドの追加免疫（同量）を行った。

【0194】

in vivo における天然ペプチドに対するでの応答を評価するために、脾細胞を同腹子対照 HHD マウスから単離して、20 µg / mL 又は 1 µg / mL の天然ペプチドとともに2時間インキュベートした。続いて、これらの細胞を CFSE^{hi} 蛍光で染色して（4.0 µM 又は 1 µM、15 分間）、CFSE^{lo} 蛍光（0.4 µM）で染色した同等数の対照脾細胞とともに免疫化マウスの静脈内に同時注入した。18 時間後、標的細胞の特異的な排除は、誘発された動物から脾臓及び PBMC を取り出すこと、及びフローサイトメトリーにより CFSE 蛍光を測定することにより測定された。ペプチド注入した脾細胞に対応する集合の相対的な減少は、対照（未注入）集合に対して算出され、特異的溶解%として表した。図10（脾臓）及び図11（血液）は、図7に記載されるレジメンにより誘発される *in vivo* での細胞毒性を示す。3つの試験ペプチド（A42V、K41F 及び K41Y）は、20 並びに 1 µg / mL の天然ペプチドでコーティングされた標的細胞に対して、脾臓及び血液の両方において、天然ペプチドに比べて活性が増大した。興味深いことに、結合と、MHC との相互作用におけるアナログの安定性と、天然ペプチドに対して *in vivo* での免疫性を発生させる能力との間で限られた相関が見られたにすぎなかった（図11）。

[実施例 13]

【0195】

腫瘍細胞に対する応答の増強を誘発するためのアナログの使用

マウスの8つのグループ（n=4）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に PBS 25 µl 中 SSX-2₄₁₋₄₉ 天然エペトープを発現するプラスミド 25 µg / 各リンパ節で鼠径リンパ節へ直接的に接種することにより免疫化した。これに続いて、図9に示されるように、陰性対照ペプチド（Melan A26-35「EAA」）、天然ペプチド又はアナログを使用して、28日目及び31日目に2つのさらなるペプチドの追加免疫（同量）を行った。

【0196】

追加免疫の1週後に、脾細胞を *ex vivo* で SSX-2₄₁₋₄₉ 野生型ペプチドで刺激して、様々な E:T 比で ⁵¹Cr 標識化したヒト腫瘍細胞細胞（624.38 メラノーマ細胞）に対して試験した（図12）。アナログ A42V 及び K41F A42A V49I は、天然 SSX-2₄₁₋₄₉ エペトープを発現するヒト腫瘍細胞に対する細胞毒性の増大を介する免疫応答を誘発した。

[実施例 14]

【0197】

10

20

30

40

50

N末端近接第1のアンカー修飾（第2のAA）

表3に示される置換アナログを試験した場合、アナログは、野生型ペプチドエピトープと比較して結合及び安定性が改善したプロファイルを示した。しかしながら、各アナログに関する改善の規模は様々であり、A42Vの置換は、HLA-A*0201分子との結合親和性に関して最高の改善を示した。さらに、A42V-HLA-A*0201複合体の安定性は、野生型ペプチドとHLA-A*0201との間で形成される複合体よりも良好であり、T1/2は11.5時間から20時間まで延長した。42AのL、V及びMへの置換を伴うペプチドは、かなりの低濃度で野生型ペプチド特異的CTLのIFN- γ 分泌を誘導することが可能であった。42AのIへの置換は、結合及び安定性が改善したプロファイルを有するアナログを生成した。P2部位にある残基もまた、ある程度までTCRとの相互作用に携わる。この観察はまた、野生型エピトープに比べて、HLA-A*0201との類似した結合親和性が類似した42AがAibに置換されたアナログによる結果によっても支持された。

[実施例15]

【0198】

N末端の第2のアンカー修飾（第1のAA）

N末端の第2のアンカーは、N末端にある第1のアミノ酸である。したがって、一実施形態では、野生型配列で見出される元のLys43は、より疎水性且つ巨大なアミノ酸で置換される。標準アミノ酸及び非標準アミノ酸を含む当業者に利用可能なもの或いは当業者に既知であるものを包含する、任意のより疎水性且つ巨大なアミノ酸もまた使用することができる。より疎水性のアミノ酸の例としては、Phe、Tyr、Trp及びD-Lysが挙げられるが、これらに限定されない。

【0199】

Lys41の残基は、HLA-A*0201分子と相互作用する第2のアンカー残基として定義され、T細胞受容体との相互作用にある程度携わる。したがって、この部位の修飾は、より免疫原性が高く且つ腫瘍ワクチンの開発により適切な幾つかのヘテロクリティックアナログを生成することができる。

【0200】

表3から、Lys41をTyr、Phe又はPhe誘導体（フェニルグリシン、p-フルオロフェニルアラニン、p-ニトロフェニルアラニン）に置換することにより、得られたアナログはHLA-A*0201分子とより高い親和性を有し、安定な複合体が形成することを理解することができる。他方で、予測アルゴリズムに基づく、Trpアナログは、Tyr及びPheアナログの親和性と類似した親和性を有するはずであるが、上記LysをTrp又はTrp誘導体に置換したアナログは、HLA-A*0201分子との親和性が著しく低減した。実験データは、予測されるアルゴリズムの限界を実証している。例えば、Lys41のPhgへの置換は、HLA-A*0201分子との親和性及び安定性を改善したアナログを生じているが、野生型ペプチド特異的CTLとの交差反応性は明らかに乏しかった。他方で、HLA-A*0201分子との親和性は、野生型ペプチドの親和性とほぼ同じであったが、p-ニトロフェニルアラニンアナログは、かなり低濃度で野生型ペプチド特異的CTLのIFN- γ 分泌を誘導することが示された。

[実施例16]

【0201】

N末端の第1/第2のアンカー修飾

N末端にある第1及び第2のアンカー残基両方が修飾される場合、一般的な傾向は、得られたアナログのHLA-A*0201分子との親和性及び安定性が改善されるが（表3）、但しほんのわずかに例外を伴う：（K41Y、A42V）、（K41Y、A42M）及び（K41（D-Lys）、A42V）。さらに、得られたアナログは、野生型ペプチド特異的CTLと非常に良好な交差反応性を有した。K41W置換をA42V又はA42Lと組み合わせることにより、結合/安定性プロファイルが改善され、これらのアナログはまた、野生型ペプチドと目的の交差反応性活性を有した。N末端の第1のアンカー及び

第2のアンカーの組合せ修飾は、より大きくペプチド構造及び立体構造を変化させた。

[実施例17]

【0202】

N末端の第1／第2のアンカー及びC末端の第1の修飾

野生型ペプチドのC末端のValは、好ましいアンカー残基であった。しかしながら、それを、1つのさらなるCH₂基を有するIleへ突然変異させた場合に、効果の改善が観察され、類似の改善が、ValをAbuに置換した場合でも観察された。他のアナログは、MHC分子との結合親和性及び安定性が改善したが、それらの交差反応性の結果は良好ではなかった。これらのアナログの結果により、ペプチドC末端アンカー残基がまた、T細胞の認識において重要な役割を果たすことが示された(表4)。

10

[実施例18]

【0203】

N末端の第1／第2のアンカー及びTCR部位修飾

第2のTCR結合アミノ酸残基の置換は好ましくは、MHC分子への結合を干渉しないが、自己抗原の耐性問題を克服するヘテロクリティックアナログを生成する。N末端の第1／第2のアンカー残基(K41F及びA42V)とTCR部位の置換を組み合わせることにより、結合親和性及び安定性が改善されたアナログが生成された(表6)。K41F、A42V、E44(Nva)／(Nle)突然変異体及びK41F、A42V、I46L／(Nva)／(Nle)突然変異体のようなこれらのアナログの幾つかは、より低濃度で野生型ペプチド特異的CTLのIFN-γ生産を誘導した。

20

[実施例19]

【0204】

N末端アミド

ペプチドの遊離型カルボン酸のC末端をアミドで置換することで、タンパク質分解に対する安定性を付与することにより生物培地においてペプチド安定性を改善させ、ペプチドに対するジペプチジルカルボキシペプチダーゼ耐性を付与した。しかしながら、得られたアナログの幾つかは、MHC分子との親和性、並びに免疫原性及び抗原性が低減した。興味深いことに、本出願で開示される3つのアナログ(表7)は、MHC分子との結合能力を失うが、SSX-2₄₁₋₄₉-NH₂(A42V)は、野生型ペプチドの濃度と同様の濃度でIFN-γの分泌を誘導する能力により示されるように、野生型ペプチド特異的CTLとの反応性を保持した。しかしながら、SSX-2₄₁₋₄₉-NH₂(A42L)は、より低濃度でIFN-γ生産を刺激することが可能であった。

30

[実施例20]

【0205】

十量体

典型的なMHC結合ペプチドの長さは、八量体から十一量体まで様々であり、ほとんどのHLA-A*0201結合ペプチドは、九量体又は十量体である。これまでの観察では、天然配列由来の九量体及び十量体はともに、同じMHCに関する結合モチーフを有することが見出されており、また同じN末端を有していた。プロテアソームプロセッシングの観点から、天然配列由来の九量体及び十量体は別個のエピトープであるが、それにもかかわらず抗原的に交差反応性であった。野生型エピトープSSX-2₄₁₋₄₉の場合、エピトープは九量体ペプチド及び十量体ペプチドであるSSX-2₄₁₋₅₀は、適切なMHC結合モチーフを欠き、免疫学的活性を示さなかった。したがって、野生型エピトープは、適切な結合モチーフを作ることができるアミノ酸を用いて十量体へ伸長された。表8に示すように、多くの十量体アナログが、HLA-A*0201分子とより低い結合親和性を有する一方で、アナログSSX-2₄₁₋₅₀(A42L、Y50L／V／Nle／Nva)は、HLA-A*0201分子に対する結合親和性が改善された。特に、2つの十量体アナログ、A42L及びY50Nle／Nvaは、野生型ペプチドよりも低濃度で野生型ペプチドに対して免疫化されたT細胞からIFN-γ生産を誘導することが可能であった。

40

[実施例21]

50

【0206】

耐性化を克服するためのアナログの使用

アナログが野生型エピトープを上回った改善を示し得る一態様は、ヒト系における免疫原性の増大及び耐性破壊である。生殖細胞系の差異に起因しようと、陰性選択における差異に起因しようと、TCRレパートリーにおける差異は、変則的な結果を与える可能性を有する。このような問題に対処するために、アナログは、CTLを生成するためのHLA-A2⁺血液の*in vitro*での免疫化で使用される。未処置のドナーでさえも使用する*in vitro*での免疫化に関する手法は、当該技術分野で既知である（例えば、Stauss 他., Proc. Natl. Acad. Sci. USA 89:7871-7875, 1992、Salgaller 他. Cancer Res. 55:4972-4979, 1995、Tsai 他., J. Immunol. 158:1796-1802, 1997及びChung 他., J. Immunother. 22:279-287, 1999、これらはそれぞれ、その全体が参照により本明細書に援用される）。

10

【0207】

具体的には、正常ドナー由来のPBMCは、フィコール・ハイバック中での遠心分離によりパフィコートから精製された。培養はすべて、潜在的な異種病原体への暴露及びFBSペプチドの認識を回避するために、自己血漿（AP）を使用して実施された。ペプチド特異的CTLの*in vitro*での生成をするために、自己樹状細胞（DC）をAPCとして用いた。その全体が参照により本明細書に援用されるKeogh 他., 2001に記載されるように、DCが生成されて、CTLは、DC及びペプチドよりPBMCから誘導された。簡潔に述べると、単球に富んだ細胞分画を、GM-CSF及びIL-4とともに5日間培養して、2 µg/mlのCD40リガンドを有する培養培地中でさらに2日間培養して成熟させた。24ウェルプレートで2 × 10⁶個のCD8⁺に富んだTリンパ球/ウェル及び2 × 10⁵個のペプチドパルス化DC/ウェルを、10% AP、10 ng/mlのIL-7及び20 IU/mlのIL-2を加えたRPMI 2 ml中で同時培養した。培養物は、7日目及び14日目に自己照射ペプチドパルス化DCで再刺激した。免疫原性は、本明細書中に記載する*in vitro*での細胞毒性及びサイトカイン生産アッセイを使用してアッセイした。

20

[実施例22～30]

【0208】

NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅アナログの試験

30

図13に列挙されるアナログは、以下の通り実施例22～30で、結合及び生物学的影響のような活性に関して試験した。

[実施例22]

【0209】

単一部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力（図13A～C）

上記（実施例6）の方法を適用して、自然（又は野生型）バージョンでの野生型NY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅エピトープにおいて単一の置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した（図13）。*ex vivo*でIFN-γ生産を誘発するためのアナログの最小必要量と任意のアナログ濃度でのサイトカイン生産の最大量との間に強力な逆相関関係が見られた。

40

【0210】

F又はKによるS157の置換は、MHC結合及び一般的に知られているエピトープに特異的なT細胞との交差反応性を部分的に有するアナログを生じた。IによるL158の置換は、この方法により評価されるペプチドの免疫学的特徴を改善させたのに対して、L158Vは、活性の部分的保持をもたらした。アミノ酸V、L、A又はIのいずれかによるC165の修飾は、免疫特性を改善した。

【0211】

N末端部位又は他の箇所での置換を有し、野生型ペプチドに対してこのアッセイにおいて保持されるが、増大されない活性を提示するペプチドは、ヒトにおいて有用である。さらに、当該ペプチドは、以下に記載するように、それらの特性を改善されるためのさらなる

50

誘導体化のための材料である。

[実施例 2 3]

【0 2 1 2】

2つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力（図 1 3 A～C）

上記（実施例 6）の方法を適用して、野生型 NY-E SO-1₁₅₇₋₁₆₅ エピトープにおいて2つの置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した。2位及び9位での同時半保存的修飾は、アナログの明確な独自性に依拠して、アナログの免疫特性に対して強い影響を有することが示された。L 1 5 8 I を C 1 6 5 V 又は C 1 6 5 L と組み合わせることにより、野生型ペプチドと比べて活性がさらに増大した。同様に、L 1 5 8 V は、C 1 6 5 V 又は C 1 6 5 L アナログの活性を改善して、野生型ペプチドと比べて活性をさらに増大した。L 1 5 8 V は、C 1 6 5 A 又は C 1 6 5 I アナログの活性を部分的に保持し、第1のアンカー残基の二重突然変異の興味深い影響を示した。同様に、L 1 5 8 I は、C 1 6 5 A アナログの活性を部分的に保持した。

10

【0 2 1 3】

1位及び9位での同時修飾は、アナログの明確な独自性に依拠して、アナログの免疫特性に対して強い影響を有した。9位での C 1 6 5 N v a（ノルバリン）又は N l e（ノルロイシン）と組み合わせた S 1 5 7 Y は、S 1 5 7 Y 単独又は野生型ペプチドを上回る実質的に改善された活性をもたらした。C 1 6 5 V 突然変異体もまた、S 1 5 7 Y 突然変異体の活性を回復した。9位での V-NH₂ 又は L-NH₂ は、S 1 5 7 Y アナログの活性を部分的に回復したが、A-NH₂ は回復しなかった。S 1 5 7 F と9位の V、L、I、及び程度は低い A との組合せは、アナログの強力な活性を保持し、TCR との相互作用における第1の残基の関与に起因して、9位での単一突然変異体よりも有用である。S 1 5 7 K と9位の V、L、I、及び程度は少ない A との組合せは、アナログの強力な活性を保持し、TCR との相互作用における第1の残基の関与及び1位での K のペプチド溶解性に対する全体的に有益な効果に起因して、9位での単一突然変異体よりも有用である。

20

[実施例 2 4]

【0 2 1 4】

複数の部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力（図 1 3 A～C）

上記（実施例 6）の方法を適用して、野生型 NY-E SO-1 エピトープに対して複数の置換を有するアナログのライブラリー全体を精査した。

30

【0 2 1 5】

L 1 5 8 N v a 又は L 1 5 8 N l e は、S 1 5 7 Y C 1 6 5 V 突然変異体の活性を大幅に改善させた。1 5 8 位での V 又は I と、1 6 5 位での V、L、A 又は I の組合せは、野生型ペプチドと比べてアナログの効果を部分的に回復することができる。S 1 5 7 Y L 1 5 8 I C 1 6 5 V は、野生型ペプチド並びに C 1 6 5 V 又は C 1 6 5 I を伴う S 1 5 7 V 及び C 1 6 5 L 又は I を伴う S 1 5 7 I と比べて活性が増大し、MHC 結合及び野生型ペプチドに特異的な T 細胞との交差反応性を保持した。

【0 2 1 6】

1 6 0 位での L 又は N、1 6 2 位での A、L、V 又は N、或いは 1 6 4 位での E、D 又は T のほかに、1 5 7 位及び 1 6 5 位での Y 並びに V を含む三重置換は、交差反応性アッセイにおいてペプチドの活性を保持し、1 6 0 位、1 6 2 位及び 1 6 4 位が TCR との相互作用に関与するため、これらのアナログを *in vivo* での T 細胞耐性を破壊するのに有用な化合物としている。

40

【0 2 1 7】

1 6 5 位での V、L、I に加えて 1 5 7 F 及び 1 5 8 V を含む三重置換は、実施例 2 に記載するアッセイにおいて活性を示した。さらに、1 6 5 位での V 又は A に加えて S 1 5 7 F 及び L 1 5 8 I を包含する三重突然変異体は活性を保持した。総合すると、これらのデータは、複数の置換の複雑な相互作用的且つ非線形的な特性を強調している。

【0 2 1 8】

最後に、1 5 8 V 及び 1 6 5 V とともに、S 1 5 7 W、及び程度はより大きい S 1 5

50

7 Tを含む三重突然変異体は、野生型ペプチドに対して、それぞれ活性が保持又は増大された。

[実施例 2 5]

【0 2 1 9】

野生型ペプチドを包含し、様々な部位で突然変異された十量体の交差反応性及び機能的結合力（図 1 3 A～C）

上記（実施例 6）の方法を適用して、一般的に知られている NY-E S O-1₁₅₇₋₁₆₅ ペプチドを包含する十量体のアナログのライブラリー全体を精査した。十量体自体は、*i n v i t r o*での活性をかなり低減する一方で、1 6 6 位での L、又は 1 5 7 位での Y 及び 1 6 5 位での V と組み合わせた 1 6 6 位での L、I、N l e のような、この位置での様々な置換は、活性を部分的に回復した。

【0 2 2 0】

野生型ペプチドと比較して、*i n v i t r o*で活性が類似又は低減された（しかし、交差反応性は保持された）ペプチドアナログは、i）より限定された A I C D（抗原誘導細胞死）、i i）クラス I M H C の安定性の増大及び／又はわずかに変更された T C R との相互作用に起因した、*i n v i v o*でのより高い活性に起因して、免疫応答の誘導又は追加免疫に依然として有用である。したがって、これらのアナログは耐性破壊に有用である。

[実施例 2 6]

【0 2 2 1】

アナログの免疫学的特性の評価：M H C クラス I 分子へのペプチドの結合（図 1 3 A～C）

H L A-A*0 2 0 1 に対するペプチド類縁類体及び野生型 I プトープの親和性は、T 2 細胞ベースのアッセイ（その全体が参照により本明細書に援用される Regner M, 他., E xp Clin Immunogenet. 1996; 13(1):30-5)により評価した。結合アッセイに関して簡潔に述べると、T A P の発現を欠き、その結果細胞表面上で安定な M H C クラス I を構築しない T 2 細胞を、種々の濃度のペプチド（対照又はアナログ）を用いて 3 7 °C で一晩パルス化して、十分に洗浄して、M H C クラス I（A 2 対立遺伝子）を認識する蛍光タグ付けした抗体で染色して、F a c s S c a n 分析器にかけた。A 2 を結合するペプチドは、細胞表面でのその存在を安定化する。一定の濃度のアナログと陰性対照（非 M H C 結合ペプチド）の間の M F I（平均蛍光強度）の差異は、M H C とペプチドとの間の安定化複合体がどれだけ T 2 細胞の表面上に提示されるかの関数である。したがって、ペプチドの限界濃度では、主として K_{on} の尺度であり、ペプチドの飽和レベルでは、 K_{on} 及び K_{off} の両方の尺度である。図 1 3 では、結合は、数学的に関連する 2 つの要因：最大半量結合（飽和に相当するシグナルの 5 0 % となるペプチド濃度）及び対照（野生型ペプチド）に対して正規化された結合、即ちペプチドアナログに対する対照の最大半量結合の比である、相対親和性（ $1/R A$ ）により定量化される。 $1/R A$ 指数が大きいほど、且つ最大半量結合が小さいほど、アナログと M H C 分子間の相互作用の K_{on} は高い。図 1 3 では、このような結合パラメータが野生型ペプチドと比べて改善された 3 9 個のアナログが記載されている。このような改善された結合剤は、正確な／対となる修飾に依存する M H C 結合に対する全体的な影響を伴って、M H C 及び／又は T C R との相互作用に関与することが既知である部位で、標準及び／又は非標準アミノ酸の 1 つ、2 つ、3 つ又は複数の置換を有する。このようなペプチドアナログは、治療用組成物において、或いは治療用組成物をさらに派生させるための構造基盤として有用である。

[実施例 2 7]

【0 2 2 2】

免疫化の方法（図 1 4）

8 つのマウスのグループ（ $n = 4$ ）を、0 日目、3 日目、1 4 日目及び 1 7 日目に各リンパ節へ P B S 2 5 μ l 中野生型 NY-E S O-1₁₅₇₋₁₆₅ エピトープを発現するプラスミド 2 5 μ g で鼠径リンパ節へ直接的に接種することにより免疫化した。これに続いて、

図14示すように、陰性対照ペプチド(HBVc)、野生型ペプチド又はアナログを使用して、28日目及び31日目に2回のペプチドの追加免疫(同量)を行った。

[実施例28]

【0223】

野生型エピトープに対して免疫性の増強を誘発するためのアナログの使用(ex vivoでの評価)(図15A~C)

in vivoにおいて野生型エピトープに対して得られる応答を評価するために、脾細胞を同腹子対照HHDマウスから単離して、 $20\mu\text{g}/\text{mL}$ 又は $1\mu\text{g}/\text{mL}$ の野生型ペプチドとともに2時間インキュベートした。続いて、これらの細胞をCFSE^{hi}及びCFSE^{med}蛍光で染色して(それぞれ $4.0\mu\text{M}$ 又は $1\mu\text{M}$ 、15分間)、CFSE^{lo}蛍光($0.4\mu\text{M}$)で染色した同等数の対照脾細胞とともに免疫化マウスの静脈内へ同時注入した。18時間後、標的細胞の特異的な排除は、誘発された動物から脾臓及びPBMCを取り出すこと、及びフローサイトメトリーによりCFSE蛍光を測定することにより測定された。ペプチド注入した脾細胞に対応する集合の相対的な減少は、対照(未注入)集合に対して算出され、特異的溶解率(%)として表した。図15Aは、陰性対照ペプチドを施したマウスにおけるin vivoでの細胞毒性の減少を示す。図15Bは、プラスミドで免疫化し、且つ野生型ペプチドで増幅させたマウスにおける細胞毒性の変動を示す。図15Cは、プラスミドで免疫化して、且つアナログL158Nva C165Vで増幅させたマウスにおけるほぼ一定した細胞毒性を示す。

[実施例29]

【0224】

野生型エピトープに対して免疫性の増強を誘発するアナログごとの比較(ex vivoでの評価)(図16A~B)

上述の免疫化プロトコル(実施例8)において、また、実施例9に記載する方法を使用して、限界量($1\mu\text{M}$ 、図16A)又は上部最適量($20\mu\text{M}$ 、図16B)の野生型ペプチドでコーティングした標的細胞に対するin vivoでの細胞毒性は、2段階に関してそれぞれプラスミド及びペプチドアナログを使用した、同調並びに増幅プロトコルに続いて評価した。平均特異的溶解率(%) + / - SEとして表される結果により、アナログL158V C165Nvaが最高の活性を誘導すること、並びにアナログL158V C165V、L158V C165Nva及びS157K L158V C165Vが、野生型ペプチド又はC165V突然変異体と同じ範囲で効果を示すことが示された。複数の置換はTCR結合部位を変更し得るため、このようなアナログは、自己エピトープに対する耐性を破壊する際に、野生型ペプチドよりも有用である。さらに、S157K三重突然変異体は、直接的な実用的意義を伴って、野生型ペプチド又は他のアナログの溶解性の低さを改善させることができる。

[実施例30]

【0225】

野生型エピトープに対して免疫性の増強を誘発するためのアナログの使用(サイトカイン生産によるex vivoでの評価)(図17A~B)

上述の免疫化プロトコル(実施例27)において、また実施例28に記載する誘発後に、脾細胞を単離して、プールして、 $10\mu\text{M}$ の野生型ペプチドNY-ESO-1₁₅₇₋₁₆₅で、それぞれ3日間及び6日間in vitroで刺激した。上清を回収して、IFN- γ の濃度をELISAにより測定した。アナログL158Nva C165Vは、ex vivoでの刺激時に、より迅速に高レベルのIFN- γ を生産するT細胞を誘導した(図17A)。S157F L158V C165V、L158V C165Nva、及びL158V C165Vのような他のアナログは、野生型ペプチドによるex vivoでの再刺激時にIFN- γ を生産が増大するT細胞を誘導した(図17B)。一方、C165Vは、実施例27~28に記載するプロトコルに続く、野生型ペプチドに比べて、T細胞のIFN- γ を生産する能力の増大を誘導することはできなかった。

[実施例31]

【0226】

ELISAによる結合及び安定性の特性化 (iTopia試験)

プレースホルダーペプチドを注入したクラスIモノマーを含有する、アビジンコーティングしたマイクロタイタープレートを使用して、ペプチド結合、親和性及びオフ速度を評価した。モノマーコーティングされたプレートは、iTopiaエピトープディスカバリーシステムキット(Beckman Ciulter, Inc., San Diego, CA, USA)の一部として供給された。アッセイ緩衝液、抗MHC-FITC mAb及び β 2-ミクログロブリン並びに対照ペプチドもまたこのキットに供給された。

【0227】

結合アッセイ：

天然ペプチド及びアナログはまず、結合アッセイにより各MHC分子に対する結合能に関して評価された。このアッセイは、標準的な最適結合条件下における個々のペプチドのHLA分子に対する結合能を測定する。プレースホルダーペプチドを放出させて、プレートに結合したMHC重鎖のみを残して、モノマーコーティングされたプレートをまず取り剥がした。続いて、試験ペプチドを、抗MHC-FITC mAbとともに、最適なフォールディング条件下で導入した。プレートを21℃で18時間インキュベートした。抗MHC-FITC mAbは、リフォールディングされたMHC複合体へ優先的に結合する。したがって、各ペプチドから得られる蛍光強度は、MHC分子と複合体を形成するペプチドの能力に関連していた。各ペプチドの結合は、キット中に提供される陽性対照ペプチドとの比較で評価され、結果は、「結合%」と表した。天然ペプチドと比べて「より良好な結合剤」と同定されるアナログは続いて、親和性及びオフ速度アッセイで分析した。

【0228】

親和性アッセイ：

親和性アッセイに関して、プレースホルダーペプチドの最初の取り剥がし後に、一定の対立遺伝子に関する各試験ペプチドの濃度を増大させ($10^{-4} \sim 10^{-8}$ Mの範囲)、一連のウェルへ添加して、上述の条件下でインキュベートした。プレートを蛍光光度計上で読み取った。S字形用量応答曲線が、Prismソフトウェアを使用して作成された。最大の50%を達成するのに要されるペプチドの量をED₅₀値として記録した。

【0229】

オフ速度アッセイ：

オフ速度アッセイに関して、21℃での18時間のインキュベーション後にプレートを洗浄して、過剰量のペプチドを除去した。続いて、プレートに対立遺伝子特異的モノマープレート上で37℃にてインキュベートした。プレートは、相対蛍光強度に関して複数の時点(0、0.5、1、1.5、2、4、6及び8時間)で測定した。ペプチドの50%がMHCモノマーから解離するのに要する時間をT_{1/2}値(時間)として定義する。

【0230】

iScore算出：

iScoreは、iTopiaソフトウェア内に提供される多重パラメータ算出である。その値は、結合、親和性及び安定性のデータに基づいて算出された。

[実施例32]

【0231】

PSMA₂₂₈₋₂₉₇の抗原性の検証

HHDTランスジェニックマウス(n=4)を、0日目、3日目、14日目及び17日目にPSMA₂₈₈₋₂₉₇ペプチド(各リンパ節に対して、pI:C12.5 μ gを加えてPBS25 μ l中25 μ g)で免疫化した。追加免疫の1週後に、脾細胞をex vivoで天然PSMA₂₈₈₋₂₉₇ペプチドで刺激して、⁵¹Cr標識化したヒト腫瘍細胞(PSMA⁺A2⁺LnCap細胞、又は陰性対照としてMHCクラスIブロッキング抗体でコーティングしたLnCap細胞)に対して様々なE:T比で試験した。%特異的溶解率(平均値 $\pm$ SEM)として表した結果により、PSMA特異的T細胞は、免疫介在性誘発を可能にする様式で腫瘍細胞のMHCクラスI上でPSMAエピトープの提示を確認し、MHCク

ラス I の利用可能性に応じた様式で、ヒト腫瘍細胞を溶解させることが可能であることが示された（図 18）。

[実施例 33～38]

【0232】

P S M A₂₈₈₋₂₉₇ アナログの試験

図 19 及び図 20 に列挙されるアナログは、以下の通り実施例 33～38 で、結合親和性及び安定性の改善、天然エピトープとの交差反応性並びに免疫原性のような様々な特性に関して試験した。

[実施例 33]

【0233】

単一部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

実施例 31 に記載する手順を使用して、P S M A₂₈₈₋₂₉₇ 及びアナログの結合特性を互いに比較して評価した（図 19 を参照）。結合に関する陽性対照は、m e l a n - A₂₆₋₃₅ A 27 L であった。実質的に実施例 6 に記載されるように、天然エピトープとの交差反応性は、アナログペプチドを使用して、天然エピトープに特異的な T 細胞系からの I F G - γ 分泌を刺激することにより評価された。図 19 で示されるデータは、10 μ g / m l のアナログ（およそ 10 μ M）で刺激することにより作成された。この濃度は概して、アナログに関して最大又はほぼ最大の I F N - γ 生産をもたらし、したがって交差反応性を表すのに選択された。

【0234】

観察されるアナログの親和性を E D 50 として図 19 に報告する。M e t、I l e、G l n、V a l、N v a、N l e 及び A b u は、P 2 位で置換された。これらは概して、同様の親和性をもたらした。N l e 及び M e t 置換はまた、解離の半減期の時間として測定される結合の安定性を同程度に維持した。V a l、N v a 及び A b u アナログは、類似したレベルの I F N - γ 生産を誘発した。

【0235】

V a l、L e u、N v a 及び N l e は、P Ω 第 1 のアンカー部位で I l e に代わって置換された。4 つ全てが、類似した結合親和性を有した。V a l 及び N v a 置換は、交差反応性及びアナログが改善された免疫原性を有し得ることを示し、結合の安定性を改善し、I F N - γ の生産量を増大させた。

【0236】

P 1 での S e r、S a r 及び A b u 置換は、結合特性を同程度に維持したが、交差反応性はあまり類似していなかった。P Ω - 1 位での A l a、L e u、S e r 及び T h r 置換もまた、結合特性を同程度に維持した。最後に、P 3 位での T r p 置換は、結合の親和性及び安定性を約 2 倍増大し、並びに天然ペプチドの 2 倍以内の I F N - γ 生産を示し、これらはすべて一般的に類似した値であった。

[実施例 34]

【0237】

2 つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

このエピトープにおける置換が結合親和性を大いに損なわないという上記に見られる傾向を、二重置換で検査して継続し（図 20）、天然ペプチドと比較して結合親和性が類似しているか又は結合親和性が改善しているかを一様に示した。両方の第 1 のアンカー部位で置換を有するアナログの中でも、P 2 での N v a 又は N l e、P Ω での V a l、P 2 での V a l 及び P Ω での N v a を有するものが、結合安定性を改善し、前者 2 つは、I F N - γ 生産を増大させた（第 3 のアナログに関してはデータが入手不可能であった）。P Ω での V a l 及び N v a 置換はまた、P 1 での A l a 及び A b u 置換と対にされた。これらのアナログは全て、単一の P Ω 置換と比較して改善された強い結合安定性及び I F N - γ 生産が改善しており、したがって P 1 置換をさらに改善させた。P Ω N v a 置換はまた、P 3 T r p 置換に、類似した交差反応性を回復させることが可能であった。

[実施例 35]

10

20

30

40

50

【0238】

3つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

P1、P2及びP3、P1、P2及びPΩ、P2、P3及びPΩ、並びにP1、P3及びPΩの三重置換を行った(図21)。全ての場合において、P1置換はAlaであり、P3置換はTrpであり、PΩ置換はVal又はNvaであった。上述のように、天然ペプチドに少なくとも類似した親和性が維持された。P1、P2、P3に関して、P2でのNva及びNleが、結合の安定性を改善させた。このP2 Nvaアナログは、同量のIFN-γを誘発したのに対して、Nleアナログは、かなりの増大を示した。

【0239】

P1、P2、PΩに関して、P2及びPΩでのNva及びValのいずれかの組合せは、結合安定性を改善させた。このP2 Nva PΩ Valアナログはまた、IFN-γ生産においてかなりの増大を示した(他のものに関するデータはない)。この三重置換におけるP2及びPΩの両方でのValは、天然ペプチドのほぼ半分の結合安定性及びIFN-γ生産を示した。

【0240】

P2、P3、PΩに関して、Nva/W/Vアナログのみが、結合又はIFN-γ生産の改善を示した。試験した2つのP1、P3、PΩアナログに関して、Val又はNvaであるPΩは、結合安定性を改善させたが、交差反応性が低かった。

[実施例36]

【0241】

様々なアナログの交差反応性免疫原性

HHDTランスジェニックマウスの群(n=8)を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、pI:C12.5μgを加えたPBS25μl中のペプチド(天然エピトープPSMA₂₈₈₋₂₉₇或いは第1又は第2のアンカー残基での置換を保有するアナログ)25μgで免疫化した。

【0242】

最終追加免疫の10日後に、マウスを屠殺して、脾細胞を調製して、ELISPOT分析によりIFN-γ生産を評価した。様々な数の脾細胞/ウェルを、抗IFN-γ抗体でコーティングしたELISPOTプレートにおいて、10μg/mlの天然ペプチドで刺激した。インキュベーションの48時間後に、アッセイを展開して、天然PSMA₂₈₈₋₂₉₇ペプチドを認識したサイトカイン生産T細胞の頻度を自動的に計数した。データは、スポット形成コロニーの数/ウェル(三重反復実験の平均値±SD)として図22に表した。データは、天然ペプチドよりもわずかに高い(が、有意な)活性を示す他のアナログ(I297Nva又はG288Abu又はL289Nle I297Nva)とともに、I297V及びP290Wアナログにより達成される、天然エピトープに対する免疫応答のプライミングの増大を示す。天然エピトープの低い免疫原性が耐性を反映する程度にこれらのアナログの活性の改善は、耐性破壊を表す。

[実施例37]

【0243】

プラスミドにより誘導されるPSMA₂₈₈₋₂₉₇に対する応答の、I297Vアナログによる増幅

HHDTランスジェニックマウスの2つの群(n=8)を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS25μl中のPSMA₂₈₈₋₂₉₇を発現するプラスミド25μgで免疫化した。これに続いて、天然ペプチド又はI297Vアナログのいずれかをを用いて、28日目及び31日目に2回のペプチド追加免疫(25μg)を行った。

【0244】

最終追加免疫の10日後に、マウスを屠殺して、脾細胞を調製して、ELISPOT分析によりIFN-γ生産を評価した。様々な数の脾細胞/ウェルを、抗IFN-γ抗体でコーティングしたELISPOTプレートにおいて、10μg/mlの天然ペプチドで刺

10

20

30

40

50

激した。インキュベーションの48時間後に、アッセイを展開して、PSMA₂₂₈₋₂₉₇ペプチドを認識するサイトカイン生産T細胞の頻度を自動的に計数した。データは、50万個のレスポナー細胞に対して正規化した特異的T細胞の頻度（三重反復実験の平均値±SD）として図23に表した。データにより、脾細胞の数／ウェルとは関係なく、天然エピトープ特異的T細胞の頻度が、I297Vアナログで免疫化したマウス群においてかなり高かったことが示された。

[実施例38]

【0245】

ヒト腫瘍細胞に対するex vivoでの細胞毒性

HHDTランスジェニックマウス（n=4）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS25μl中のPSMA₂₈₈₋₂₉₇エピトープを発現するプラスミド25μgで免疫化した。これに続いて、アナログI297Vを用いて、28日目及び31日目に2回のペプチド追加免疫（同量）を行った。追加免疫の1週後に、脾細胞をex vivoで天然PSMA₂₈₈₋₂₉₇ペプチドで刺激して、⁵¹Cr標識化したヒト腫瘍細胞（LnCap、A2⁺PSMA⁺、若しくは624.38A2⁺PSMA⁻又は対照624.28細胞A2⁻PSMA⁻）に対して様々なE:T比で試験した。得られた免疫性は、LnCapに対する細胞毒性を仲介する際に有効であった（図24）。

[実施例39]

【0246】

PRAME₄₂₅₋₄₃₃の抗原性の検証

HHDTランスジェニックマウス（n=4）を、0日目、3日目、14日目及び17日目にPRAME₄₂₅₋₄₃₃ペプチド（各リンパ節に対して、pI:C12.5μgに加えてPBS25μl中25μg）で免疫化した。追加免疫の1週後に、脾細胞をex vivoで天然PRAME₄₂₅₋₄₃₃ペプチドで刺激して、様々なE:T比で⁵¹Cr標識化したヒト腫瘍細胞（PRAME⁺A2⁺624.38メラノーマ細胞、又は陰性対照624.38細胞、A2発現が欠失）に対して試験した。％特異的溶解率（平均値±SEM）として表した結果により、PRAME特異的T細胞は、免疫介在性誘発を可能にする様式で、腫瘍細胞のMHCクラスI上でPRAME₄₂₅₋₄₃₃エピトープの提示を確認し、ヒト腫瘍細胞を溶解させることが可能であることが示された（図25）。

[実施例40～48]

【0247】

PRAME₄₂₅₋₄₃₃アナログの試験

図26～28に列挙されるアナログは、以下の通り実施例40～48で、親和性及び結合の安定性の改善、天然エピトープとの交差反応性並びに免疫原性のような様々な特性に関して試験した。実施例31に記載する手順を使用して、PRAME₄₂₅₋₄₃₃及び69個のアナログのHLA-A*0201結合特性を互いに比較して評価した。結合に関する陽性対照は、melan-A₂₆₋₃₅A27Lであった。観察されるアナログの親和性を％結合（陽性対照と比較して）及びED50として報告する。結合の安定性を解離の半減時間として報告する。天然エピトープとの交差反応性は、実質的に実施例6に記載されるように、アナログペプチドを使用して、天然エピトープに特異的なT細胞系からのIFN-γ分泌を刺激することにより評価された。図26～28で示されるデータは、およそ0.3μMのアナログペプチドを用いて刺激することにより作成された。結果は、3つの別個の実験から収集されて、それぞれにおいて天然ペプチドにより誘発されるIFN-γの量に対して正規化された。場合によっては、報告される値は、2つの測定の平均値である。アスタリスク「*」は、IFN-γ生産がバックグラウンドと識別できなかったことを示す。

[実施例40]

【0248】

単一部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力（図26）

V a l、M e t、I l e、N l e、N v a及びA b uの単一置換が、P 2の第1のアンカー部位にあるL e uに対して行われた。これらのアナログは全て、天然ペプチドの20%以内の%結合を示した。E D 5 0は、M e t及びN v aアナログに関して確定した。前者は幾らか改善されたが、天然ペプチドに匹敵する親和性を有したのに対して、後者の親和性は約3倍低減されたが、依然としてP S M A₂₈₈₋₂₈₇エピトープに匹敵していた。P 2置換は全て、少なくとも天然ペプチドに類似した結合安定性を維持した。M e t、N l e及びN v aアナログは、天然ペプチドの2倍以内のI F N- γ 生産を誘発し、V a lアナログは、いくらか少ないI F N- γ 生産を誘発した。

【0249】

L y s、P h e、T y r、T h r、O r n（オルニチン）及びH s e（ホモセリン）の単一置換が、P 1部位のS e rで行われた。これらのアナログは全て、天然ペプチドの20%以内の%結合を示したが、但し、高い側に当該範囲を超過するP h eアナログを除く。L y sアナログのE D 5 0は確定しなかったが、他の5つのアナログは、天然ペプチドの3倍以内の親和性を有した。結合の安定性は概して天然ペプチドと同程度であり、P h e P 1アナログは、天然ペプチドの12.2時間と比較して17.7時間の解離の半減時間を伴ってこの群で最大の結合安定性を示す。天然ペプチドの40%のI F N- γ を誘発したL y s P 1アナログを除いて、これらのアナログは全て、それらが天然ペプチドの2倍以内のI F N- γ 生産を誘発したため、交差反応性とみなされた。

【0250】

V a l、I l e、A l a、N l e、N v a、A b uの単一置換が、P Ω アンカー部位に対して行われ、並びにアミド基の付加によるカルボキシ末端の修飾が行われた。測定した結合親和性は、少なくとも天然ペプチドと同程度であった。結合の安定性はまた、一般的に類似しているが、N v aアナログにおける高域での異常値である17.2時間のt 1/2、及びたった3時間のかかりで低減されたt 1/2を有するC末端アミドの低域での異常値が見られた。V a l、I l e、A l a及びA b u P Ω アナログはあまり良好ではない交差反応性を示すが、他のものは天然ペプチドの2倍以内のI F N- γ 生産を誘発した。

【0251】

主としてT C R相互作用に影響を及ぼす位置での単一の置換も行われた：P 3及びP 6でのN l e、N v a及びA b u、並びにP 8でのA l a、S e r及びS a r。P 6 N v aアナログは、天然ペプチドの2倍以内のI F N- γ を生産したが、P 6 A b uアナログは44%で終結した。

[実施例41]

【0252】

2つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

二重置換アナログは、上記の単一置換の様々な組合せを使用して、P 1及びP 2、P 2及びP Ω 、並びにP 1及びP Ω で行われた（図27A及び27B）。検査したP 1-P 2二重置換はいずれも、結合親和性又は安定性に対して根本的な変化をもたず、いずれもI F N- γ アッセイにおいて有意な交差反応性を示さなかった。同様の傾向が、P 2-P Ω 二重置換アナログで見られるが、L 4 2 6 N v a L 4 3 3 N l eアナログは、結合特性が同様にいくらか改善されるとともに、I F N- γ アッセイにおいて天然ペプチドとの交差反応性の有意なレベルを示す。最後に、P 1-P Ω 二重置換に関して、検査したアナログもまた、少なくとも同程度の結合特性を有する一般的な傾向があったが、交差反応性アッセイにおいてはI F N- γ をほとんど誘発しなかった。この分類における例外は、結合安定性がいくらか改善され、有意な交差反応性を示したS 4 2 5 T L 4 3 3 N l eアナログ、並びに4倍以上低減されたE D₅₀、ほぼ2倍の解離の半減時間を有し、且つ天然ペプチドよりも多くのI F N- γ を誘発したS 4 2 5 F L 4 3 3 N l eアナログであった。

[実施例42]

【0253】

3つの部位で置換されたアナログの交差反応性及び機能的結合力

P1でPhe又はThr、P2でNva又はMet、並びにPΩでNleを有する4つの三重置換アナログを研究した。S425T L426M L433Nleアナログは同程度の親和性を有したのに対して、他の3つのアナログに関しては、親和性は改善された。P2 Nva置換を有するアナログはともに、結合安定性の増大及び有意なレベルの交差反応性を示した。図28を参照されたい。

[実施例43]

【0254】

L426Nva L433Nleアナログの交差反応性免疫原性

HHDTランスジェニックマウスの2つの群(n=8)を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS25μl中のPRAME₄₂₅₋₄₃₃を発現するプラスミド(以下の実施例49に記載するpCTLR2)25μgで免疫化した。これに続いて28日目及び31日目に天然ペプチド又はPRAMEエピトープアナログL426Nva L433Nleによる2回のペプチド追加免疫(2.5μg)を行った。

【0255】

最終追加免疫の10日後に、マウスを屠殺して、脾細胞を調製して、10μg/mlの天然ペプチドによる 0.5×10^6 個の細胞/ウェルのin vitroでの刺激後に、IFN-γ生産を評価した。インキュベーションの48時間後に、上清を収集して、PRAME₄₂₅₋₄₃₃ペプチドに応じて生産されるIFN-γの濃度をELISAにより測定した。データは図29に表し、PRAME₄₂₅₋₄₃₃L426Nva L433Nleアナログで追加免疫したマウスにおけるIFN-γ生産の有意な増強を示す。

[実施例44]

【0256】

L426Nva L433Nleアナログに誘導されるin vivoでの細胞毒性

HHDTランスジェニックマウスの2つの群(n=8)を上記実施例43に記載するように免疫化した。

【0257】

天然エピトープに対して得られるin vivoでの応答を評価するために、脾細胞を同腹子対照HHDMausから単離して、20μg/mL又は1μg/mLの天然ペプチドとともに2時間インキュベートした。続いて、これらの細胞をCFSE^{hi}及びCFSE^{me}_d蛍光で染色して(それぞれ4.0μM又は1μM、15分間)、CFSE^{lo}蛍光(0.4μM)で染色した同等数の対照脾細胞とともに免疫化マウスの静脈内へ同時注入した。18時間後、標的細胞の特異的な排除は、誘発された動物から脾臓及びPBMCを取り出すこと、及びフローサイトメトリーによりCFSE蛍光を測定することにより測定された。ペプチド注入した脾細胞に対応する集合の相対的な減少は、対照(未注入)集合に対して算出され、%特異的溶解率として表した。図30における結果は、アナログが追加免疫剤として天然ペプチドに置き換わる場合に、細胞毒性の保存された誘導を示した。この傾向により、アナログが細胞毒性免疫性の誘導を改善させることができることが示される。

[実施例45]

【0258】

in vivoでの細胞毒性及び四量体染色

HHDTランスジェニックマウスの7つの群(n=4)を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS25μl中のPRAME₄₂₅₋₄₃₃を発現するプラスミドであるpCTLR2 25μgで免疫化した。これに続いて、28日目及び31日目に、天然ペプチド、陰性対照(EAAGIGILTVPペプチド)或いは第1及び/又は第2のアンカー残基に突然変異を有するPRAME₄₂₅₋₄₃₃エピトープアナログ(S425F、L426Nva L433Nle、S425T L433Nle及びS425T L426Nva L433Nle)による2回のペプチド追加免疫(2.5μg)を行った。

【0259】

天然エピトープに対する *in vivo*での応答を評価するために、脾細胞を同腹子対照HHDマウスから単離して、 $0.2 \mu\text{g}/\text{mL}$ 又は $20 \mu\text{g}/\text{mL}$ の天然ペプチドとともに2時間インキュベートした。続いて、これらの細胞をCFSE蛍光で染色して（それぞれ1及び $2.5 \mu\text{M}$ 、15分間）、CFSE¹⁰蛍光（ $0.4 \mu\text{M}$ ）で染色した同等数の対照脾細胞とともに免疫化マウスの静脈内へ同時注入した。18時間後、標的細胞の特異的な排除は、誘発された動物から脾臓を取り出すこと、及びフローサイトメトリーにより得られた細胞懸濁液中のCFSE蛍光を測定することにより測定された。ペプチド注入した脾細胞に対応する集合の相対的な減少は、対照（未注入）集合に対して算出され、%特異的溶解率として表した。さらに、PRAME₄₂₅₋₄₃₃特異的T細胞の頻度は、四量体／CD8共染色により評価した。第1又は第2のアンカー残基に突然変異を包含するアナログによる追加免疫は、*in vivo*での細胞毒性及び四量体染色に基づいて、天然ペプチドと比較した場合に匹敵する免疫活性を示した。アナログは、無関係のペプチドで追加免疫した「EAA群」との比較により示されるように、免疫応答を増幅することが可能であった。その点に関して、S425F、L33N1e、L426Nva L433N1e、S425T L433N1e又はS425T L426Nva L433N1eを含むアナログは全て、*in vivo*での細胞毒性により評価されるように、天然エピトープに対する免疫性を拡大させることが可能であった。しかしながら、L433N1e、L426Nva L433N1e及びS425T L426Nva L433N1eアナログだけが、プラスミドでプライミングし、且つ陰性対照ペプチドで追加免疫したマウスよりも有意に高いレベルにまで、天然エピトープに対して特異的なT細胞のサブセットを拡張させた（図31）。

10

20

[実施例46]

【0260】

*ex vivo*でのサイトカイン生産

HHDトランスジェニックマウスの3つの群（ $n=4$ ）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS $25 \mu\text{L}$ 中のPRAME₄₂₅₋₄₃₃を発現するプラスミドであるpCTL R2 $25 \mu\text{g}$ で免疫化した。これに続いて、28日目及び31日目に、PRAMEエピトープアナログL426Nva L433N1e及びS425T L426Nva L433N1e又は陰性対照ペプチドMe1an A（EAA G I G I L T V）により2回のペプチド追加免疫（ $2.5 \mu\text{g}$ ）を行った。

30

【0261】

最終追加免疫の10日後に、マウスを屠殺して、脾細胞を調製して、 $10 \mu\text{g}/\text{mL}$ の天然ペプチドとのインキュベーションの48時間後に、ELISAによりIFN- γ 生産を評価した。データは、 pg/mL でのサイトカイン濃度（三重反復実験の平均値 $\pm$ SD）として図32に表した。両方のアナログで追加免疫したマウス由来の脾細胞による *ex vivo*でのサイトカイン生産、及びS425T L426Nva L433N1eに対する応答よりもL426Nva L433N1eに対するより高い応答がデータにより示された。

40

[実施例47]

【0262】

アナログによるペプチド追加免疫後のヒト腫瘍細胞系に対する *ex vivo*での細胞毒性

HHDトランスジェニックマウス（ $n=4$ ）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に鼠径リンパ節へ直接接種することにより、PBS $25 \mu\text{L}$ 中のPRAME₄₂₅₋₄₃₃を発現するプラスミドであるpCTL R2 $25 \mu\text{g}$ で免疫化した。これに続いて、28日目及び31日目に、アナログL426Nva L433N1eによる2回のペプチド追加免疫（ $2.5 \mu\text{g}$ ）を行った。追加免疫の1週後に、脾細胞を *ex vivo*で天然ペプチドで刺激して、⁵¹Cr標識化したヒト腫瘍細胞（IFN- γ で前処理したか、若しくは

50

前処理しない PRAME⁺ 624. 38メラノーマ細胞、又は陰性対照 624. 38細胞、HLA-A2発現が欠失) に対して様々な E:T 比で試験した。アナログ L426Nva L433Nle は、A2 を発現するヒト腫瘍細胞発現 (624. 38) に対する有意な細胞毒性を介在する免疫応答を誘発し、IFN- γ によるそれらの前処理時にわずかに上昇された。対比して、A2-624. 28細胞に対しては有意な活性は測定されなかった。図 33 を参照されたい。

[実施例 48]

【0263】

PRAME₄₂₅₋₄₃₃ に対する *in vitro* での免疫化

in vitro での免疫化は、図 34 に提示した一般的なスキームに従って実施された。減少血単核細胞 (PBMC) は、フィコール分離により健常なドナー (HLA-A*0201⁺) から得られた。新鮮な PBMC (2.5×10^6 個) を、 5 ng/ml の PRAME₄₂₅₋₄₃₃ 又はペプチドアナログとともに T 細胞培養培地中で平板培養した。続いて、72 及び 96 時間後に、 20 IU/ml のインターロイキン 2 を各ウェルへ添加して、さらなる添加ペプチド (5 ng/ml) を 7 日目に添加した。培養物をさらに 10 日間インキュベートした後、エフェクター細胞を収集して、四量体染色に使用した。IVS PBMC を PRAME₄₂₅₋₄₃₃ 四量体で標識化して、FACSCalibur (BD, San Jose, CA) 上で分析した。四分円を、無関係の HBV 四量体及び SSX2 四量体で染色した陰性対照に基づいて設定して、最低 10, 000 ゲートのイベントを捕捉した。四量体陽性細胞は、リンパ球集合のパーセントとして表される。PRAME₄₂₅₋₄₃₃ 特異的四量体は、天然ペプチドと比較した場合にペプチドアナログによる IVS 後に有意に増強された。図 35 を参照のこと。これは、アナログが好適な免疫原になり得ることを実証している。

[実施例 49]

【0264】

PRAME₄₂₅₋₄₃₃ エピトープを発現するプラスミドである pCTLR2

pCTLR2 は、PRAME アミノ酸残基 425~433 由来の HLA-A2 特異的 CTL エピトープである SLLQHLLIGL、及び PRAME のエピトープクラスター領域であるアミノ酸 422~509 を有する 1 つのポリペプチドをコードする組換え DNA プラスミドワクチンである。プラスミド中の上記ポリペプチドに関する cDNA 配列は、抗原提示細胞による取り込み時にポリペプチドに関するメッセンジャーの効率的な転写を可能にするサイトメガロウイルス (CMV p) 由来のプロモーター/エンハンサー配列の制御下にある。コード配列の 3' 末端にあるウシ成長ホルモンポリアデニル化シグナル (BGH ポリ A) は、メッセンジャーのポリアデニル化に関するシグナルを提供して、その安定性並びに核から細胞質への移行を増大させる。核へのプラスミド運搬を促進するために、サルウイルス 40 由来の核移行配列 (NIS) をプラスミド骨格へ挿入させている。免疫応答をさらに追加免疫するために、CpG 免疫賦活モチーフの 1 つのコピーをプラスミドへ操作している。最後に、プラスミド中の 2 つの原核生物の遺伝的要素は、E. coli における増幅、カナマイシン耐性遺伝子 (Kan^R) 及び pMB 細菌複製起点に関与する (図 36 を参照)。

【0265】

免疫原の翻訳産物の配列

コードされるポリペプチドのアミノ酸配列 (150 アミノ酸残基長) を以下に付与する。

【0266】

malqsl lqhllig lsnlthvlypvpl esyedihgtl hler
laylharllrelllcelgrpsmvwlsanpcphcgdr tfydpe
pilcp cfm pknkrsllqhllig l gdaaysllqhllig l ispek
eeqyiasllqhllig l krp sikrsllqhllig l (配列番号 100)

【0267】

最初の89個のアミノ酸残基は、PRAME 422～509を表すエピトープクラスター領域である。このエピトープクラスター領域内に、各種エピトープ予測アルゴリズムを使用して、多数の潜在的なHLA-A2特異的CTLエピトープが見出されている。アミノ酸残基90～150は、包埋されたPRAME 425～433 CTLエピトープの4つのコピー（太字処理）を有するエピトープ遊離（synchronotope（商標））配列である。PRAME CTLエピトープのプロセッシングに重要な役割を果たすことが示されている短いアミノ酸配列が、規定PRAME CTLエピトープに隣接している。さらに、アミノ酸配列 *ispekeeqyia*（PRAMEアミノ酸276～286に相当、イタクク体）は、コードされるポリペプチドの発現の検出を促進するためにスティングオブビーズ領域へ組み込まれている。

10

【0268】

四量体、ELISPOT、ELISA及び細胞毒性を包含する各種免疫学的アッセイを使用して、エピトープPRAME₄₂₅₋₄₃₃に特異的な強力なCTL応答が、pCTL R2プラスミドで免疫化したHLA-A2トランスジェニックマウスから検出されており、pCRL R2に関する免疫原性有効性を示唆している。これらのデータにより、上記プラスミドは、抗原提示細胞により摂取されて、コードされるポリペプチドが合成されて、タンパク質分解的にプロセッシングされて、九量体エピトープペプチドを生産して、提示のためにHLA-A2結合されることが示された。

【0269】

プラスミド構築

20

長い相補的オリゴヌクレオチドの組の段階的な連結は、「スティングオブビーズ」エピトープ遊離配列（アミノ酸90～150）のアミノ酸残基をコードするcDNAの生成をもたらした。これらのcDNAは、PRAMEエピトープクラスター領域（アミノ酸1～89）をコードするcDNAとのさらなる連結に使用することができる制限酵素のための適切な付着末端を保有し、これらは鋳型としてPRAMEをコードするcDNAに関してPCRを実施することにより増幅された。続いて、挿入片全体が、Afl I IとEcoR I部位との間でベクター骨格へ連結された。コード配列全体は、DNAシーケンシングにより確認された。

[実施例50]

【0270】

抗原特異的T細胞応答の発生

30

H-2クラスI陰性のHLA-A2.1トランスジェニックHHDMausを、病原体を含まない条件下で飼育して、HLA-A2.1制限ヒト腫瘍関連細胞毒性Tリンパ球（CTL）エピトープの免疫原性の評価に使用した。8～12週齢の雌マウスを、*in vivo*での細胞毒性研究のためのリンパ管内の免疫化及び脾細胞の単離に使用した。マウスを両側からの鼠径リンパ節注入により免疫化した。マウスは、イソフルオランの吸入により麻酔して、無菌条件下で手術を行った。手術の準備後に、鼠径ひだにおいて長さが0.5cmの切開を行い、鼠径リンパ節を露出させた。最大用量のプラスミドDNAワクチン又はペプチド25µl（25µg）を、0.5mLインスリンシリンジを使用してリンパ節へ直接注入した。滅菌6-0ナイロン皮膚縫合糸で創傷を閉じた。

40

[実施例51]

【0271】

ヒト腫瘍細胞に対する*ex vivo*での細胞毒性

HHDMトランスジェニックマウス（n=4/群）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に、PBS 25µl中25µg/各リンパ節でmelan-A₂₆₋₃₅A27エピトープアナログを発現するプラスミドpSEM（米国特許出願第10/292,413号（公開番号第20030228634号A1）（その全体が参照により援用される））でより完全に記載されている）で免疫化した。これに続いて、アナログA27L、27Nva又はA27L V35Nvaを用いて、28日目及び31日目に2回のさらなるペプチド追加免疫（同量）を行った。追加免疫の1週後に、脾細胞を*ex vivo*で天然melan

50

n-A₂₆₋₃₅ペプチドで刺激して、⁵¹Cr 標識化したヒト腫瘍細胞（624.38細胞）に対して様々なE:T比で試験した。A27L又はA27Nvaアナログで追加免疫した後に得られる免疫性は、天然ペプチドEAGIGILT Vに匹敵し、且つより有効であった（図37）。プライミング用プラスミドは、A27Lアナログを発現するため、実験は上記ペプチドを支持する潜在的な傾向を有しており、その結果、A27Nvaアナログで得られる相当な細胞毒性は、プライミングが上記の同配列を利用した場合その効力より低く見積もられ得る。

[実施例52]

【0272】

四量体分析

CD8+抗原特異的T細胞の測定には、クラスIのMHC／ペプチド複合体によるT細胞受容体（TCR）の同族認識を要する。これは、それぞれが特異的ペプチドに結合される4つのHLA-MHCクラスI分子の複合体から構成され、且つ蛍光タンパク質と結合されたクラスIのMHC四量体を使用して実施することができる。したがって、四量体アッセイは、特定のMHC分子において複合体形成される所与のタンパク質に特異的な全T細胞集合の定量化を可能にする。さらに、結合は機能的経路に依存しないため、この集合は、機能的状態に関わらず、特異的CD8+T細胞すべてを包含する。免疫化動物におけるCTL応答は、HLA-A*0201-MART1（ELAGIGILT V）-PE MHC四量体（Beckman Coulter、T01008）又はチロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇（YMDGTM S Q V）特異的四量体試薬（HLA-A*0201チロシナーゼPE、Beckman Coulter）及びFITC結合ラット抗マウスCD8a（Ly-2）モノクローナル抗体（BD Biosciences）を用いて、密度遠心分離（Lympholyte Mammal, Cedarlane Labs）後に減少血から単離した単核細胞を共染色することにより測定した。データは、BD FACS Caliburフローサイトメータを使用して収集し、cellquestソフトウェアを使用して、リンパ球集合をゲーティングすること及びCD8+CTL集合内の四量体+細胞の割合を算出することにより分析した。

[実施例53]

【0273】

四量体染色（プラスミドプライミング、ペプチド追加免疫－天然対アナログ）

HH Dトランスジェニックマウスの2つの群（n=8）を、0日目、3日目、14日目及び17日目にPBS 25 µl中チロシナーゼ369-377を発現するプラスミド25 µg／各リンパ節を鼠径リンパ節へ直接接種することにより免疫化した。これに続いて、28日目及び31日目に、天然ペプチド又は377Nvaアナログによる2回のさらなるペプチド追加免疫（類似した量）を行った。10日後、チロシナーゼ369-377特異的四量体試薬（HLA-A*0201チロシナーゼPE、Beckman Coulter）を使用して、免疫応答をモニタリングした。個々のマウスを、眼窩洞後静脈を介して出血させて、2,000 rpmで25分間、密度遠心分離（Lympholyte Mammal, Cedarlane Labs）を使用してPBMCを単離した。PBMCは、CD8に対するマウス特異的抗体（BD Biosciences）及びチロシナーゼ四量体試薬で共染色して、特異的パーセントは、FACS caliberフローサイトメータ（BD）を使用して、フローサイトメトリーにより確定された。チロシナーゼ特異的CD8+細胞のパーセントは、アナログによる天然ペプチドの置換が、チロシナーゼ特異的サブセットの拡張を保存したことを示す。アナログがチロシナーゼ特異的T細胞の拡張を改善させることができることが傾向により示される（図38）。

[実施例54]

【0274】

in vivoでの細胞毒性及び四量体染色（天然ペプチドとアナログ候補物のパネルとの間の直接的な比較）

HH Dトランスジェニックマウスの4つの群（n=6）を、0日目、3日目、14日目及び17日目に、リンパ節1つ当たりPBS 25 µl中のチロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇及びMelan-A₂₆₋₃₅A27Lエピトープを発現するプラスミド（pSEM）25 µgを鼠径

10

20

30

40

50

リンパ節へ直接接種することにより免疫化した。これに続いて、28日目及び31日目に、左鼠径リンパ節へのMelan-A₂₆₋₃₅A27L並びに右鼠径リンパ節への第1及び／又は第2のアンカー残基での置換を保有するチロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇アナログの2回のさらなるペプチド追加免疫（類似した量）を行った。対照として、プラスミドのみで免疫化したマウス又は未処置マウスを使用した。

【0275】

天然チロシナーゼ及びMelan-Aエピトープに対するin vivoでの応答を評価するために、脾細胞を同腹子対照HHDマウスから単離して、個々にHL-1無血清培地(Cambrex)中で 20×10^6 個の細胞/mlの濃度で $20 \mu\text{g/ml}$ の天然ペプチド(Melan-A₂₆₋₃₅又はチロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇)とともに2時間インキュベートした。続いて、これらの細胞をCFSE (Vybrant CFDA SE細胞トレーサーキット、Molecular Probes)で染色して(それぞれ1及び2.5 μM 、15分間)、CFSE¹⁰蛍光(0.4 μM)で染色した同等数の対照非ペプチドコーティング脾細胞とともに免疫化HHDマウス又は未処置対照HHDマウスの静脈内へ同時注入した。18時間後、標的細胞の特異的な排除は、誘発された動物から脾臓を取り出すこと、及びフローサイトメトリーにより得られた細胞懸濁液中のCFSE蛍光を測定することにより測定された。ペプチド注入した脾細胞に対応する集合の相対的な減少は、対照(未注入)集合に対して算出され、%特異的溶解率として表した。さらに、チロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇及びMelan-A₂₆₋₃₅特異的T細胞の頻度は、四量体/CD8共染色(HLA-A*0201四量体、Beckman Coulter)により評価した。

【0276】

チロシナーゼアナログV377Nvaは、天然ペプチドと同様に、及びチロシナーゼアナログM370V V377Nvaよりも多く、チロシナーゼ特異的T細胞の集合を拡張させ、且つ細胞毒性免疫性を増幅させることが可能であった(図39)。

[実施例55]

【0277】

ヒト腫瘍細胞に対するex vivoでの細胞毒性

HHDトランスジェニックマウス(n=4/群)を、0日目、3日目、14日目及び17日目に、リンパ節1つ当たりPBS 25 μl 中のチロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇エピトープを発現するプラスミド(pSEM) 25 μg を鼠径リンパ節へ直接接種することにより免疫化した(図40における一般的なプロトコルに従って)。これに続いて、天然ペプチド又は第1のアンカー残基P2及びP Ω (370及び377)での置換を保有するアナログを用いて、28日目及び31日目に2回のペプチド追加免疫(同量)を行った。追加免疫の1週後に、脾細胞をex vivoで天然チロシナーゼ₃₆₉₋₃₇₇ペプチドで刺激して、⁵¹Cr標識化したヒト腫瘍細胞(624.38細胞)に対して様々なE:T比でアッセイした。天然ペプチド及びM370V V377Nvaアナログは、624.38細胞に対して強健な細胞毒性を発生させた(図41)。天然ペプチドでは細胞溶解性活性の幾らかの希釈が見られたのに対して、アナログでは全く見られず、実施例52における四量体の結果から得られるより大きな免疫原性の徴候を強化した。先行例と合わせると、この観察は、よりストリジェントなアッセイ(in vivoでの細胞毒性及び四量体染色)をより高感度アッセイ(in vitroでの刺激後のex vivoでの細胞毒性)を補完することの有用性を示しており、潜在的に有用なアナログを概要する。

【0278】

上述の様々な方法及び技法は、本発明を実施するための多数の方法を提供する。当然のことながら、記載される目的及び利点の必ずしもすべてが、本明細書中に記載する任意の特定の実施形態により達成され得るわけではないことが理解されよう。したがって、例えば、上記方法は、本明細書中に教示されるある利点又は利点の群を、本明細書中に教示又は示唆され得るような他の目的又は利点を必ずしも達成せずに、達成或いは最適化する様式で実施されてもよいことが当業者に理解されよう。

【0279】

さらに、当業者は、種々の実施形態からの様々な特徴の互換性を認識するであろう。同様に、上記で論述される様々な要素、特徴及び工程、並びにこのような要素、特徴又は工程それぞれに関する他の既知の等価体は、当業者により混合及び調和されて、本明細書に記載する原理による方法を実施することができる。様々な要素、特徴及び工程には、具体的に包含されるものもあれば、多様な実施形態で具体的に排除されるものもある。

【0280】

本発明は、ある特定の実施形態及び実施例の内容で開示されているが、本発明は、具体的に開示される実施形態を超えて、他の代替的实施形態及び／又は使用、並びにそれらの明瞭な変更及びこれらの等価体にまで拡大することが当業者に理解されよう。

【図面の簡単な説明】

【0281】

【図1A】九量体の各アミノ酸部位でのSSX-2₄₁₋₄₉アナログについて調査した置換を要約した図である。

【図1B】十量体の各アミノ酸部位でのSSX-2₄₁₋₄₉アナログについて調査した置換を要約した図である。

【図2】アナログ同定のための好ましい実施形態の方法の概略図である。

【図3】1つの部位で置換されたSSX-2₄₁₋₄₉アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図4】2つの部位で置換されたSSX-2₄₁₋₄₉アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図5】2つを超える部位で置換されたSSX-2₄₁₋₄₉アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図6】41～49個のペプチドを含む、一般的に知られるSSX-2₄₁₋₄₉十量体アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図7】SSX-2₄₁₋₄₉アナログの注射スキームを示す図である。

【図8】腫瘍細胞溶解におけるSSX-2₄₁₋₄₉A42V、A42Lアナログ、及び野生型の活性を示す図である。

【図9】追加免疫のためにSSX-2₄₁₋₄₉アナログペプチドを使用したin vivoでの細胞毒性研究及びex vivoでの細胞毒性研究のための注射スキームを示す図である。

【図10】対照（野生型ペプチド）及びEAA（Melan A26-35）と比較した多数のアナログについてのin vivoでの特異的溶解の結果を示す表である。

【図11】対照（野生型ペプチド）及びEAA（Melan A26-35）と比較した多数のアナログについてのin vivoでの特異的溶解の結果並びにMHC結合及びMHC安定性を示す表である。

【図12】野生型の対照と比較した多数のアナログでの免疫化後に行った腫瘍細胞（624.38ヒト腫瘍細胞）の特異的溶解率を示す図である。

【図13A】九量体及び十量体についての各アミノ酸部位で調査した置換並びに得られた結果を要約した図である。

【図13B】九量体及び十量体についての各アミノ酸部位で調査した置換並びに得られた結果を要約した図である。

【図13C】九量体及び十量体についての各アミノ酸部位で調査した置換並びに得られた結果を要約した図である。

【図14】NY-ESO-1アナログの分析及び試験のために使用した注射スキームを示す図である。

【図15A】誘発した動物由来の脾臓及びPBMCの除去及びフローサイトメトリーによるCFSE蛍光の測定によって測定した標的細胞の特異的消失を示す図である。

【図15B】誘発した動物由来の脾臓及びPBMCの除去及びフローサイトメトリーによるCFSE蛍光の測定によって測定した標的細胞の特異的消失を示す図である。

【図15C】誘発した動物由来の脾臓及びPBMCの除去及びフローサイトメトリーによ

10

20

30

40

50

る C F S E 蛍光の測定によって測定した標的細胞の特異的消失を示す図である。

【図 16 A】 N Y - E S O - 1 アナログでの追加免疫後に野生型ペプチドでコーティングした標的細胞に対する *in vivo* の細胞毒性を示す図である。

【図 16 B】 N Y - E S O - 1 アナログでの追加免疫後に野生型ペプチドでコーティングした標的細胞に対する *in vivo* の細胞毒性を示す図である。

【図 17 A】 サイトカイン産生によって評価した野生型エピトープに対する免疫性の増強を誘発するアナログの能力の *ex vivo* の分析を示す図である。

【図 17 B】 サイトカイン産生によって評価した野生型エピトープに対する免疫性の増強を誘発するアナログの能力の *ex vivo* の分析を示す図である。

【図 18】 P S M A₂₈₈₋₂₉₇ エピトープの抗原性を実証するためのプロトコール及び試験結果を示す図である。

【図 19】 1つの部位で置換された P S M A₂₈₈₋₂₉₇ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 20】 2つの部位で置換された P S M A₂₈₈₋₂₉₇ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 21】 2つを超える部位で置換された P S M A₂₈₈₋₂₉₇ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 22】 E l i s p o t によって測定した種々の P S M A₂₈₈₋₂₉₇ アナログの免疫原性を示す図である。

【図 23】 E l i s p o t によって測定した I 2 9 7 V アナログによる抗 P S M A₂₈₈₋₂₉₇ 応答の増幅に関するアッセイの結果を示す図である。

【図 24】 I 2 9 7 V アナログでの追加免疫の結果を示す図である。アッセイは、追加免疫によって P S M A⁺ ヒト腫瘍株に対する細胞毒性免疫が得られることを示した。

【図 25】 P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ エピトープの抗原性を実証するためのプロトコール及び試験結果を示す図である。

【図 26】 1つの部位で置換された P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 27 A】 2つの部位で置換された P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 27 B】 2つの部位で置換された P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 28】 2つを超える部位で置換された P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログの交差反応性及び機能的結合力を示す表である。

【図 29】 E l i s p o t によって測定した P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログの免疫原性を示す図である。

【図 30】 L 4 2 6 N v a L 4 3 3 N l e アナログでの追加免疫の結果を示す図である。アッセイは、追加免疫によって天然エピトープをコーティングした細胞に対する細胞毒性免疫が得られることを示した。

【図 31】 P R A M E アナログの *in vivo* の評価のためのプロトコール及び評価結果を示す図である。

【図 32】 アナログ誘導された天然エピトープ再刺激 T 細胞におけるサイトカイン産生の *ex vivo* の刺激のためのプロトコールを示す図である。

【図 33】 L 4 2 6 N v a L 4 3 3 N l e アナログでの追加免疫の結果を示す図である。アッセイは、追加免疫によってヒト腫瘍細胞株に対する細胞毒性免疫が得られることを示した。

【図 34】 P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ に対する *in vitro* の免疫化のためのプロトコールを示す図である。

【図 35】 P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ アナログでの *in vitro* の免疫化後の四量体分析の結果を示す図である。

【図 36】 プラスミド (p C T L R 2) (P R A M E₄₂₅₋₄₃₃ エピトープを発現するプラ

10

20

30

40

50

スミド) の構造を示す図である。

【図 37】ヒト腫瘍細胞をプラスミド DNA でプライミングし、ペプチドで追加免疫した T 細胞で溶解した実験のアッセイ結果を示す図である。

【図 38】T y r₃₆₉₋₃₇₇でのプラスミドプライミング及び V 3 7 7 v a アナログでのペプチド追加免疫後の四量体分析結果を示す図である。

【図 39】図 39。

【図 40】チロシナーゼアナログ免疫原性評価プロトコルの概略図である。

【図 41】プラスミドでプライミングし、T y r₃₆₉₋₃₇₇アナログで追加免疫した H H D 由来のエフェクター細胞でコーティングした 6 2 4 . 3 8 細胞に体する免疫応答の結果を示す図である。

10

【図 1 A】

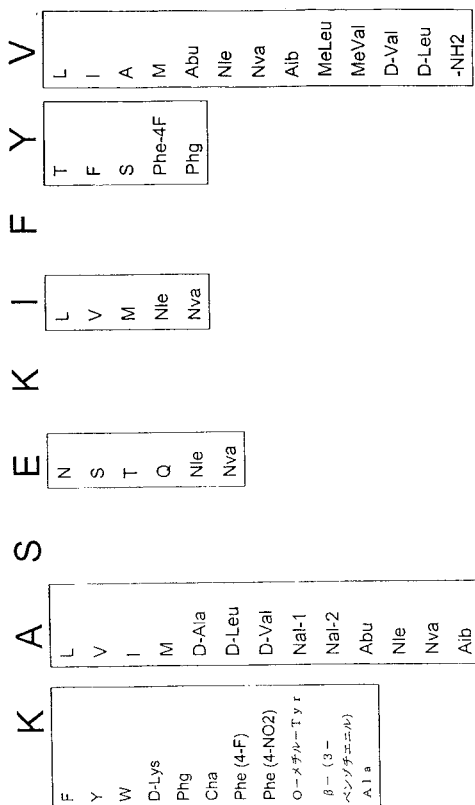


図 1 A : 設計された九量体アナログの概要

【図 1 B】

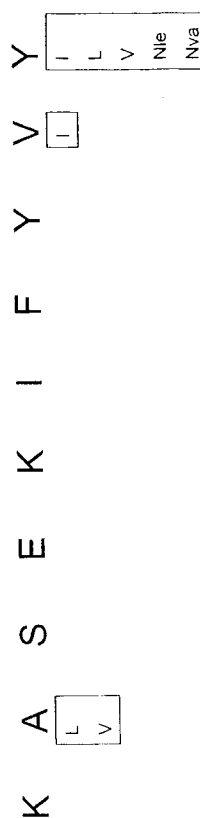
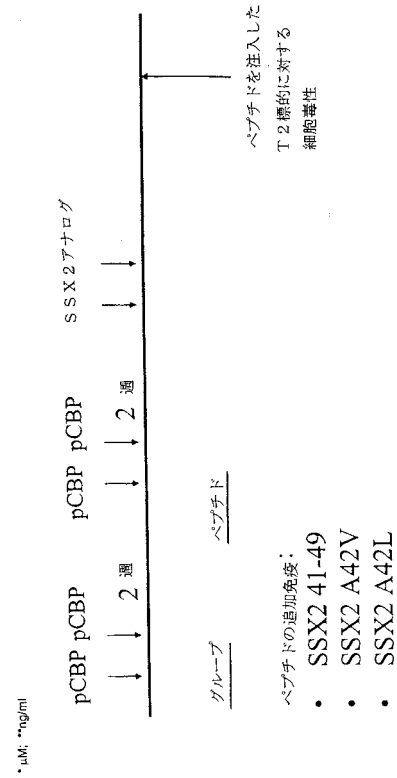


図 1 B : 設計された十量体アナログの概要

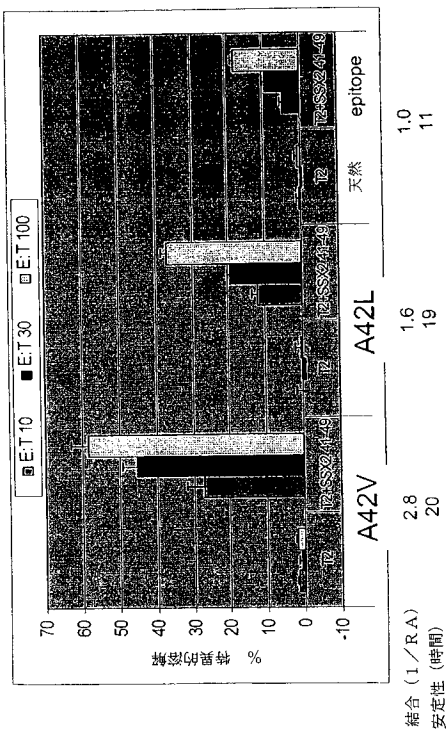
【 図 6 】

[illegible]

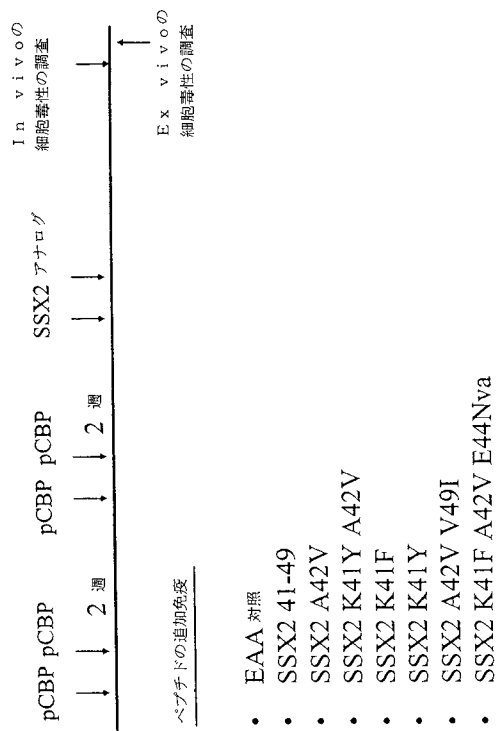
【図 7】



【图 8】



【图 9】

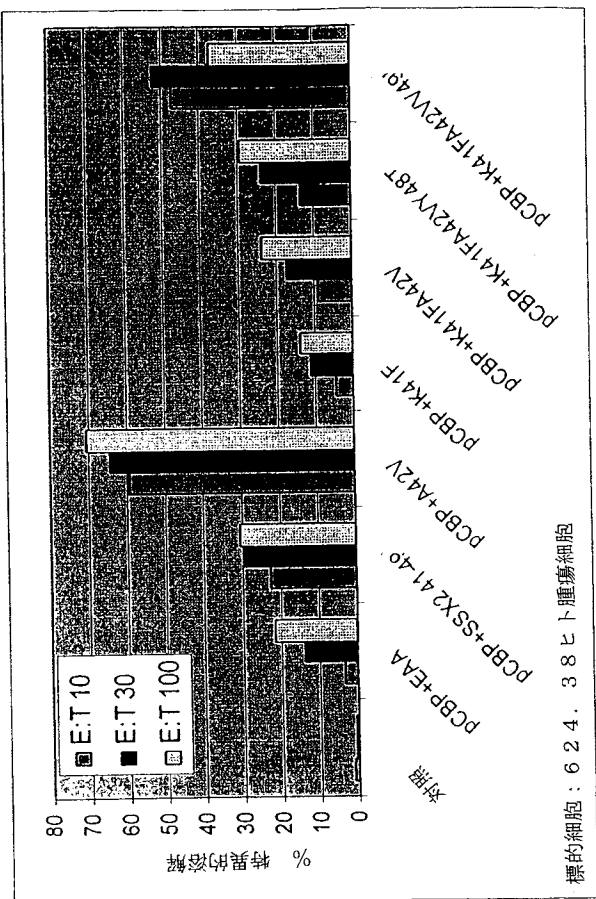


【 図 1 0 】

In vivo 特異的溶解

脾臟	SSX2 1ug/ml		SSX2 20ug/ml	
	平均值	SEM	平均值	SEM
对照	-0.2	2.8	-0.2	2.8
SSX 41-49 natural	50.8	13.9	71.9	17.1
SSX2 A42V	72.4	4.42	94.7	3.22
SSX2 K41F	68.2	9.5	91.3	5.4
SSX2 K41Y	69.2	14.45	90.7	8.45
SSX2 A42V V49I	56.3	28.29	74.4	27.34
SSX2 K41Y A42V	46.8	23.5	67.2	29.1
SSX2 K41F A42V E44Na	53.0	7.6	70.1	14.7
EAA	0.6	2.85	1.7	1.8

【図 1 2】



【 図 1 1 】

In vivo 特異的溶解

血液	SSX2 1ug/ml		SSX2 20ug/ml	
	平均值	SEM	平均值	SEM
对照	-0.01	0.88	0.3	1.61
SSX 41-49 natural	59.64	15.33	73.33	15.53
SSX2 A42V	79.31	3.91	90.84	0.72
SSX2 K41F	74.28	11.46	89.07	3.20
SSX2 K41Y	72.49	11.69	88.21	4.02
SSX2 A42V V49I	61.27	27.62	68.84	27.86
SSX2 K41Y A42V	52.60	25.65	66.21	28.18
SSX2 K41F A42V	55.38	-	65.98	-
EAA	3.06	1.26	2.61	3.96

【図 1 3 A】

[illegible]

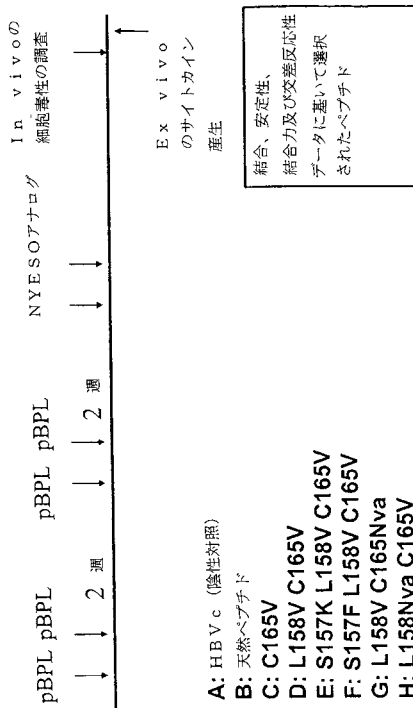
【 図 1 3 B 】

品名	規格	最大寸法材料費 (1/100)	材料費削減 (1/100)	備考
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	2.33	12.0	1
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165L)	YLLM1M70L	3.12	8.9	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165A)	YLLM1M70A	5.44	5.1	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	5.02	5.6	3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165L)	YLLM1M70L	1.13	24.7	0.1
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165A)	YLLM1M70A	1.42	25.2	0.1
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	1.31	25.5	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165L)	YLLM1M70L	2.31	12.1	3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165A)	YLLM1M70A	1.63	17.1	0.3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	1.15	24.3	0.3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165L)	YLLM1M70L	4.25	6.5	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165A)	YLLM1M70A	4.21	6.6	3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	12.28	2.3	0.3
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165L)	YLLM1M70L	2.36	9.4	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165A)	YLLM1M70A	2.36	9.4	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, L158V, C165V)	YLLM1M70V	3.65	7.9	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	5.62	5.0	0.32
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160L, C165V)	YLLM1M70L	6.9	4.0	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	3.63	7.3	0.1
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	33.6	0.3	0.69
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	10.7	>10	0.54
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	6.07	>10	1.1
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	0.81	34.4	3
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	6.12	4.6	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	8.2	4.6	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	4.53	8.2	0.54
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	5.45	5.1	>10
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	10.7	>10	0.31
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	10.7	>10	1.57
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	10.7	>10	0.49
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	3	>10	0.36
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165V)	YLLM1M70V	3	>10	0.49
NY-ESO-1 157-65 (S157, M160A, C165L)	YLLM1M70L	3	>10	0.37

【図 1 3 C】

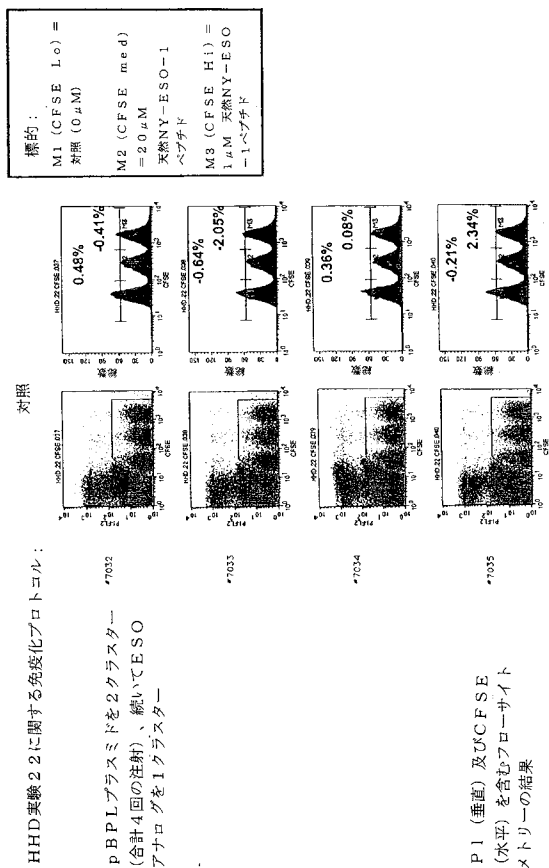
[illegible]

【図 14】



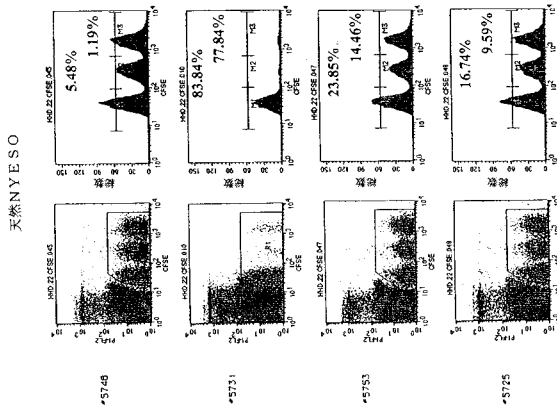
N=4 HHDマウス/グループ

【図 1 5 A】



PI (垂直) 及びCFSE
(水平) を含むフローサイト
メトリーの結果

【図 15 B】



【図 15 C】

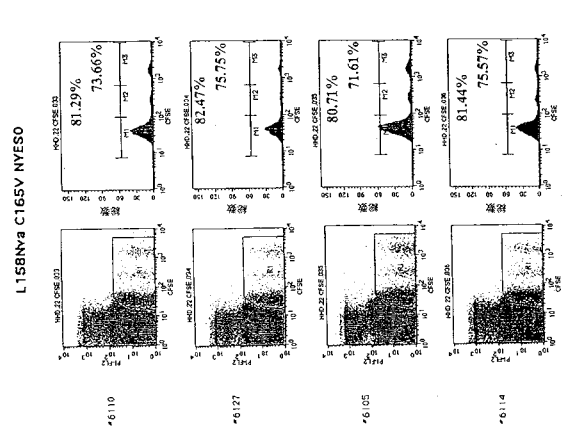
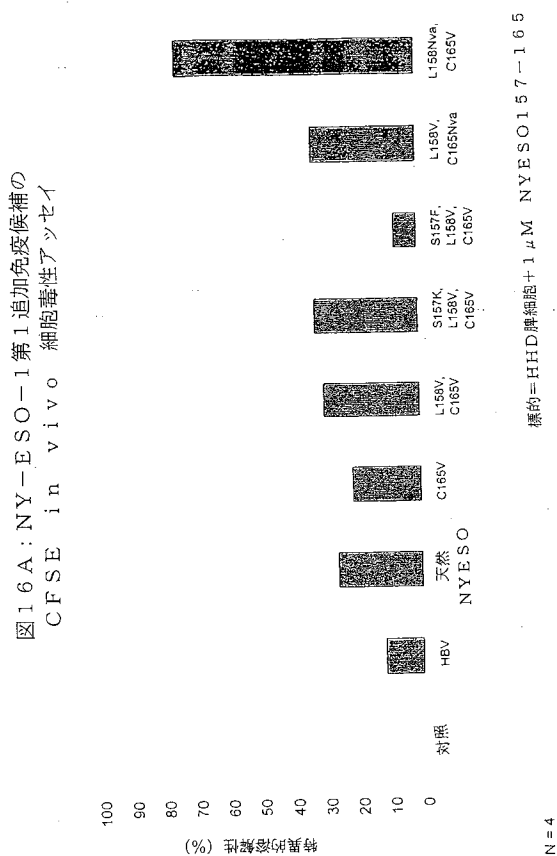
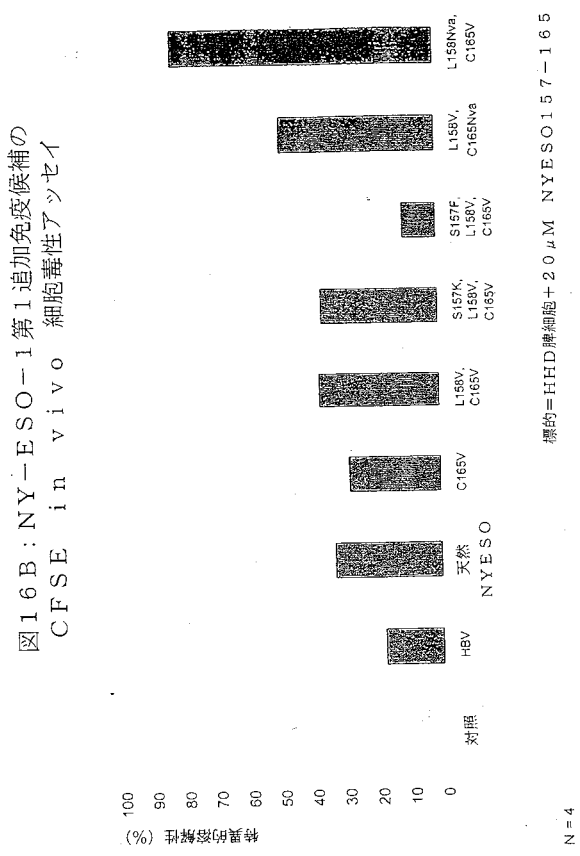


図 15 C: (L158Nva, C165V)

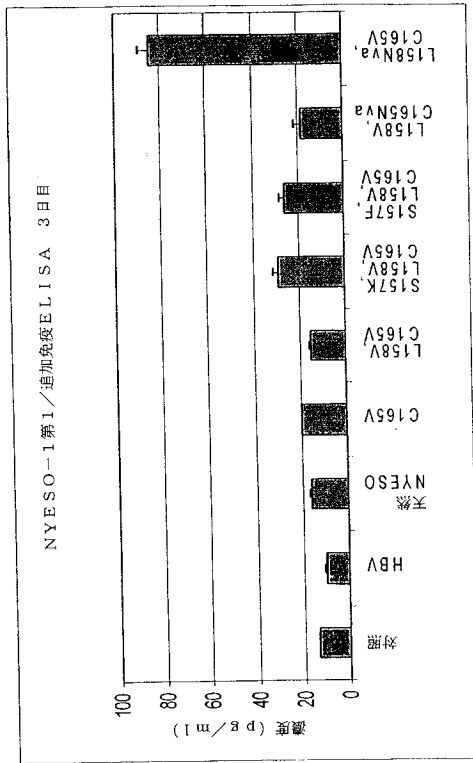
【図 16 A】



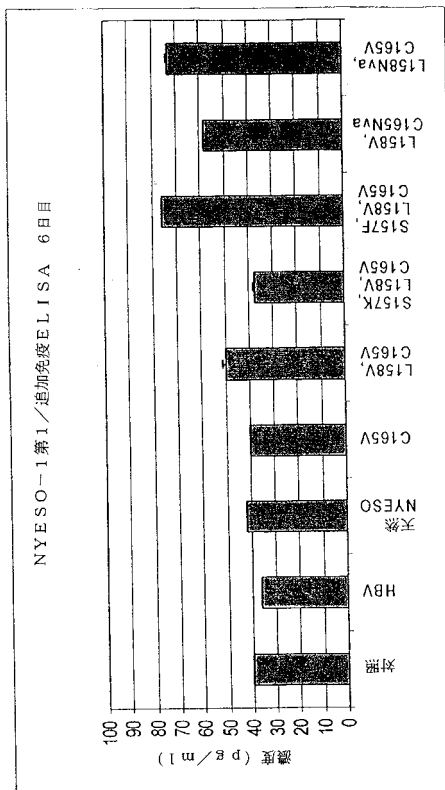
【図 16 B】



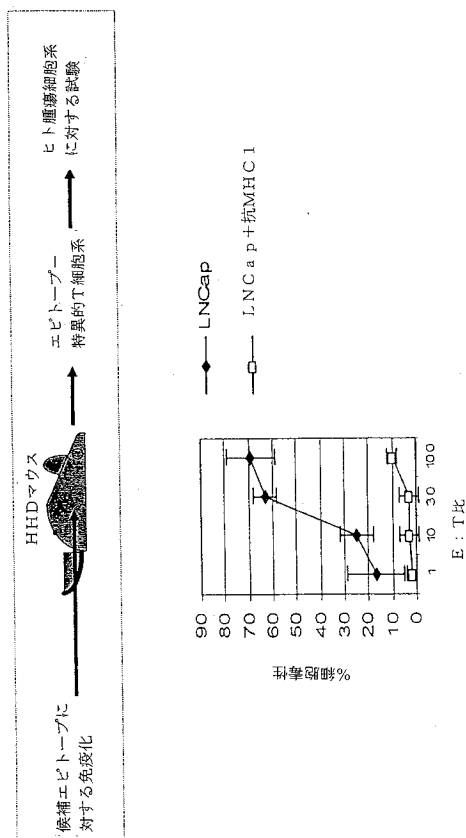
【図 17 A】



【図 17 B】



【図 18】



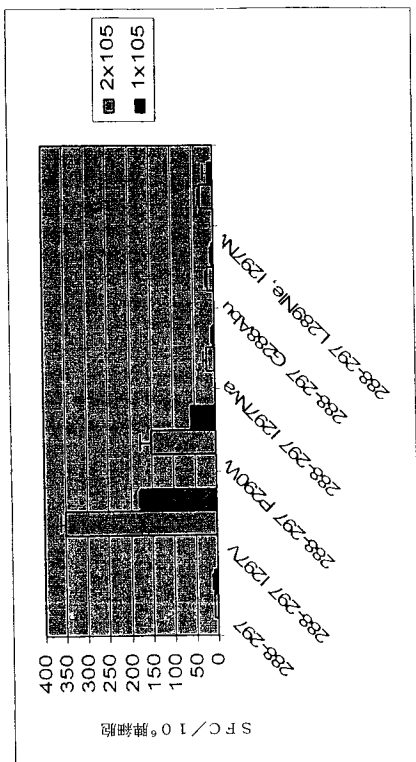
【図 19】

図 19: P S M A₂₈₈₋₂₉₇ の 1 置換アナログ

配列番号	ペプチド名	配列	%結合	反応性 (1/100)	反応性 (1/200)	反応性 (1/400)
1	PSMA 288-297	GLSPFVPEI	66.3	1.30E-06	5.94	0.693
2	PSMA 288-297 (L386A)	GMSPFVPEI	93.2	1.27E-06	3.340	0.605
3	PSMA 288-297 (L386V)	GLSPFVPEI	75.3	1.27E-06	3.340	0.605
4	PSMA 288-297 (L386I)	GLSPFVPEI	75.3	1.27E-06	3.340	0.605
5	PSMA 288-297 (L386N)	GLSPFVPEI	75.3	1.27E-06	3.340	0.605
6	PSMA 288-297 (L386D)	GLSPFVPEI	69.9	2.14E-06	0.212	0.105
7	PSMA 288-297 (L386Q)	GLSPFVPEI	100.0	5.94E-07	4.302	0.81
8	PSMA 288-297 (L386K)	GLSPFVPEI	100.0	5.94E-07	4.302	0.81
9	PSMA 288-297 (L386E)	GLSPFVPEI	100.0	5.94E-07	4.302	0.81
10	PSMA 288-297 (L386S)	GLSPFVPEI	67.7	1.30E-06	5.94	0.693
11	PSMA 288-297 (G386S)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
12	PSMA 288-297 (G386A)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
13	PSMA 288-297 (G386V)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
14	PSMA 288-297 (G386I)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
15	PSMA 288-297 (G386N)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
16	PSMA 288-297 (G386D)	SLSPFVPEI	87.7	1.30E-06	5.94	0.693
17	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
18	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
19	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
20	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
21	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
22	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
23	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
24	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
25	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
26	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
27	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
28	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
29	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
30	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
31	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
32	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
33	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
34	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
35	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
36	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
37	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
38	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
39	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
40	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
41	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
42	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
43	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
44	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
45	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
46	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
47	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
48	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
49	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
50	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
51	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
52	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
53	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
54	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
55	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
56	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
57	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
58	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
59	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
60	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
61	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
62	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
63	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
64	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
65	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
66	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
67	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
68	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
69	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
70	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
71	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
72	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
73	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
74	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
75	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
76	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
77	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
78	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
79	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
80	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
81	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
82	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
83	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
84	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
85	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
86	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
87	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
88	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
89	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
90	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
91	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
92	PSMA 288-297 (P386D)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
93	PSMA 288-297 (P386Q)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
94	PSMA 288-297 (P386K)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
95	PSMA 288-297 (P386E)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
96	PSMA 288-297 (P386S)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
97	PSMA 288-297 (P386A)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
98	PSMA 288-297 (P386V)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
99	PSMA 288-297 (P386I)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989
100	PSMA 288-297 (P386N)	GLSPFVPEI	90.4	6.10E-07	8.98	0.989

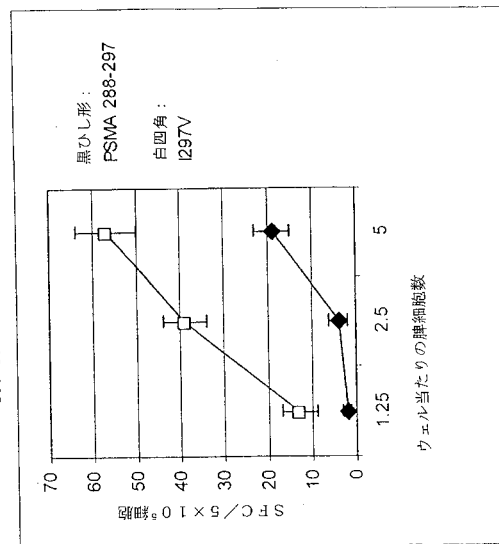
【図 2 2】

図 22 : エリスポット測定を用いた、様々なPSMA₂₈₈₋₂₉₇アナログの免疫原性



【図 2 3】

図 23 : エリスポット測定を用いた、I 297Vアナログによる抗PSMA₂₈₈₋₂₉₇応答の増幅



【図 2 0】

図 20 : PSMA 288-297 の 2 離体アナログ

カテゴリー	配列番号	ペプチド名	配列	%結合	安定性 (t1/2)	1 スコア	反応性 (F _{max})
天然	1	PSMA 288-297	CLSPVHPV	86.3	1.355E-07	5.341	27.29
N末端の第1アンカー及びC末端の第1アンカー	2	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	82.2	3.446E-07	1.044	5.27
	3	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	86.3	5.435E-07	4.305	13.81
	4	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	87.3	1.978E-06	6.355	28.47
	5	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	5.248E-07	1.065	5.23
	6	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	82.4	2.71E-06	10.332	57.45
	7	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	78.3	3.225E-06	0.801	8.42
	8	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	9	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	10	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	11	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	12	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	13	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	14	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	15	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	16	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	17	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	18	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	19	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	20	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	21	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	22	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	23	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	24	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	25	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	26	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	27	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	28	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	29	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	30	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	31	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	32	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	33	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	34	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	35	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	36	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	37	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	38	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	39	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	40	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	41	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	42	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	43	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	44	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	45	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	46	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	47	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	48	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	49	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	50	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	51	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	52	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	53	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42
	54	PSMA 288-297 (L289V, L297V)	GNVWSPVHPV	84.6	3.225E-06	0.801	8.42

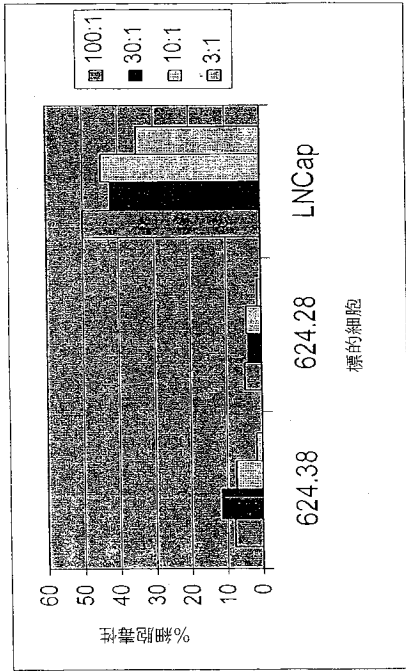
【図 2 1】

図 21 : PSMA 288-297 の 3 離体アナログ

カテゴリー	配列番号	ペプチド名	配列	%結合	安定性 (t1/2)	1 スコア	反応性 (F _{max})
天然	1	PSMA 288-297	CLSPVHPV	86.3	1.355E-07	5.341	27.29
N末端の第1アンカー及びC末端の第1アンカー	42	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	96.6	1.307E-06	13.559	26.59
	43	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	83.1	8.418E-07	4.536	5.20
	44	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	90.8	1.307E-06	13.559	26.59
	45	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	90.8	1.307E-06	13.559	26.59
N末端の第1アンカー及びC末端の第1アンカー	46	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	85.9	1.307E-06	13.559	26.59
	47	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	78.3	1.005E-06	2.755	15.04
	48	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	84.9	2.544E-07	16.07	1.08
N及びC末端の第1アンカー及びC末端の第1アンカー	49	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	102.2	1.375E-06	17.756	60.91
	50	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	78.2	3.665E-07	0.707	0.02
	51	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	92.4	2.747E-06	3.708	8.1
	52	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	102.3	4.817E-07	13.555	1.672
	53	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	108.5	4.333E-06	13.715	1.089
	54	PSMA 288-297 (G288A, L289V, L297V)	ANVWSPVHPV	108.5	4.333E-06	13.715	1.089

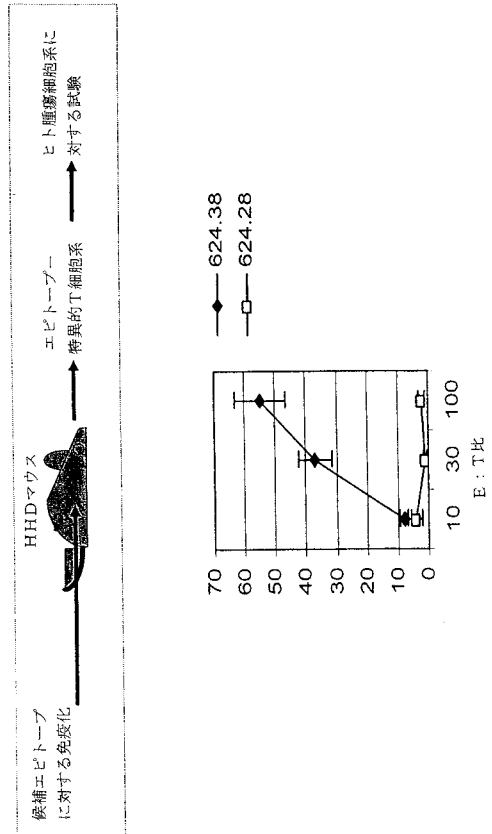
【図 2 4】

図 2 4 : I 2 9 7 V エピトープアナログの追加免疫は P S M A + ヒト腫瘍細胞系に対して細胞毒性免疫をもたらし



【図 2 5】

図 2 5 : P R A M E₄₂₈₋₄₃₃ エピトープの検証 - 特異的 T 細胞系によるヒト腫瘍細胞の溶解



【図 2 6】

図 2 6 : P R A M E₄₂₈₋₄₃₃ の 1 置換アナログ

カテゴリー	配列	ペプチド名	配列	%結合	ED50 (M)	安定性 (t1/2) (時間)	正転写した IFN- γ 産生としての交差反応性
天然	1	Prime 428-433	SLQHLGL	61	7.18E-07	12.2	1.17
	2	Prime 428-433 (L428V)	SLQHLGV	66	9.84E-07	7.1	0.40
	3	Prime 428-433 (L428I)	SLQHLGI	100	9.84E-07	10.3	1.14
	4	Prime 428-433 (L428M)	SLQHLGM	76	9.84E-07	9.4	0.80
	5	Prime 428-433 (L428N)	SLQHLGN	93	1.91E-06	12.6	0.96
	6	Prime 428-433 (L428Q)	SLQHLGQ	92	1.91E-06	11.4	1.00
	7	Prime 428-433 (L428R)	SLQHLGR	73	1.91E-06	11.4	0.80
	8	Prime 428-433 (L428S)	SLQHLGS	84	4.33E-07	10.7	1.88
	9	Prime 428-433 (L428T)	SLQHLGT	89	4.33E-07	11.8	1.34
	10	Prime 428-433 (L428Y)	SLQHLGY	89	1.42E-06	9.3	0.92
	11	Prime 428-433 (L428F)	SLQHLGF	88	2.22E-06	10.0	0.89
	12	Prime 428-433 (S425Q)	QMLHLGL	89	2.22E-06	10.0	0.89
L428Rの置換	13	Prime 428-433 (S425R)	HLHLGL	90	1.30E-06	10.6	1.01
	14	Prime 428-433 (L428V)	SLQHLGV	75	9.84E-07	11.9	0.40
	15	Prime 428-433 (L428I)	SLQHLGI	80	9.84E-07	13.6	0.72
	16	Prime 428-433 (L428M)	SLQHLGM	80	9.84E-07	13.6	0.72
	17	Prime 428-433 (L428N)	SLQHLGN	96	7.18E-07	14.8	1.40
	18	Prime 428-433 (L428Q)	SLQHLGQ	92	7.18E-07	12.3	1.25
	19	Prime 428-433 (L428R)	SLQHLGR	81	1.30E-06	12.3	0.93
	20	Prime 428-433 (L428S)	SLQHLGS	89	1.30E-06	12.3	0.93
	21	Prime 428-433 (L428T)	SLQHLGT	86	1.30E-06	10.7	0.72
	22	Prime 428-433 (L428Y)	SLQHLGY	81	1.30E-06	12.3	0.72
	23	Prime 428-433 (L428F)	SLQHLGF	81	1.30E-06	11.7	0.24
L428Fの置換	24	Prime 428-433 (L428I)	SLQHLGI	76	9.84E-07	10.1	0.72
	25	Prime 428-433 (L428M)	SLQHLGM	74	9.84E-07	10.1	0.72
	26	Prime 428-433 (L428N)	SLQHLGN	61	9.84E-07	11.2	1.07
	27	Prime 428-433 (L428Q)	SLQHLGQ	74	9.84E-07	11.2	1.07
	28	Prime 428-433 (L428R)	SLQHLGR	74	9.84E-07	10.6	0.61
	29	Prime 428-433 (L428S)	SLQHLGS	74	9.84E-07	10.6	0.61
	30	Prime 428-433 (L428T)	SLQHLGT	78	9.84E-07	10.6	0.44
	31	Prime 428-433 (L428Y)	SLQHLGY	78	9.84E-07	10.6	0.44
	32	Prime 428-433 (L428F)	SLQHLGF	78	9.84E-07	10.6	0.44
	33	Prime 428-433 (L428I)	SLQHLGI	78	9.84E-07	10.6	0.44
	34	Prime 428-433 (L428M)	SLQHLGM	78	9.84E-07	10.6	0.44
	35	Prime 428-433 (L428N)	SLQHLGN	78	9.84E-07	10.6	0.44

【図 2 7 A】

図 2 7 A : P R A M E₄₂₈₋₄₃₃ の 2 置換アナログ

カテゴリー	配列	ペプチド名	配列	%結合	ED50 (M)	安定性 (t1/2) (時間)	正転写した IFN- γ 産生としての交差反応性
天然	1	Prime 428-433	SLQHLGL	61	7.18E-07	12.2	1.17
	2	Prime 428-433 (S425R, L428N)	FLVHLGL	106	4.51E-07	11.7	1.46
	3	Prime 428-433 (S425R, L428I)	FLVHLGI	87	2.39E-06	10.7	0.92
	4	Prime 428-433 (S425R, L428M)	FLVHLGM	87	2.39E-06	10.7	0.92
	5	Prime 428-433 (S425R, L428N)	FLVHLGN	80	1.44E-06	13.6	1.12
	6	Prime 428-433 (S425R, L428Q)	FLVHLGQ	88	5.07E-06	12.3	0.85
	7	Prime 428-433 (S425R, L428R)	FLVHLGR	118	5.07E-06	11.4	0.85
	8	Prime 428-433 (S425R, L428S)	FLVHLGS	110	5.07E-06	11.4	0.85
	9	Prime 428-433 (S425R, L428T)	FLVHLGT	100	2.35E-06	12.8	1.07
	10	Prime 428-433 (S425R, L428Y)	FLVHLGY	100	2.35E-06	12.8	1.07
	11	Prime 428-433 (S425R, L428F)	FLVHLGF	60	2.35E-06	9.9	0.72
	12	Prime 428-433 (S425R, L428I)	FLVHLGI	100	2.35E-06	12.8	0.92
L428Rの置換	13	Prime 428-433 (S425R, L428M)	FLVHLGM	109	2.35E-06	11.7	1.62
	14	Prime 428-433 (S425R, L428N)	FLVHLGN	83	2.35E-06	9.2	0.72
	15	Prime 428-433 (S425R, L428Q)	FLVHLGQ	93	2.35E-06	11.7	0.72
	16	Prime 428-433 (S425R, L428R)	FLVHLGR	96	2.35E-06	10.3	1.89
	17	Prime 428-433 (S425R, L428S)	FLVHLGS	87	2.35E-06	10.1	1.07
	18	Prime 428-433 (S425R, L428T)	FLVHLGT	75	2.35E-06	8.1	0.66
	19	Prime 428-433 (S425R, L428Y)	FLVHLGY	75	2.35E-06	8.1	0.66
	20	Prime 428-433 (S425R, L428F)	FLVHLGF	75	2.35E-06	8.1	0.66
	21	Prime 428-433 (S425R, L428I)	FLVHLGI	75	2.35E-06	8.1	0.66
	22	Prime 428-433 (S425R, L428M)	FLVHLGM	75	2.35E-06	8.1	0.66
	23	Prime 428-433 (S425R, L428N)	FLVHLGN	75	2.35E-06	8.1	0.66
	24	Prime 428-433 (S425R, L428Q)	FLVHLGQ	75	2.35E-06	8.1	0.66

【図 27 B】

図 27 B : PRAME₄₂₅₋₄₃₃ の 2 置換アナログ

カテゴリ	配列 番号	ペプチド名	配列	%結合	ED ₅₀ (nM)	安定性 (t _{1/2}) (時間)	正相化した (t _{1/2}) (時間)	正相化した IFN- γ 産生 としての交差反応性
N末端の第1アンカー 及びC末端の第1アンカー	1	Prime 425-433	SLLOHLGL	81	7.15E-07	12.2	1.17	1.00
	50	Prime 425-433 (L426(Na), L433(Ne))	SLNQLQHLGNVa	91	2.93E-06	13.2	0.89	*
	51	Prime 425-433 (L426(Na), L433(Ne))	SLNQLQHLGNNe	93	8.47E-07	13.7	1.27	0.89
	52	Prime 425-433 (L426(Na), L433V)	SLNQLQHLGV	88	2.90E-06	16.0	1.05	*
	53	Prime 425-433 (L426(Ne), L433(Ne))	SLNQLQHLGNNe	90	*	12.5	*	*
	54	Prime 425-433 (L426(Ne), L433(Ne))	SLNQLQHLGNNe	100	*	13.3	*	*
	55	Prime 425-433 (L426(Ne), L433V)	SLNQLQHLGV	89	8.97E-07	13.4	1.37	*
	56	Prime 425-433 (L426(Ne), L433(Ne))	SLNQLQHLGNNe	104	6.14E-07	11.2	1.34	*
	57	Prime 425-433 (L426(Ne), L433(Ne))	SLNQLQHLGNNe	97	9.40E-07	15.5	1.36	*
	58	Prime 425-433 (L426(Ne), L433V)	SLNQLQHLGV	77	14.2	14.2	*	*
N末端の第2アンカー 及びC末端の第1アンカー	59	Prime 425-433 (S425F, L433V)	KLLOHLGV	170	7.16E-07	16.3	1.64	*
	60	Prime 425-433 (S425F, L433V)	KLLOHLGV	91	14.3	14.3	*	*
	61	Prime 425-433 (S425F, L433V)	KLLOHLGV	85	17.2	17.2	*	*
	62	Prime 425-433 (S425F, L433V)	KLLOHLGV	79	2.74E-06	12.9	0.89	*
	63	Prime 425-433 (S425F, L433V)	KLLOHLGV	88	1.53E-07	29.3	2.14	1.16
	64	Prime 425-433 (S425F, L433(Ne))	KLLOHLGNNe	88	1.25E-06	13.3	1.15	0.15
	65	Prime 425-433 (S425F, L433(Ne))	KLLOHLGNNe	88	1.25E-06	13.3	1.15	0.15
	66	Prime 425-433 (S425F, L433(Ne))	KLLOHLGNNe	88	1.25E-06	13.3	1.15	0.15
	67	Prime 425-433 (S425F, L433(Ne))	KLLOHLGNNe	88	1.25E-06	13.3	1.15	0.15
	68	Prime 425-433 (S425F, L433(Ne))	KLLOHLGNNe	88	1.25E-06	13.3	1.15	0.15

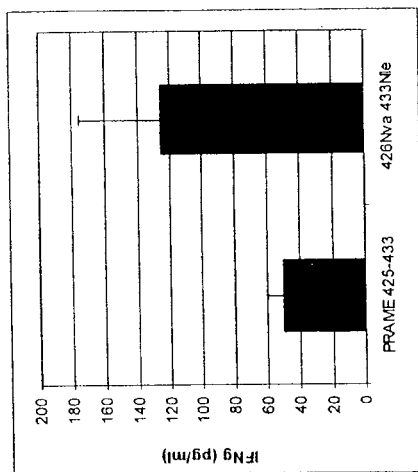
【図 28】

図 28 : PRAME₄₂₅₋₄₃₃ の 3 置換アナログ

カテゴリ	配列 番号	ペプチド名	配列	%結合	ED50 (nM)	安定性 (t1/2) (時間)	正相化した IFN-γ 産生 としての 交差反応性	
N末端の第1アンカー及び C末端の第1アンカー	1	Prime 425-433	SLLOHLGL	81	7.15E-07	12.2	1.17	1.00
	67	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	108	1.15E-07	25.3	2.78	0.82
	68	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	113	2.33E-07	19.9	2.05	0.92
	69	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	113	2.33E-07	19.9	2.05	0.92
	70	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND
	71	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND
	72	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND
	73	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND
	74	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND
	75	Prime 425-433 (S425F, L426(Ne), L433(Ne))	KLLOHLGNMe	97	6.90E-07	13.3	1.36	ND

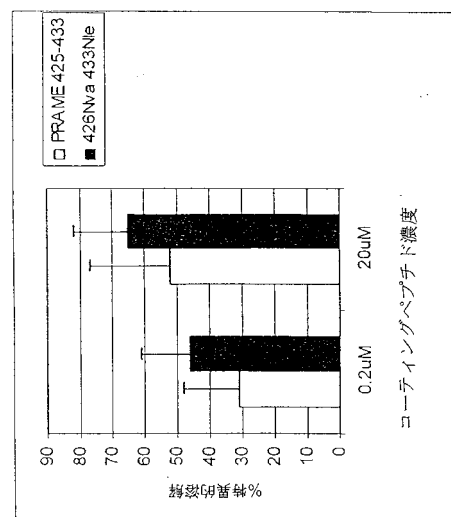
【図 29】

図 29 : エリスポット測定を用いた
PRAME₄₂₅₋₄₃₃ アナログの免疫原性



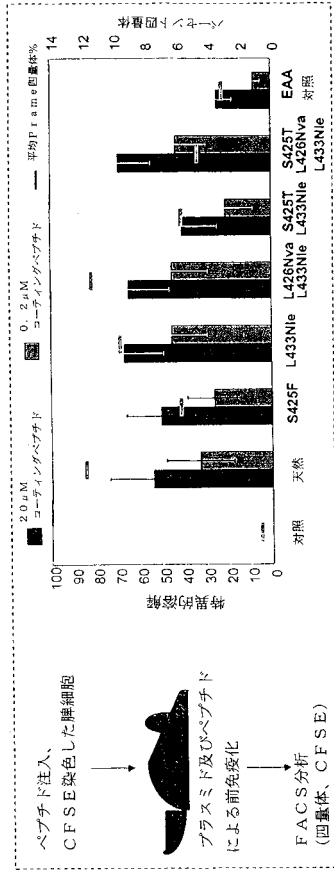
【図 30】

図 30 : L426Nva L433Nieエピソードアナログの追加免疫は天然エピソードでコーティングされた細胞に対する in vivo 細胞毒性をもたらす



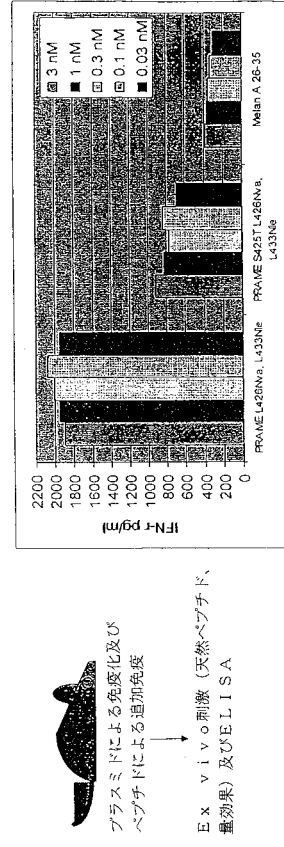
【図 3 1】

図 31: PRAMEアナログの in vivo 評価



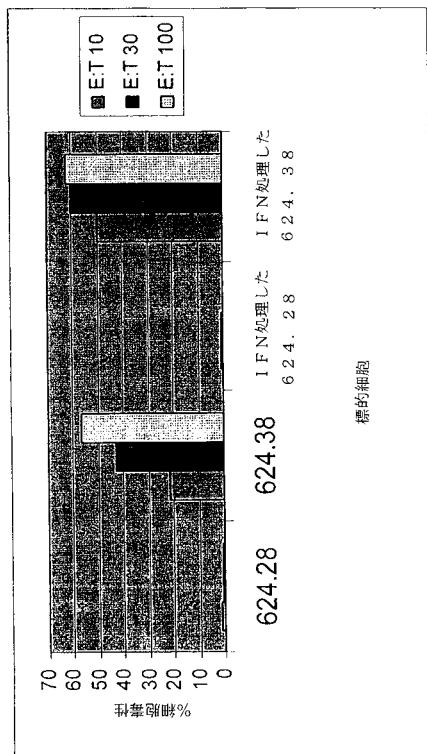
【図 3 2】

図 32: アナログ誘導、天然エピトープで再刺激された T 細胞の Ex vivo サイトカイン産生



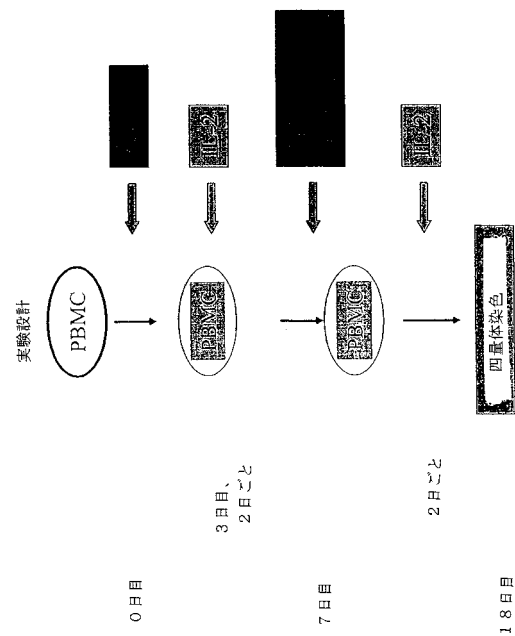
【図 3 3】

図 33: L426Nva L433Nieアナログによる追加免疫は人腫瘍細胞系に対する細胞毒性免疫をもたらす



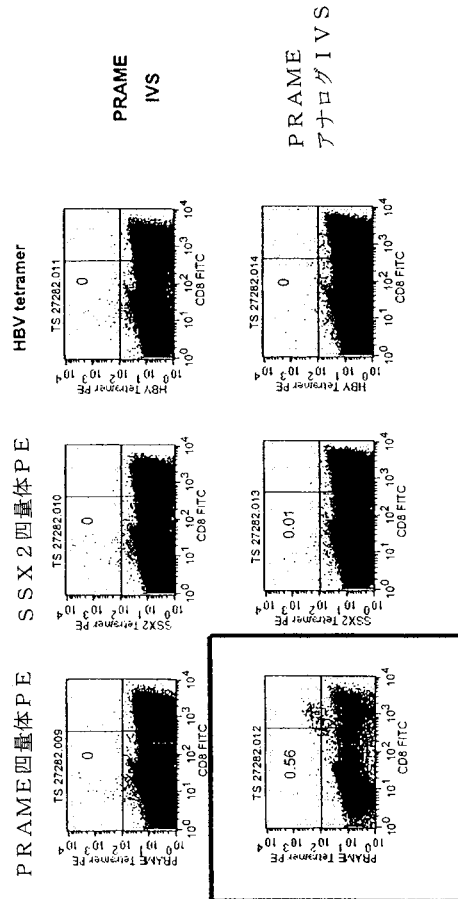
【図 3 4】

図 34: In vitro 免疫化



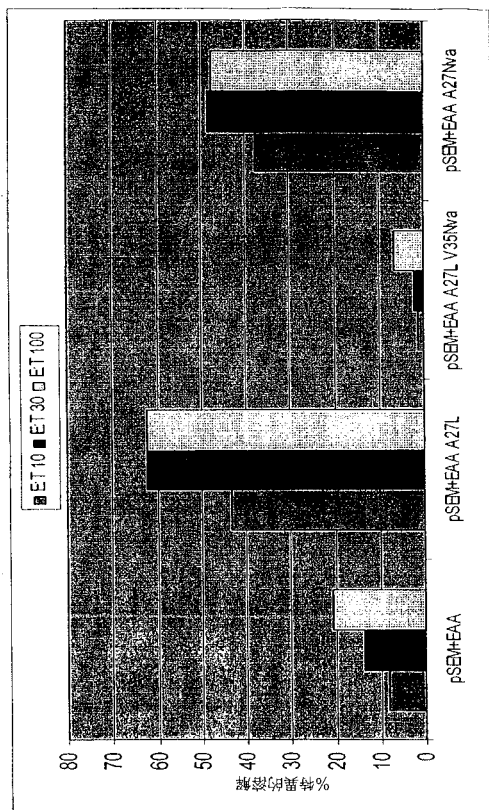
【図 35】

図 35 : PRAME アナログによる in vitro 免疫化は四量体+細胞を生成する



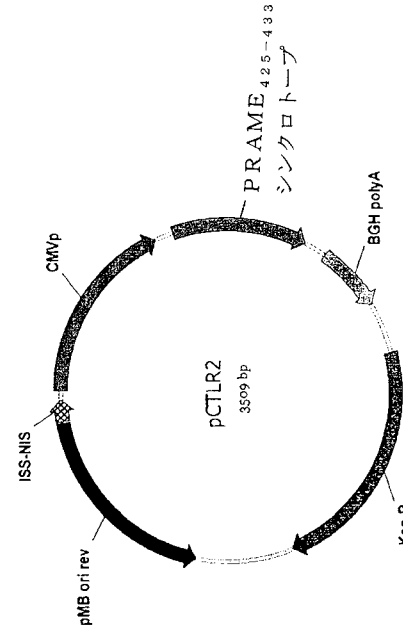
【図 37】

図 37 : プラスミド DNA の提供及びペプチドによる追加免疫を受けている T 細胞による 624.38 細胞の溶解



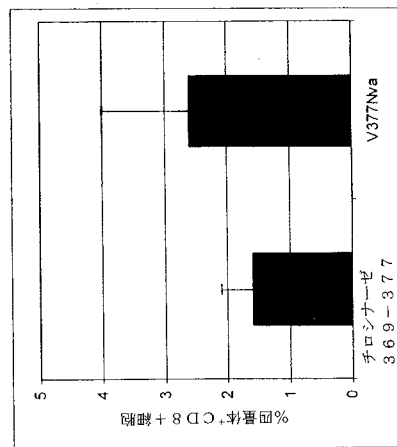
【図 36】

図 36 : PRAME₄₂₅₋₄₃₃ エピトープを発現するプラスミド、pCTRL2



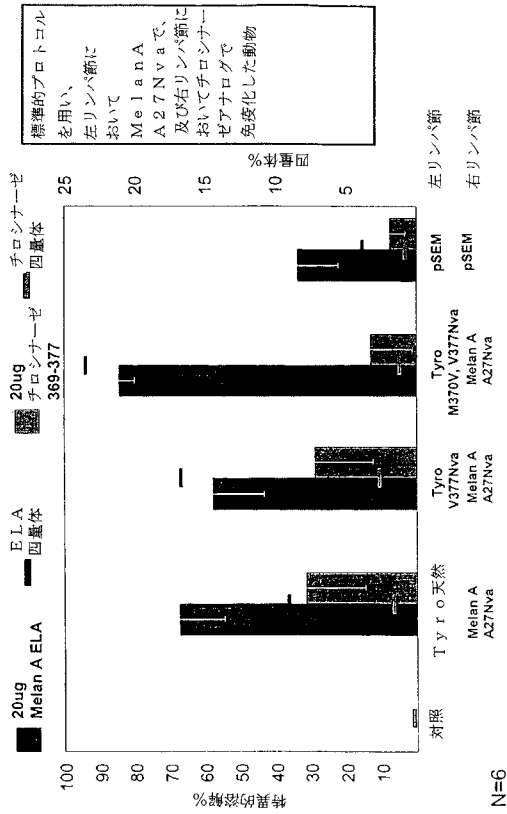
【図 38】

図 38 : T_Y 369-377 四量体染色 (プラスミドの提供、ペプチドによる追加免疫)



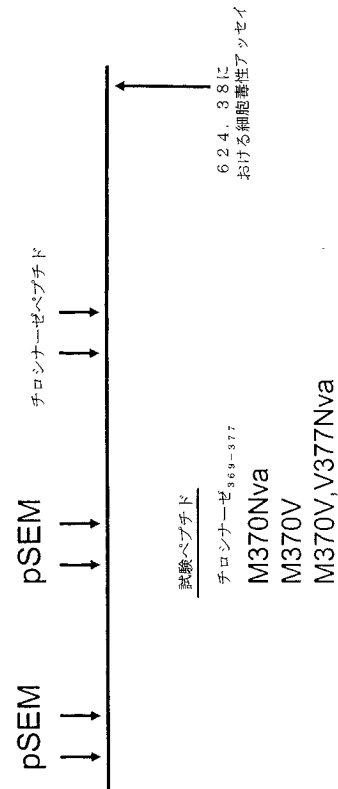
【図 39】

図 39：多価MelanA A27Nva/チロシナーゼアナログ免疫化動物
を用いたCFSEのin vivo誘導



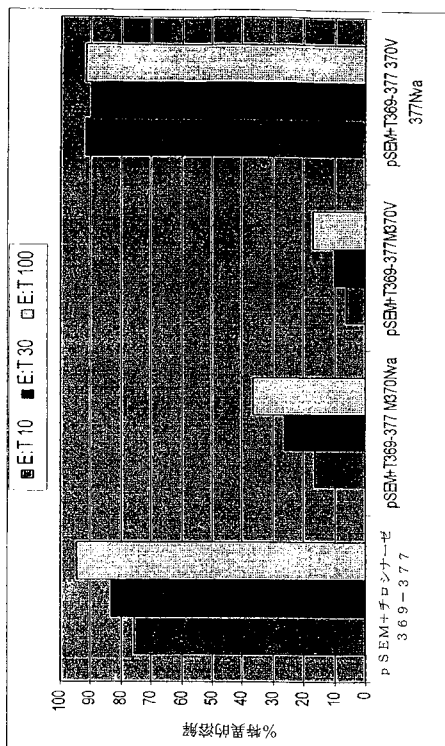
【図 40】

図 40：アナログ免疫原性評価プロトコルのスキーム



【図 41】

図 41：624, 38細胞に対する免疫応答 pSEMが提供され、
Tyro 369-377アナログで追加免疫されたHHDからの
エフェクター細胞



【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No

PCT/US2005/021609

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

C07K14/47 A61K38/00 C07K14/435

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

C07K A61K

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)

EPO-Internal, WPI Data, PAJ, CHEM ABS Data, EMBASE, BIOSIS

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2004/011483 A (LUDWIG INSTITUTE FOR CANCER RESEARCH; TORREY PINES INSTITUTE FOR MOLEC) 5 February 2004 (2004-02-05) the whole document examples 6-8	1-22
Y	WO 02/081646 A (CTL IMMUNOTHERAPIES CORP; MANNKIND CORPORATION) 17 October 2002 (2002-10-17) the whole document example 3; table 6 table 198 page 48 - page 49; example 2; table 3 ----- -/--	1-22

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

A document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

E earlier document but published on or after the international filing date

L document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

O document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

P document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

T later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

X document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

Y document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art.

G document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

2 February 2006

Date of mailing of the international search report

02.05.2006

Name and mailing address of the ISA/

European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2
NL - 2280 HV Rijswijk
Tel. (+31-70) 340-2040, Tx. 31 651 epo nl,
Fax: (+31-70) 340-3016

Authorized officer

Cervigni, S

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No

PCT/US2005/021609

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	BOWNDS S ET AL: "Induction of tumor-reactive cytotoxic T-lymphocytes using a peptide from NY-ESO-1 modified at the carboxy-terminus to enhance HLA-A2.1 binding affinity and stability in solution." JOURNAL OF IMMUNOTHERAPY (HAGERSTOWN, MD. : 1997) 2001 JAN-FEB, vol. 24, no. 1, January 2001 (2001-01), pages 1-9, XP002365301 ISSN: 1524-9557 page 4	23-45
X	WO 01/36453 A (LUDWIG INSTITUTE FOR CANCER RESEARCH; CHANCELLORS, MASTERS & SCHOLARS) 25 May 2001 (2001-05-25) the whole document example 19	23-45
Y	FALK K ET AL: "Allele-specific motifs revealed by sequencing of self-peptides eluted from MHC molecules." NATURE. 23 MAY 1991, vol. 351, no. 6324, 23 May 1991 (1991-05-23), pages 290-296, XP000310533 ISSN: 0028-0836 page 293; table 4	1-90
Y	ZHANG C ET AL: "Structural principles that govern the peptide-binding motifs of class I MHC molecules" JOURNAL OF MOLECULAR BIOLOGY, LONDON, GB, vol. 281, no. 5, 4 September 1998 (1998-09-04), pages 929-947, XP004457438 ISSN: 0022-2836 the whole document	1-90
Y	BAKKER A B H ET AL: "ANALOGUES OF CTL EPITOPES WITH IMPROVED MHC CLASS-I BINDING CAPACITY ELICIT ANTI-MELANOMA CTL RECOGNIZING THE WILD-TYPE EPITOPE" INTERNATIONAL JOURNAL OF CANCER, NEW YORK, NY, US, vol. 70, no. 3, 1997, pages 302-309, XP000917224 ISSN: 0020-7136 the whole document	1-90
X	WO 02/102299 A (TECHNION RESEARCH AND DEVELOPMENT FOUNDATION LTD; REITER, YORAM; LEV,) 27 December 2002 (2002-12-27) the whole document pages 39-45	1-90

-/--

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2005/021609

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 2004/016643 A (YEDA RESEARCH AND DEVELOPMENT CO. LTD; EISENBACH, LEA; TIROSH, BOAZ; C) 26 February 2004 (2004-02-26) page 30 - page 32	1-90
X	WO 03/076585 A (BOARD OF REGENTS, THE UNIVERSITY OF TEXAS SYSTEM; IOANNIDES, CONSTANTIN) 18 September 2003 (2003-09-18) page 16 table 2	1-90
X	BARATIN MYRIAM ET AL: "Amino acid modifications in the wild type sequence p53 232-240 overcome the poor immunogenicity of this self tumour epitope." JOURNAL OF PEPTIDE SCIENCE : AN OFFICIAL PUBLICATION OF THE EUROPEAN PEPTIDE SOCIETY. JUL 2002, vol. 8, no. 7, July 2002 (2002-07), pages 327-334, XP002365302 ISSN: 1075-2617 the whole document table 1	46-90
X	SASADA T ET AL: "Thymic selection is influenced by subtle structural variation involving the p4 residue of an MHC class I-bound peptide." EUROPEAN JOURNAL OF IMMUNOLOGY. MAY 2000, vol. 30, no. 5, May 2000 (2000-05), pages 1281-1289, XP001008071 ISSN: 0014-2980 the whole document figure 5	46-90

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/US2005/021609**Box II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of Item 2 of first sheet)**

This International Search Report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. ☒ Claims Nos.: 17-19, 38-41, 87-88
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
Although claims 17-19, 38-41, 87-88 are directed to a method of treatment of the human/animal body, the search has been carried out and based on the alleged effects of the compound/composition.
2. ☐ Claims Nos.:
because they relate to parts of the International Application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful International Search can be carried out, specifically:
3. ☐ Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of Item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this International application, as follows:

see additional sheet

1. ☒ As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this International Search Report covers all searchable claims.
2. ☐ As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. ☐ As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this International Search Report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. ☐ No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this International Search Report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest

- ☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
- ☒ No protest accompanied the payment of additional search fees.

International Application No. PCT/US2005/021609

FURTHER INFORMATION CONTINUED FROM PCT/ISA/ 210

This International Searching Authority found multiple (groups of) inventions in this international application, as follows:

1. claims: 1-22

An isolated peptide obtained after one or more substitutions of the wild-type SSX-241-49 epitope sequence KASEKIFYV

2. claims: 23-45

An isolated peptide obtained after one or more substitutions of the wild-type NY-ESO-1157-165 epitope sequence SLLMWITQC;

3. claims: 46-90

"A peptide having an amino acid sequence comprising at least one difference from a sequence of a segment of a target-associated antigen '...' wherein the at least one difference is a Nle or Nva residue replacing a residue at an MHC-binding motif anchor position in said segment".

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No

PCT/US2005/021609

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
WO 2004011483 A	05-02-2004	AU 2003261254 A1	16-02-2004
WO 02081646 A	17-10-2002	CA 2442386 A1	17-10-2002
		CN 1512891 A	14-07-2004
		EP 1383528 A2	28-01-2004
		JP 2005509404 T	14-04-2005
		WO 03008537 A2	30-01-2003
WO 0136453 A	25-05-2001	AU 776058 B2	26-08-2004
		AU 3079101 A	30-05-2001
		CA 2390659 A1	25-05-2001
		EP 1230261 A2	14-08-2002
		JP 2003533175 T	11-11-2003
WO 02102299 A	27-12-2002	CA 2451353 A1	27-12-2002
		CZ 20040079 A3	10-11-2004
		EP 1409547 A2	21-04-2004
		HU 0400231 A2	30-05-2005
		JP 2005506058 T	03-03-2005
		US 2003017134 A1	23-01-2003
		US 2005063970 A1	24-03-2005
WO 2004016643 A	26-02-2004	AU 2003256912 A1	03-03-2004
		EP 1569514 A2	07-09-2005
WO 03076585 A	18-09-2003	AU 2003230603 A1	22-09-2003
		EP 1482963 A2	08-12-2004

フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I	テーマコード (参考)
A 6 1 K	39/39	(2006.01)	A 6 1 K 39/39
A 6 1 P	31/12	(2006.01)	A 6 1 P 31/12
A 6 1 P	35/00	(2006.01)	A 6 1 P 35/00
A 6 1 P	35/02	(2006.01)	A 6 1 P 35/02
A 6 1 P	37/04	(2006.01)	A 6 1 P 37/04

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), EP(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW

(72)発明者 リウ, リビン
アメリカ合衆国 ヴァージニア 20110 マナサス ウィッチ ヘーゼル ウェイ 9318

(72)発明者 ボット, アドリアン
アメリカ合衆国 カリフォルニア 91355 ヴァレンシア カーメリタ ドライブ 27003

(72)発明者 ダiamond, デイビッド シー.
アメリカ合衆国 カリフォルニア 91304 ウェスト ヒルズ ショーンボーン ストリート 23135

(72)発明者 サイ, ジドン
アメリカ合衆国 ヴァージニア 20110 マナサス ウィッチ ヘーゼル ウェイ 9318

Fターム(参考) 4B024 AA01

4C085 AA03 AA38 BB01 CC21 DD62 EE01 EE06 FF13

4H045 BA15 BA16 FA34 FA44 GA21

专利名称(译)	<无法获取翻译>		
公开(公告)号	JP2008510453A5	公开(公告)日	2008-08-07
申请号	JP2007516810	申请日	2005-06-17
[标]申请(专利权)人(译)	曼金德公司		
申请(专利权)人(译)	人类总公司		
[标]发明人	リウリピン ポットアドリアン ダイヤモンドデイビッドシー サイジドン		
发明人	リウ,リピン ポット,アドリアン ダイヤモンド,デイビッド シー. サイ,ジドン		
IPC分类号	C12N15/09 C07K7/06 C07K7/08 G01N33/53 A61K39/00 A61K39/39 A61P31/12 A61P35/00 A61P35/02 A61P37/04		
CPC分类号	C07K7/06 A61K38/00 C07K14/4748		
FI分类号	C12N15/00.ZNA.A C07K7/06 C07K7/08 G01N33/53.D A61K39/00.H A61K39/39 A61P31/12 A61P35/00 A61P35/02 A61P37/04		
F-TERM分类号	4B024/AA01 4C085/AA03 4C085/AA38 4C085/BB01 4C085/CC21 4C085/DD62 4C085/EE01 4C085/EE06 4C085/FF13 4H045/BA15 4H045/BA16 4H045/FA34 4H045/FA44 4H045/GA21		
代理人(译)	川口义行 远山 勉		
优先权	60/581001 2004-06-17 US 60/580962 2004-06-17 US		
其他公开文献	JP5166025B2 JP2008510453A		

摘要(译)

一些实施方案涉及对应于I类MHC限制性T细胞表位的肽的类似物及其产生方法。这些类似物可以在与MHC分子直接相互作用的残基处含有氨基酸取代，并且可以赋予改善的，修饰的或有用的免疫学性质。此外，公开了各种类似物，其中各种取代包括非标准残基正亮氨酸和/或正缬氨酸。